

琵琶湖博物館業績目録

第 17 号

2012 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2013 年 10 月

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 17

From April 2012 to March 2013

Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: KUSAKA, Shingo)

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© Lake Biwa Museum, October 2013

All rights reserved

目 次

収録内容	3
館長		
篠原 徹	SHINOHARA, Toru	5
上席総括研究員		
藤岡 康弘	FUJIOKA, Yasuhiro	8
上席総括学芸員		
用田 政晴	YODA, Masaharu	11
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi	15
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark Joseph	18
環境史研究担当		
山川 千代美	YAMAKAWA, Chiyomi	23
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi	26
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori	30
楊 平	YANG, Ping	33
老 文子	OI, Fumiko	37
井関 明子	ISEKI, Akiko	39
林 竜馬	HAYASHI, Ryoma	41
大久保実香	OKUBO, Mika	45
生態系研究担当		
松田 征也	MATSUDA, Masanari	48
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki	52
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro	55
寺尾 尚純	TERAO, Naozumi	58
亀田 佳代子	KAMEDA, Kayoko	61
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki	65
水谷 智	MIZUTANI, Satoshi	67
草加 伸吾	KUSAKA, Shingo	70
楠岡 泰	KUSUOKA, Yasushi	73
中井 克樹	NAKAI, Katsuki	77
榊永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro	88
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James	91
菅原 和宏	SUGAHARA, Kazuhiro	94

博物館学研究担当

大塚 泰介	OHTSUKA, Taisuke	97
戸田 孝	TODA, Takashi	102
芦谷 美奈子	ASHIYA, Minako	105
中藤 容子	NAKATO, Yoko	107
金尾 滋史	KANAO, Shigefumi	111
澤邊 久美子	SAWABE, Kumiko	118
藤橋 和弘	FUJIHASHI, Kazuhiro	122
蜂屋 正雄	HACHIYA, Masao	126

嘱託員

五島 美代子	GOSHIMA, Miyoko	130
藤岡 千裕	FUJIOKA, Chihiro	132
渡邊 潤子	WATANEBE, Junko	134

名誉学芸員

川那部 浩哉	KAWANABE, Hiroya	136
布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo	140
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo	145
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi	147

特別研究員

天野 一葉	AMANO, Hitoha	150
井内 美郎	INOUCHI, Yoshiro	151
植田 文雄	UEDA, Fumio	153
柏尾 珠紀	KASHIO, Tamaki	154
北村 美香	KITAMURA, Mika	156
黒岩 啓子	KUROIWA, Keiko	158
鈴木 隆仁	SUZUKI, Takahito	161
辻川 智代	TSUJIKAWA, Tomoyo	162
中野 正俊	NAKANO, Masatoshi	163
林 博通	HAYASHI, Hiromichi	164
朱 伟	ZHU, Wei	165

総合研究・共同研究による印刷物	166
-----------------	-----

2012 年度の研究活動をふりかえって	168
---------------------	-----

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2012年4月から2013年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

- 【学術論文】
- 【専門分野の著作】
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学の講義・実習、学生の指導など】
- 【受賞など】

博物館事業に関する業績

- 【交流・サービス事業】
 - 琵琶湖博物館の主催行事
 - 他の博物館・機関等主催行事
 - 視察対応
 - メディアへの協力
- 【情報整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動
- 【資料整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【企画調整活動】

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

【海外渡航】

【館外の活動】

印刷物

【一般向けの著作】

- 篠原 徹 (2012) 華麗な暮、華麗な人生. 生態人類学会ニュースレター, 17 別冊, 生態人類学会 : 9-10.
- 篠原 徹 (2012) 湖岸より 155 大湿地帯と近江商人. 中日新聞, 中日新聞社 : 2012 年 4 月 28 日.
- 篠原 徹・秋道智彌 (2012) インタビュー 潟・内湖の自然と文化をめぐって—水辺の境界領域を考える. GRAPHICATION, 180, 富士ゼロックス株式会社 : 3-11.
- 篠原 徹 (2012) 他者を生きる俳句. 俳句, 2012 年 6 月号, 角川学芸出版 : 329.
- 篠原 徹 (2012) ごあいさつ. 琵琶湖博物館第 20 回企画展示 展示解説書「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」, 滋賀県立琵琶湖博物館 : 2-3.
- 篠原 徹 (2012) ごあいさつ. 琵琶湖博物館年報, 16, 滋賀県立琵琶湖博物館 : 1-2.
- 篠原 徹 (2012) 亜熱帯林と草果. 食べられる生きものたち, 月刊みんぱく編集部 : 100-101.
- 篠原 徹 (2012) 湖岸より 167 加茂の「馬駆け神事」. 中日新聞, 中日新聞社 : 2012 年 10 月 13 日.
- 篠原 徹 (2012) 書評「土器づくりの民俗誌—エチオピア女性職人の遅延技術」. アフリカ研究, 81, 土倉事務所・日本アフリカ学会 : 61-63.
- 篠原 徹 (2012) 長浜曳山祭り 批評的鑑賞『子ども役者たち・華麗なる変身』. 長浜曳山祭伝統芸能文化活性化事業報告書, 曳山子ども歌舞伎 編, 公益財団法人長浜曳山文化協会 : 6-7.
- 篠原 徹 (2012) 外部専門家より. 京セラの森づくり 生物多様性レポート, 京セラ(株)滋賀蒲生工場 : 4.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本民俗学会, 評議員, ~2012 年 9 月.
- 日本民俗学会, 理事, 2012 年 10 月～.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2012 年度 (前期), 岡山理科大学, 「博物館学Ⅱ」.
- 2012 年 12 月 17 日, 龍谷大学, 観光経営論「博物館等共用施設と観光」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー 3 件, フロアートーク 4 件, 琵琶湖博物館.
- 2012 年 4 月 7 日, 琵琶湖博物館ギャラリー展示 鉱物・化石展 2012 湖国の大地に夢を掘るⅣ, 琵琶湖博物館, 挨拶.
- 2012 年 6 月 23 日, 琵琶湖博物館入館者 800 万人達成セレモニー, 琵琶湖博物館, 挨拶.
- 2012 年 7 月 14 日, 琵琶湖博物館第 20 回企画展示 ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～, 琵琶湖博物館, オープニングセレモニー, 挨拶.

- 2012年7月26日、ニッセイ・ライブプラザ 丸の内に琵琶湖がやってくる！ーもっと知ろう！日本一の湖ー、滋賀県、オープニングセレモニー、みらいフォレスト（東京都千代田区）、琵琶湖博物館紹介。
- 2012年11月3日、企画展示関連シンポジウム 田んぼに魚がやって来た！、琵琶湖博物館、挨拶。
- 2012年11月10日、琵琶湖を詠むー動植物と人の生活ー、連携講座「琵琶湖 自然と文化」、文化庁ミュージアム活性化支援事業、琵琶湖博物館、講演。
- 2012年12月2日、淡海こどもエコクラブ活動交流会・表彰式、琵琶湖博物館、オブザーバー・選考委員。
- 2013年1月27日、滋賀県博物館協議会30周年記念「滋賀県博協まつり」講演会、滋賀県博物館協議会、琵琶湖博物館、冒頭挨拶。
- 2013年3月10日、講演会「美術館・博物館が日本を支える～東京での「近江路の神と仏 名宝展」を開催して～」、滋賀県博物館協議会研修事業、琵琶湖博物館、冒頭挨拶。

他の博物館・機関等主催行事

- 2012年5月19日、近江と俳諧、財団法人守山野洲市民交流プラザ、第32期（平成24年度）つがやま市民教養文化講座、ライズヴィル都賀山（守山）、講演。
- 2012年5月26日、湖の文化的価値について、NPO法人浜名湖クラブ、第1回総会 設立記念講演会・交流会、浜名湖ロイヤルホテル（静岡県浜松市）、講演。
- 2012年8月24日、琵琶湖セミナー、公益社団法人俳人協会、関西支部俳句セミナー、琵琶湖博物館（草津）、挨拶。
- 2012年10月21日、近江の文化的景観ー近江八景と俳諧ー、岡山理科大学同窓会滋賀支部、岡山理科大学同窓会滋賀支部総会、彦根キャッスルホテル（彦根）、講演。
- 2012年10月25日、自然と技術の文明論ーコンソ・雲南・琵琶湖ー、公益社団法人プレストレストコンクリート工学会、第21回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム、大津プリンスホテル（大津）、特別講演。
- 2012年11月21日、自然と技術、琵琶湖と滋賀の環境に関する試験研究機関連絡会議、滋賀県試験研究機関連絡本会議、琵琶湖博物館（草津）、話題提供。
- 2012年12月15日、交流分科会「大学と博物館の連携を考える」、環びわ湖大学地域コンソーシアム、環びわ湖大学地域交流フェスタ2012、長浜バイオ大学（長浜）、パネリスト。
- 2013年1月13日、歴史は酒とともに流れ、滋賀県立安土城考古博物館・滋賀県ミュージアム活性化推進委員会、酒の文化を紹介するシンポジウム、滋賀県立安土城考古博物館（近江八幡）、パネラー。
- 2013年2月25日、近江と俳諧・俳句、滋賀県レイカディア大学同窓会、近江八幡市総合福祉センター（近江八幡）、講演。

視察対応

- 2012年7月17日、日本ミュージアム・マネジメント学会、挨拶。
- 2012年7月24日、皇太子殿下ご来館、挨拶、案内。
- 2013年3月26日、湖南省科学技術庁、中山大学環境学院、挨拶。

【資料整備活動】

他博物館・機関の活動

ヨシ博物館収蔵資料調査、資料調査。

【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース、開会挨拶、2012年9月25日、琵琶湖博物館。

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

琵琶湖博物館リニューアルに向けた県民ワークショップその1 大学と琵琶湖博物館のよりよい関係をさぐる、開会挨拶、2012年11月25日、琵琶湖博物館。

琵琶湖博物館リニューアルに向けたピアレビュー、開会挨拶、2012年11月29日～3月30日、琵琶湖博物館、全5

件.

琵琶湖博物館リニューアルに向けた県民ワークショップその2 地域企業と琵琶湖博物館のさらなる連携について、
開会挨拶、2013年2月7日、琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

滋賀県博物館協議会，会長。

滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，会長。

【海外渡航】

2013年2月16日～24日，フランス（パリ・マルセイユ），姉妹協定締結用務・博物館交流用務。

2013年3月17日～21日，台湾，「科学研究費補助金（基盤B）亜熱帯地域における他民族の生業経済と定期市—海南島と雲南省を事例として—」の研究調査。

【館外の活動】

兵庫県立歴史博物館運営懇話会，座長

国立歴史民俗博物館総合展示第4室リニューアル委員会，委員。

国立歴史民俗博物館，名誉教授。

総合研究大学院大学，名誉教授。

日本民俗学会，評議員。

滋賀県基本構想審議会，委員。

琵琶湖統合研究推進会議，委員。

日本学術振興会特別研究員等審査会，委員。

環境省環境研究企画委員会，委員。

環境省環境研究総合推進費第5研究分科会〈持続可能な社会・政策研究〉，委員。

人間文化研究機構第2期連携研究中間実績評価委員会，委員。

京都大学人文科学研究所テニューアトラック教員人事審査委員会，委員

四方記念地球環境保全研究助成基金運営委員会，委員。

尾瀬賞保護財団運営委員会，委員。

長尾自然環境財団，評議員。

滋賀県文化振興事業団，個人会員。

家畜資源研究会，個人会員。

生態人類学会，会員。

事業活動としては、外部からの琵琶湖の生物の紹介等の依頼について積極的に受け入れてきた。最近、ビワマスに関する関心が高まっており、ビワマスの生態に関する講演依頼が多く寄せられた。

研究活動としては、琵琶湖固有種の生理生態に関する研究を中心に研究を実施してきた。特に近年は、ホンモロコの繁殖戦略を中心テーマとして実態解明を進めている。その中で、ホンモロコの繁殖形質の解明においては、以下のことが明らかとなった。まず本種は1繁殖期に複数回の産卵を行うことは報告されていたが、水槽実験により産卵回数や産卵数・産卵期間をより具体的に明らかにした。すなわち、ホンモロコは水温10℃を超える3月下旬ないしは4月上旬に産卵を開始し25℃を超える7月中旬まで4回以上にわたって断続的に産卵を行う。これらの結果は日本水産学会誌へ投稿し掲載された。ホンモロコの温度依存的性決定機構については、天然の卵を採取し孵化した稚魚を琵琶湖の湖岸水温で飼育して性比の変化を調査した。その結果、4・5月採取の卵からは性比が雌雄1対1を示したが、6月の卵からの稚魚は性比が雄に偏る傾向を示し、24年度日本水産学会秋季大会でポスター発表した。ホンモロコの基本的な性決定機構についてはまだ未解明な部分が多く残されており、これまで実施した実験結果の解析中であるが、さらに研究を進め、琵琶湖固有種の琵琶湖の環境への適応過程を明らかにしていく予定である。

印刷物

【学術論文】

- 藤岡康弘・田口貴史・亀甲武志 (2013) 多回産卵魚ホンモロコの産卵時期・産卵回数・産卵数. *日本水産学会誌*, 79 (1), 日本水産学会: 31-37.
- Higaki, S., Koyama, Y., Shirai, E., Yokota, T., Fujioka, Y., Sakai, N. and Takada, T. (2012) Establishment of testicular and ovarian cell lines from Honmoroko (*Gnathopogon caeruleus*). *Fish Physio Biochem*, DOI 10.1007/s10695-012-9733-y.
- 亀甲武志・根本守仁・三枝 仁・澤田宣雄・石崎大介・中橋富久・寺本憲之・藤岡康弘 (2013) 稲作水田におけるゲンゴロウブナ *Carassius cuvieri* 仔稚魚の育成. *水産増殖*, 70 (1), 日本水産増殖学会: 19-26.

【専門分野の著作】

- 藤岡康弘 (2012) 野洲川を回遊するビワマス. *滋賀県の野洲川流域の生き物*, びわ湖の森の生き物研究会 編, びわ湖の森の生き物研究会: 13-20.
- Fujioka, Y. (2012) Fishery rights and management. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 353.
- Fujioka, Y. (2012) Utilization of young ayu fish. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 355.
- Fujioka, Y. (2012) Invasions of new fish diseases to the lake. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 357.
- Fujioka, Y. and Maehata, M. (2012) Recent changes in the Lake Biwa Fisheries. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 313-316.
- Fujioka, Y. and Maehata, M. (2012) Various fishing methods developed in and around Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 317-326.
- Fujioka, Y. and Maehata, M. (2012) Propagation and conservation of fishery resources. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer,

【一般向けの著作】

藤岡康弘 (2013) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館のセミナー再現～18 魚の性別どう決まる. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2013年2月5日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

藤岡康弘・臼杵崇広・三枝 仁・亀甲武志 (2012年9月15日) ホンモロコの産卵時期と性比の関係. 日本水産学会秋季大会, 独立行政法人水産大学校 (下関市), [ポスター発表].

亀甲武志・石崎大介・二宮浩司・藤岡康弘 (2012年9月15日) 伊庭内湖流入河川及び実験室内でのホンモロコの孵化時刻. 日本水産学会秋季大会, 独立行政法人水産大学校 (下関市), [口頭発表].

藤岡康弘 (2013年2月15日) 魚類における性決定機構の多様性. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

山本充孝・藤岡康弘 (2013年3月27日) 寒天培地を用いたアユの「コケ食み行動」の定量化. 日本水産学会春季大会, 独立行政法人東京海洋大学 (東京都), [口頭発表].

亀甲武志・岡本晴夫・氏家宗二・孝橋賢一・三枝 仁・二宮浩司・臼杵崇広・澤田宣雄・根本守仁・藤岡康弘・甲斐嘉晃 (2013年3月28日) 西ノ湖におけるホンモロコ親魚の繁殖形質と流水環境での産卵. 日本水産学会春季大会, 独立行政法人東京海洋大学 (東京都), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「魚類を中心とした琵琶湖固有種の生態等に関する研究」, (2012年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本水産学会近畿支部, 幹事, 2010年4月～.

びわ湖の森の生き物研究会, 事務局長, 2012年4月～.

Reproductive Biology, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 7件.

2013年2月15日, 事業セミナーの実施, 「ジョージア水族館の展示」・「ガラパゴスのエコツアー」, 琵琶湖博物館, 2件.

2012年9月28日・2013年3月22日, 水族セミナーの実施, 「ウツセミカジカの生態」・「ジョージア水族館の展示」・「ガラパゴスのエコツアー」, 琵琶湖博物館, 3件.

他の博物館・機関等主催行事

2012年5月27日, 野生鳥獣と人が共生する森づくり, びわ湖の森の生き物研究会, シンポジウム・現地研修会, 近江八幡市, 主催.

2012年7月16日, びわ湖の森の生き物と源流とのつながり, 木地師の里講演会, 東近江市永源寺町, 講師.

2012年7月26日, 琵琶湖の環境と魚介類, 三重県四日市農芸高校, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年8月1日, ビワマスの生態, 米原市教育委員会, 教員研修, 醒井小学校 (米原市), 講師.

2012年8月4日、琵琶湖の固有種ビワマスと水源の森、山門水源を守る会、講演会、西浅井公民館（長浜市）、講師。
2012年8月23日、琵琶湖の生きものと環境、伊川を守る会、講演会、琵琶湖博物館、講師。
2012年8月24日、琵琶湖の環境と生物・漁業の多様性、全国漁協連合青年会、総会記念講演会、大津市、講師。
2012年10月28日、琵琶湖の環境と生き物、びわ湖検定実行委員会、講演会、大津市、講師。
2012年11月4日、ビワマス産卵観察会、米原市・びわ湖の森の生き物研究会、観察会、天野川（米原市）、講師。
2012年11月17日、12月15日、ミュージアムスクール、立命館守山中学校、講師、2件。
2012年11月18日、ビワマスシンポジウム、米原市、米原市、講師。
2012年11月22日、ビワマスの産卵、米原市教育委員会、息長小学校（米原市）、講師。
2013年1月29日、琵琶湖の生きものと源流のつながり、株式会社ダイフク、従業員向け環境講演会、日野町、講師。
2013年3月9日、知って楽しいびわ湖！ふしぎ発見、びわ湖大津観光協会、第58回びわ湖開き親子講座、大津市、講師。
2013年1月19日、世界遺産への道程を考える、びわ湖の森の生き物研究会、勉強会、守山市、主催。

視察対応

2012年11月3日、琵琶湖博物館の運営・展示説明、環境省水・大気環境局長。
2012年12月4日、琵琶湖博物館の運営・展示説明、大韓民国華城市市長一行。

メディアへの協力

2012年5月27日、びわ湖放送、県政週刊プラスワン、出演、(2012年5月27日取材対応)。
2012年2月16日、関西テレビ、コアユ産卵数の劇減の原因について、出演、(2012年11月16日取材対応)。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、4回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2012年12月23日、ジョージア水族館（アメリカ合衆国アトランタ）、展示視察。
2012年12月24・25日、世界文化遺産、旧キト市街、(エクアドル共和国キト)、視察。
2012年12月26日～12月31日、世界自然遺産、ガラパゴス諸島（エクアドル共和国）、生物調査。
2013年1月1日～1月5日、ヤスニ国立公園（エクアドル共和国）、生物調査。

この数年間は、近江の前方後円墳を中心とする古墳時代首長墓・山岳寺院の研究、湖上交通史の考古学的追究、長江下流域・太湖の水田にかかる基礎資料整備、それに琵琶湖の民具資料を扱った考古民俗学的方法論の開発研究を中心的なテーマにしてきた。しかし、今年度からは民具資料にかかわることから離れ、琵琶湖水系における井戸や湧水など水環境の考古民俗学的研究をはじめることとなった。

2012年度は、特に古墳時代首長墓の実態を旧郡ごとに把握する中で、琵琶湖をめぐる支配や領域をさぐる研究の成果として、大津市春日山古墳群および曼荼羅山古墳群の首長墓を主な素材に調査を進め、前期前方後円墳の史的位置に関する論文をとりまとめつつあるし、昨年度に調査した高島市熊野本6号墳・12号墳の墳形を中心に据えた分析検討結果は、『淡海文化財論叢』第4輯に掲載した。

伊吹山を中心とした山岳寺院研究では、特に弥高寺跡の近年の調査成果とこれまでの構造変遷の総括的な結果を、『季刊考古学』第121号に掲載した。

また、館内共同研究者と共に行っている水環境施設に関わる民俗・社会学的調査研究成果の一環として、太湖水系における水田研究は、琵琶湖との比較の中での評価した文章を中日新聞のコラム『湖岸より』に掲載し、この連載コラムと毎日新聞連載コラム『ここだけの湖の話』のとりまとめも年間を通じて担当した。特に、中日新聞コラムは、連載を始めてから180回になった。なお、このプロジェクトでは、中国浙江省青田県竜現村での水田養魚および江蘇省無錫市での太湖周辺水田の現地調査を2012年12月に行ったところである。

河川環境管理財団からの補助を受けて実施した事業「琵琶湖水系における地域住民主体の湧水環境保全に向けた民俗論」は、琵琶湖周辺の湧水や井戸の地域における保存の在り方を探りながら、霞ヶ浦や八重山諸島における水環境も比較研究の対象として実施した。そしてその成果は、『村の至宝－湧水と井戸－』と題した展示を琵琶湖博物館新空間において2013年2月20日から3月17日まで開催した。

そのほか、琵琶湖の伝統的木造帆船・丸子船に関して、船大工の木材の選択とフリカケの機能の重視を新しい視点としていくつかの論考をまとめ、安土城考古博物館企画展示図録・成安造形大学紀要の『近江学』第5号に掲載したし、数年前から手掛けてきた琵琶湖の英文紹介論文集“Lake Biwa: Interactions between Nature and People”には7編の総括的な文章と年表を執筆して、ようやくSpringer社から出版されたところである。

その他、フランスの国立考古学博物館、国立自然史博物館、韓国濟州島・全羅南道での民俗調査も実施したし、何よりも東日本大震災に伴う文化財資料の保存の在り方についても現地調査を福島県教育委員会職員と共同で行うことができた。

印刷物

【学術論文】

用田政晴（2012）弥高寺跡. *季刊考古学*, 121, 雄山閣出版：53-55.

用田政晴（2012）首長墓にみる近江の固有性の追究－熊野本6号墳・12号墳の再検討－. *淡海文化財論叢*, 4, 淡海文化財論叢刊行会：49-53.

用田政晴（2013）丸子船と船大工. *近江学*, 5, 成安造形大学附属近江学研究所：30-33.

【専門分野の著作】

用田政晴（2012）丸子船. *琵琶湖の船が結ぶ絆－丸木船・丸子船から「うみのこ」まで－*, 滋賀県立安土城考古博物館・長浜市立長浜城歴史博物館：47-49.

YODA, M. (2012) History of the Relationship between People and Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 239.

YODA, M. (2012) Period of Coexistence. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa:*

- Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 241.
- YODA, M. (2012) Period of Utilization. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 263.
- YODA, M. (2012) Period of Exploitation. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 285.
- YODA, M. (2012) The Long-held Idea of a Lake Biwa Canal. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 293-294.
- YODA, M. (2012) The Recent Shift in the Role of Lake Biwa from Transportation to Tourism. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 295-297.
- YODA, M. (2012) Appendix 3 Chronology: Major Lake Biwa-related events. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 722-726.

【一般向けの著作】

- 用田政晴 (2012) 湖岸より 165 丸子船と船大工に学ぶ. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年9月15日.
- 用田政晴 (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～13 水路重視で城の構造変化. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2012年11月6日.
- 用田政晴 (2013) 湖岸より 174 霞ヶ浦と太湖の水環境. *中日新聞*, 中日新聞社: 2013年1月26日.
- 用田政晴 (2013) 湖岸より 178 大震災と文化財. *中日新聞*, 中日新聞社: 2013年3月23日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 用田政晴 (2012年5月13日) 琵琶湖をとりまく古墳と城. いぶき歴史アカデミー, 伊吹山文化資料館 (滋賀県米原市), [口頭発表].
- 用田政晴 (2012年5月18日) 古墳時代首長墓にみる近江の固有性—熊野本12号墳の再検討—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖水系における古墳時代首長の領域と地域性」, (2012年度).
- 河川環境管理財団補助事業「琵琶湖水系における地域住民主体の湧水環境保全に向けた民俗論」(研究代表者: 用田政晴), 研究代表者 (2012年度).
- 科学研究費補助金(基盤C)「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」(研究代表者: 楊平)、共同研究者 (2010～2014年度).
- 科学研究費補助金(基盤C)「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の脈わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」(研究代表者: 川那部浩哉)、研究分担者 (2010～2012年度).
- アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」研究代表者, (2012年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構, 代表.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2012年7月15日, 関西大学, 「博物館学」.
- 2012年9月9日, 京都造形芸術大学, 「博物館学実習」.
- 2012年11月2日, 京都造形芸術大学, 「博物館学」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件。

他の博物館・機関等主催行事

2012年7月16日，丸子船と船大工，船上セミナー，安土城考古博物館企画展示関連講演会，ピアンカ（琵琶湖湖上），講演。

2012年8月19日，琵琶湖の王者 丸子船の世界，企画展示関連講演会，滋賀県立安土城考古博物館（近江八幡市），講演。

視察対応

2012年5月15日，博物館案内、検討，静岡県教育委員会，琵琶湖博物館。

2012年6月9日，博物館案内，静岡市教育委員会，琵琶湖博物館。

2012年7月24日，博物館B展示室・C展示室案内，皇太子殿下下行啓，琵琶湖博物館。

2012年8月9日，博物館案内，北方領土返還協議会，琵琶湖博物館。

2012年8月26日，B展示室案内，千葉県教育委員会，琵琶湖博物館。

2012年8月26日，博物館案内，台湾台北市，琵琶湖博物館。

2012年9月1日，博物館案内，中国江蘇省無錫市人民政府，琵琶湖博物館。

2012年9月2日，博物館案内，中国貴州省貴陽市人民政府，琵琶湖博物館。

2012年10月19日，B展示室案内，滋賀県立安土城考古博物館，琵琶湖博物館。

2012年11月16日，B展示室案内，毎日新聞天津支局，琵琶湖博物館。

2013年1月19日，博物館案内，中国江蘇省無錫市人民政府，琵琶湖博物館。

2013年2月13日，B展示室案内，滋賀県立安土城考古博物館，琵琶湖博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人ページ（用田政晴），管理・運営，更新多数。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料整備、分類・配架。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館常設展示（B展示室）維持管理，担当。

2013年2月20日～3月17日，村の至宝－湧水と井戸－，新空間展示，琵琶湖博物館，主担当。

モーニングレクチャー，講義，3回。

【企画調整活動】

新任職員等研修，B展示室解説，講師，2012年4月17日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2012年8月1日～4日，韓国 濟州島，民俗調査.

2012年9月14日～20日，フランス 国立考古学博物館・自然史博物館，調査.

2012年12月14日～19日，中国 浙江省青田県・江蘇省無錫市，民俗調査・研究連携会議.

本年度は、通常の業務の他にギャラリー展「鉱物化石展 2012、湖国の大地に夢を掘るIV」（期間：4月1日～6月3日）の運営補助ならびに新空間展示『『骨にまつわる エトセトラ』』（期間7月1日～7月29日）を担当するはしかけグループほねほねくらぶが開催したので、その展示補助を行い、博物館と地域との連携事業を進めた。2013年1月からは、新たなはしかけグループ「古琵琶湖発掘隊」を結成し、毎月1回の勉強会を開催している。

博物館の中長期的な新しい計画づくりは、2か月に1回の会議を中心にして策定を行った。また、展示・交流関連のリニューアル会議などにも参加し、意見を述べた。

中日新聞および毎日新聞への連載も昨年引き続き行った。新聞以外では、びわ湖放送で放映している「知ったかぶりカイツブリにゆーす」に多賀の発掘関連で複数回出演したほか、県政週刊プラスワン夏休みスペシャル「うおーたんのわくわくこども体験隊～化石を探そう～」にも出演し、化石の勉強の楽しさを伝えた。

研究面では、科学研究費補助金（基盤B）「地域住民による琵琶湖沿岸の＜生命の賑わい＞総合調査の方法論と具体的手法の確立」（研究代表者：川那部浩哉）の事務作業を引き続き行い、関連の講演会を琵琶湖統合研究と関連して開催した。その他、琵琶湖博物館の総合研究の代表者も務めていることから、その研究の推進も行った。

印刷物

【学術論文】

- Takahashi, K. and Izuhō, M. (2012) Formative history of terrestrial fauna of the Japanese Islands during the Plio-Pleistocene. *British Archaeological Reports International Series*, 2352, Archaeopress: 73-86.
高橋啓一・添田雄二・出穂雅実・小田寛貴・大石 徹 (2013) 北海道のゾウ化石とその研究の到達点. *化石研究会会誌*, 45, 化石研究会: 44-54.

【専門分野の著作】

- Takahashi, K. (2012) Geological history and transition of the biota of Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 1.
里口保文・山川千代美・高橋啓一 (2012) 古琵琶湖層群における新・旧鮮新-更新統の境界. *地質学雑誌*, 118, 日本地質学会: 70-78.
高橋啓一 (2013) 日本のゾウ化石、その起源と移り変わり. *豊橋市自然史博物館研究報告*, 23, 豊橋市自然史博物館: 66-73.

【一般向けの著作】

- 高橋啓一 (2012) 湖岸より 159 「ほねほねくらぶ」の魅力. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年6月23日.
高橋啓一 (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～11 「化石を再び」募る思い. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2012年9月27日.
高橋啓一 (2012) 湖岸より 168 新しいモノで古きを訪ねる. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年10月27日.
高橋啓一 (2013) ゾウ化石が語る日本列島. *このは*, 3, 文一総合出版: 93.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 高橋啓一 (2012年9月21日) シガゾウの名称. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口

頭発表] .

高橋啓一 (2012 年 6 月 9 日) マンモスゾウとナウマンゾウは北海道であったのか? . 化石研究会第 30 回総会・学術大会, 札幌市中央図書館 (北海道) , [口頭発表] .

薄井重雄・高橋啓一・阿部勇治・松本みどり (2013 年 1 月 26 日) 鮮新-更新世から産出する三尖の角を持つシカ類の分類について. 日本古生物学会 162 回例会, 横浜国立大学 (神奈川県) , [口頭発表] .

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「古琵琶湖層群産オオナマズ化石の形態解析」(研究代表者: 高橋啓一), (2012 年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者: 高橋啓一), 研究代表者 (2011~2015 年度).

科学研究費補助金 (基盤 B) 「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」(研究代表者: 川那部浩哉) , 研究分担者 (2010~2012 年度) .

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本第四紀学会, 評議員, 2011 年 8 月~2013 年 7 月.

日本第四紀学会論文賞受賞者選考委員, 2013 年 2 月 1 日~7 月 31 日.

化石研究会, 事務局長, 2003 年 6 月~2012 年 6 月.

Quaternary International, 査読, 1 件.

化石研究会, 会誌査読, 1 件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012 年 4 月~2013 年 1 月 千葉大学理学部地球科学科学生, 卒業論文指導.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10 件.

はしかけ運営, ほねほねくらぶ、古琵琶湖発掘隊, 担当.

2012 年 7 月 29 日, 夏休み自由研究講座(地学), 講座, 琵琶湖博物館, 運営.

2013 年 1 月 12 日, 博物館でスゴロクをしよう~A 展示室編~, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 運営, (はしかけ「わくたん」共同).

2013 年 3 月 23 日, ほねで遊ぼう!, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 運営, (はしかけ「わくたん」共同).

他の博物館・機関等主催行事

2012 年 8 月 5 日, 日本のゾウ化石, その起源と移り変わり, 豊橋市自然史博物館ゾウシンポジウムⅡ ゾウの歴史をさぐる, 豊橋市自然史博物館, 講師.

2012 年 8 月 9 日, 平成 22 年度滋賀県環境教育研究協議会, 滋賀県環境教育研究会, 講師.

2012 年 9 月 19 日, 日本地質学会古琵琶湖巡検, 日本地質学会, 案内者.

2012 年 9 月 26 日, 甲西北中学校体験学習, 講師, 講義, 2 件.

2012 年 11 月 2 日, 最終氷期に生き、そして絶滅した象たち, 第 51 回明治大学博物館公開講座「考古学ゼミナール」, 明治大学博物館, 講師.

2012 年 11 月 17 日・12 月 15 日, 琵琶湖学習, 立命館守山中学校, 講師, 2 件.

2012 年 12 月 2 日, 淡海こどもエコクラブ活動交流会, オプションプログラム, 講師.

2013 年 2 月 13 日, 化石研究を通して思うこと, スーパーゲストティーチャー講演会, 新潟県刈羽村立刈羽中学校,

講師.

視察対応

2012年5月18日, 琵琶湖博物館の展示説明, 国土交通省専門調査官.
2012年6月16日, 琵琶湖博物館の運営説明, 桃山学院大学学芸員過程見学研修.
2012年7月4日, 琵琶湖博物館の展示説明, 香川県観音寺市議会議員団.
2013年1月16日, 琵琶湖博物館の展示説明, 国際湖沼環境委員会事務局長.
2013年1月17日, 琵琶湖博物館の展示説明, 全国市町村国際文化研修所.
2013年3月27日, 琵琶湖博物館概要説明, 京都市博物館フレアイボランティア虹の会.

メディアへの協力

2012年8月25日, びわ湖放送, 県政週刊プラスワン 夏休みスペシャル「うおーたんのわくわくこども体験隊〜化石を探そう〜」, 出演, (2012年8月22日収録).
2012年10月22日・10月31日・11月8日・12月10日・12月17日, アミンチュ古代ゾウ発掘プロジェクトパート1「知ったかぶりカイツブリニュース」, 出演.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

化石標本データベース公開, 担当.
哺乳類標本データベース公開, 担当.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

化石資料, 受入・貸出.
脊椎動物資料, 受入・貸出.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年4月1日〜6月3日, ギャラリー展示「鉱物化石展2012, 湖国の大地に夢を掘るIV」, 運営補助.
2012年7月1日〜7月29日, 新空間展示「骨にまつわる エトセトラ」(はしかけグループほねほねくらぶ), 展示補助.
モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

新任職員等研修, 博物館について・A展示室紹介, 講師, 2012年4月11日, 琵琶湖博物館.
移動博物館, 設置, 2012年8月3日, イオン高槻店(大阪府高槻市).
移動博物館, 展示説明, 2012年10月27日, フォレオ大津一里山(滋賀県大津市).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004年〜, 図書選定委員.

【館外の活動】

2010年2月14日〜, NPO法人西日本自然史博物館ネットワーク理事.
2010年10月6日〜2015年10月5日, 高島市指定管理候補者選定委員.

In 2012 I directed a cooperative research project aimed at demonstrating groundwater faunal connections between Lake Biwa and the mountains surrounding it (final year of two years). Collecting trips took place in the spring and fall to several river beds, including some not sampled the previous year. A few wells were also sampled, including for a television broadcast. I hosted two carcinologists, one Japanese and one Australian, in connection with this project, and sent specimens of amphipods and nematodes to other specialists for study. During the year I was co-author of a taxonomic paper on groundwater copepods, and my name is also on a manuscript redescribing a groundwater amphipod. Some taxonomic and faunistic results of this project, as well as those of an earlier comprehensive research project that I had directed, were presented to the public in a temporary "Gallery Exhibition" here. My individual research during the year focused on large branchiopod crustaceans of rice paddies. The rice-paddy organism "Hashikake" group and I conducted a survey of tadpole shrimp (*Triops* spp.) in parts of Otsu and Kusatsu cities and tried to explain the distribution of *Triops granarius* on the basis of detailed maps of irrigation channels. These findings were presented at three meetings or seminars. I was coauthor of two papers on the clam shrimp *Lynceus biformis* by overseas colleagues, one on the morphology and development of the legs and the other describing the nauplius larvae. As a member of the International Commission on Zoological Nomenclature, I voted and commented on many nomenclatural cases that were brought before the Commission. I voted in favor of the amendment to the International Code of Zoological Nomenclature that now permits electronic-only publication of scientific names and nomenclatural acts.

2012年度は、共同研究の研究代表者として、山と湖の地下水による動物学的なつながりを調べた。共同研究者とともに、春と秋に湖北地方と湖東地方の河川敷で地下水とその水に棲む動物を採集した。また、井戸のサンプリングを行なうとともに、その活動を紹介するテレビ番組の撮影を同時に行った。本研究には、日本とオーストラリアの研究者二人へ調査への参加を依頼した。また、ヨコエビ類標本および線虫標本をそれぞれの専門家に発送し研究を依頼した。今年度は、共著者として地下水生ケンミジンコ類の分類学的な論文を出し、地下水生ヨコエビの再記載論文の原稿は現在執筆中である。同共同研究およびその前に行った分類学的な総合研究の分類学的結果（滋賀県の新種、新記録種の水生微小無脊椎動物を中心に）を琵琶湖博物館のギャラリー展示で一般市民に紹介した。大型鰓脚類を中心とした専門研究として、琵琶湖博物館の「はしかけ」グループと共に大津市、草津市の一部において、水田におけるカブトエビの調査を行い、その結果から特にアジアカブトエビについて、大津市内の分布域と農業用水路の流れの関係が示唆された。その結果を学会大会、セミナーなどで3回発表した。また、タマカイエビの脚の形態と個体発生による形態の変更、および同種のノープリウス幼生の4齢の形態について、海外の共同研究者と共に学術論文2編を出版した。動物命名法国際審議会の委員として、審議会の細則の改正に関係し、審議会の前にもたらされる多くの命名法に関する案件について投票した。電子だけの出版方法を動物命名の立場から可能にするための提案（国際動物命名規約の改正）について、賛成の投票を行った。

印刷物

【学術論文】

- Ferrari, F. D. and Grygier, M. J. (2012) Variability of trunk limbs along the anterior/posterior body axis of juvenile and adult *Lynceus biformis* (Ishikawa, 1895) (Branchiopoda, Laevicaudata, Lynceidae). *Crustaceana*, 85 (3), Koninklijke Brill NV: 265-278.
- Olesen, J., Fritsch, M. and Grygier, M. J. (2013) Larval development of Japanese "conchostracans": Part

3, larval development of *Lynceus biformis* (Crustacea, Branchiopoda, Laevicaudata) based on scanning electron microscopy and fluorescence microscopy. *Journal of Morphology*, 274 (2), Wiley: 229–242.

Karanovic, T., Grygier, M. J. and Lee, W. (2013) Endemism of subterranean *Diacyclops* in Korea and Japan, with descriptions of seven new species of the *languidoidea*-group and redescriptions of *D. brevifurcus* Ishida, 2006 and *D. suoensis* Ito, 1954 (Crustacea, Copepoda, Cyclopoida). *Zookeys*, 267, Pensoft Publishers: 1–76.

【専門分野の著作】

- Grygier, M. J. (2013) Comment on *Lychnorhiza lucerna* Haeckel, 1880 (Cnidaria, Scyphozoa, Rhizostomae): proposed conservation of generic and specific names. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70 (1), 動物命名法国際審議会: 40.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) OPINION 2298 (Case 3519). *Eumolpus* Weber, 1801, *Chrysochus* Chevrolat in Dejean, 1836 and *Bromius* Chevrolat in Dejean, 1836 (Insecta, Coleoptera, CHRYSOMELIDAE): usage conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69 (2), 動物命名法国際審議会: 147–149 [特にグライガー委員の意見、p. 148].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) OPINION 2303 (Case 3520). *Boccardia proboscidea* Hartman, 1940 (Annelida, SPIONIDAE): specific name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69 (3), 動物命名法国際審議会: 232–234 [特にグライガー委員の意見、p. 233].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) OPINION 2308 (Case 3480). *Mastodon waringi* Holland, 1920 (currently *Haplomastodon waringi*; Mammalia; Proboscidea): request to designate a neotype not approved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69 (3), 動物命名法国際審議会: 244–245 [特にグライガー委員の意見、p. 245].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) OPINION 2311 (Case 3538). CORYININAE Benson, 1938 (Insecta, Hymenoptera, CIMBICIDAE): spelling emended to CORYNIDINAE to remove homonymy with CORYNIDAE Johnston, 1836 (Cnidaria, Anthothecata). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69 (4), 動物命名法国際審議会: 302–304 [特にグライガー委員の意見、p. 303].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) OPINION 2312 (Case 3544). *Apis armbrusteri* Zeuner, 1931 (Insecta, Hymenoptera): name conserved by designation of a neotype. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69 (4), 動物命名法国際審議会: 305–307 [特にグライガー委員の意見、p. 306].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) OPINION 2314 (Case 3546). *Praeradiolites* Douvillé, 1903 (Bivalvia, Radiolitidae): designation of *Sphaerulites ponsiana* d'Archiac, 1837 as the type species. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70 (1), 動物命名法国際審議会: 54–56 [特にグライガー委員の意見、p. 55].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) OPINION 2315 (Case 3351). *Chelodina rugosa* Ogilby, 1890 (currently *Macrochelodina rugosa*; Reptilia, Testudines): precedence not granted over *Chelodina oblonga* Gray, 1841. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70 (1), 動物命名法国際審議会: 57–60 [特にグライガー委員の意見、p. 58].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) OPINION 2316 (Case 3463). *Testudo gigantea* Schweigger, 1812 (currently *Geochelone (Aldabrachelys) gigantea*; Reptilia, Testudines): usage of the specific name conserved by maintenance of a designated neotype, and suppression of *Testudo dussumieri* Gray, 1831 (currently *Dipsochelys dussumieri*). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70 (1), 動物命名法国際審議会: 61–65 [特にグライガー委員の意見、pp. 62–63].
- Maeda, M., Kusuoka, Y., Grygier, M. J., Ohtsuka, T. and the Lake Biwa Museum Hashikake Rice Field Organisms Research Group (2012) An important factor limiting the distribution of large branchiopods in Shiga Prefecture, Japan: moisture content of rice paddy soil in winter. In: Rice Parry [*sic*] Working Group, Ramsar Network Japan ed., *Report for Ramsar COP11 on Good Practices for Enhancing Biodiversity in Rice Paddy Ecosystem in Japan Korea and Other Asian Countries*. Ministry of the Environment of Japan,

Tokyo : File b-3-6, 2 pp. [issued as DVD].

Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M., eds., Masunaga, K., Grygier, M. J. and Smith, R. J., asst. eds. (2012) *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*. Springer, Dordrecht: i-xvii, 12 unpag. plates, 1-744.

【一般向けの著作】

マーク ジョセフ グライガー (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～4 「南の種」エビ増加顕著. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2012年5月17日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

マーク ジョセフ グライガー (2012年4月20日) 草津市の水田におけるエビ(大型鰓脚類)の長期モニタリングとタマカイエビの「鰓脚」の形態. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].

小松美英子・伊藤貴之・室 研太郎・船津宏也・グライガー マーク (2012年9月13日) 深海性スナイトマキの体腔内に寄生するシダムシ(甲殻亜門、囊胸下綱)の幼生発生. 日本動物学会第83回大会, 大阪大学豊中キャンパス(豊中市), [口頭発表].

Mark Grygier・前田雅子・楠岡 泰・田んぼの生きもの調査グループ (2012年10月20日) 滋賀県のアジアカブトエビの現状について. 日本甲殻類学会第50回大会, 熊本大学黒髪キャンパス(熊本市), [ポスター発表].

Olesen, J., Grygier, M. J. and Fritsch, M. (2012年12月23日) タマカイエビのノープリウス幼生の走査型電子顕微鏡による形態観察. 第3回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].

前田雅子・Mark J. Grygier・楠岡 泰・田んぼの生きもの調査グループ (2012年12月23日) 滋賀県におけるアジアカブトエビの分布拡大. 第3回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].

マーク ジョセフ グライガー (2013年3月30日) Recent Studies of micro-and macro-scale fouling organisms at the Lake Biwa Museum. 2013年度日本付着生物学学会総会、研究集会, 東京海洋大学(東京都港区), [口頭招待発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「寄生性甲殻類および魚類の寄生虫に関する研究」, (2012年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者: 高橋啓一), 副代表者 (2011~2015年度).

琵琶湖博物館共同研究「山と湖をつなぐ地下水間境域」(研究代表者: マーク ジョセフ グライガー), 研究代表者 (2011~2012年度).

科学研究費補助金(基盤B)「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」(研究代表者: 川那部浩哉), 分担者 (2010~2012年度).

科学研究費補助金(基盤B)「間隙性ファウナの種多様性評価と生息の制限要因—陰性環境の生物多様性に光を当てる—」(研究代表者: 塚越 哲), 分担者 (2011~2015年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

The Crustacean Society, *Journal of Crustacean Biology*, Associate Editor, 査読, 2件.

Systematic Parasitology, Associate Editor, 査読, 1件.

日本動物分類学会, *Species Diversity*, Editorial Consultant.

日本ベントス学会, *Japanese Journal of Benthology* (日本ベントス学会誌), 編集委員 (English editor).

日本付着生物学学会, *Sessile Organisms*, 編集委員 (英語エディター).

Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, Zoosystematica Rossica, Editorial Board.
国立科学博物館, Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology), 編集委員.
動物命名法国際審議会, Bulletin of Zoological Nomenclature, 査読, 5件.
Senckenberg Gesellschaft für Naturforschung, Marine Biodiversity, 査読, 1件.
Gesellschaft für Biologische Systematik, Organisms Diversity and Evolution, 査読, 1件.

【受賞など】

日本付着生物学学会感謝状, 2013年3月30日, 学会誌 Sessile Organisms の英文編集委員として貢献したため.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

はしかけ運営, 田んぼの生き物調査グループ, 副担当.

2012年5月13日, 魚の寄生虫を調べよう!, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 主担当者・講師.

2012年6月9日, たんぼの不思議なエビたちを見てみよう!, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師,
(はしかけ「田んぼの生きもの調査グループ」と共同).

2012年8月3日, 各資料の実習(甲殻類資料), 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年1月26日, 滋賀県の水田に生息する中・小型甲殻類, 新琵琶湖学セミナー「ミクロの世界、マクロの世界から学ぶ湖と人間の関わり」第1回 にぎわう水田の生き物, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2012年5月30日, 武庫川女子大学附属中学校, 英語の概要説明, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), 講師.

視察対応

2012年8月5日, (オランダ) 国立自然史博物館ナツラリス研究部長一行.

2012年8月20日, 日中青少年サイエンスキャンプ(日本開催).

2012年11月1日, 大阪大学工学部・工学研究科に在籍する留学生.

2012年11月24日, JICA 平成24年度国別研修「インド上下水道事業の運営・維持管理技術」.

2012年11月27日, アセアン大学生環境フォーラム.

2013年3月6日, 統合的湖沼流域管理(ILBM)とハートウェア国際専門家会議.

メディアへの協力

2012年9月15日, びわこ放送, 「KONBANWA SHIGA」, (2012年8月12日, 22日, 23日取材と撮影).

2013年1月7日, 京都新聞, 「県内で新発見 微小生物紹介 琵琶博ユスリカ新種も」, (2012年12月22日取材).

2013年1月28日, 京都新聞, 「湖国探検38 水田、新種見つかるかも 琵琶湖博物館 上席総括学芸員マーク・J・グライガーさん(生物学)」, (2013年1月16日取材).

2013年1月31日, 毎日新聞 Oh!Me, 「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見」草津市 県立琵琶湖博物館, (2012年12月22日取材).

2013年2月27日, 産経新聞, 「大きな湖の小さなモンスター」, (2013年1月11日, 1月17日, 2月17日取材).

2013年3月7日, トカゲ太郎のワンダーワールド<<http://www.tokagetarou.com/biwako.html#04>>, 滋賀県立琵琶湖博物館, 不思議な形の小さいいきものたち, (2013年2月26日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

標本受入，無脊椎動物（昆虫、貝類を除く），20件756点、そのうち甲殻類184点（カイアシ類のホロタイプ標本2点、アロタイプ標本2点、パラタイプ標本3点を含む）、貧毛類（主にヒル類）489点、その他の無脊椎動物83点（ハリガネムシ類のパラタイプ標本5点を含む）。

標本の仮登録，129点、そのうち甲殻類30点、環形動物（主にヒル類）75点、その他の無脊椎動物24点。

保存液交換，貧毛類標本25点。

研究依頼，（韓国）ハンヤン大学，カイアシ類，1点。

研究依頼期間延伸，1件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館第20回企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」，「たんぼの生き物のにぎわい研究」コーナーの担当者，図録の執筆協力。

琵琶湖博物館ギャラリー展示「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見 Big Discoveries in a Small World: Exploring the Aquatic Habitats of Shiga」，副担当。

「ふらっと美の間」事業アール・ブリュット作品展示，担当。

モーニングレクチャー，講義，4回。

常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」，パネル更新。

【企画調整活動】

新任職員等研修，C展示室くらしとむすびついた自然（田んぼ）と生き物コレクション（寄生虫），講師，2012年4月18日，琵琶湖博物館。

地域発見！参加型移動博物館，展示物設置・対応，2012年7月21日，イオンモールKYOTOセンターコート。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員（鈴木隆仁），受け入れ担当。

2012年6月24日，琵琶湖博物館研究報告会，琵琶湖博物館，司会。

2013年3月2日，連携講座 琵琶湖自然と文化 第4回 クニマスとビワマス，琵琶湖博物館，司会。

館内人事、館外活動等に関すること

【館外の活動】

2012年10月5日更新，（米国）ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部（無脊椎動物学研究科），協力研究員。

（米国）スミソニアン研究所国立自然史博物館，協力研究員。

動物命名法国際審議会，委員。

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境などを明らかにすることを目的にしている。今年度は、共同研究「針葉樹トガサワラ属化石の生物地理変遷と生育環境の解明」(代表者)と専門研究を軸に、野外調査、化石同定、標本調査、データ解析を行った。

共同研究では、日本で隔離分布する現生種トガサワラ林の生態調査および球果の採取を高知で行い、また古琵琶湖層群甲賀層産(約250万年前)のトガサワラ球果化石を採取し、それらの形態比較を行った。甲賀層産化石と現生種との大きさや種鱗の巻数を比較から、甲賀層産化石はこれまで報告されていた化石種である*Pseudotsuga subrotunda* Mikiではなく、現生種*P. japonica*に含まれ、現生種の起源年代が古くなる可能性が指摘できた。この成果の一部を2013年1月26日に日本古生物学会、3月17日に日本植物分類学会で発表を行った。

専門研究の成果は、2012年8月23日～30日に日本で開催された第13回国際花粉学会議・第9回国際古植物学会議IPCXIII/IOPCIX2012で「Paleoecology of fossil forests dominated by *Metasequoia* and *Glyptostrobus* in the Plio-Pleistocene Kobiwako Group, central Japan」と題し、後期鮮新世末の野洲川河床から産出したメタセコイアとスイショウが優占する化石林について発表した。また、8月31日～9月3日には、同会議主催の近畿地域の新生代の植物化石を紹介するエクスカージョンを行い、古琵琶湖層群下部上野・伊賀層の化石産出地を案内した。その他、9月18日に本地質学会大会の巡検で古琵琶湖層群における新・旧鮮新-更新統の境界となる露頭を案内した。

琵琶湖博物館研究セミナーでは、中国山地東部の福地川上流に分布する福地泥炭層から産出した大型植物化石について報告した。福知泥炭層から得られた材、大型植物、花粉の群集組成から、泥炭層が堆積した9,300cal. BPから8,500cal. BPには、標高450m前後の山間部にブナ属、トチノキ属、トネリコ属などの冷温帯落葉広葉樹林が広がっていたが、約9,300cal. BP頃はクリ属-シイ属やコナラ亜属が優占し、約9,100-8,800cal. BPにブナ属、トチノキ、クマシデ属-アサダ属などが増加、その後約8,800-8,500cal. BPに常緑広葉樹クスノキ属、ツブラジイや常緑針葉樹イヌガヤ、カヤが出現するなど、温帯から暖温帯の広葉樹林へと遷移しており、寒冷から温暖な気候への移行植生が復元できた。なお、この研究は、2011年度に兵庫県立人と自然の博物館の学芸員と共同研究を行ったものである。

印刷物

【学術論文】

Yamakawa, C. and Konishi, S. (2013) Fossil fern fronds from the early Pleistocene Kobiwako Group in Minakuchi, Shiga Prefecture, central Japan. *Journal of Fossil Research*, 45 (2) : 63-69.

【専門分野の著作】

里口保文・山川千代美・高橋啓一 (2012) 古琵琶湖層群における新・旧鮮新-更新統の境界. *地質学雑誌*, 118 補遺, 日本地質学会 : 70-78.

Yamakawa, C. and Momohara, A. (2012) 4. History of Lake Biwa and the Kobiwako Group. *A guidebook to the field excursion Post-2, Natural Vegetation and Neogene fossil sites in and around Mara, western Japan*, The 13th International Palynological Congress IPC-XIII 2012/The 9th International Organization of Palaeobotany Conference IOPC-IX 2012, the Post-2 field excursion: 19-23.

Yamakawa, C., Tsukagoshi, M. and Momohara, A. (2012) 5. Fossil Flora of the Ueno and Iga Formations. *A guidebook to the field excursion Post-2, Natural Vegetation and Neogene fossil sites in and around Mara, western Japan*, The 13th International Palynological Congress IPC-XIII 2012/The 9th International Organization of Palaeobotany Conference IOPC-IX 2012, the Post-2 field excursion: 24-31.

【一般向けの著作】

- 山川千代美 (2012) 湖岸より 166 国際学会の醍醐味. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年9月29日.
山川千代美 (2012) 湖岸より 177 滋賀に飛来した隕石. *中日新聞*, 中日新聞社: 2013年3月9日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Yamakawa, C., Momohara, A. and Saito, T. (2012年8月27日) Paleoeology of fossil forests dominated by *Metasequoia* and *Glyptostrobus* in the Plio-Pleistocene Kobiwako Group, central Japan. The 13th International Palynological Congress IPC-XIII 2012/The 9th International Organization of Palaeobotany Conference IOPC-IX 2012, International Palynological Congress / International Organization of Palaeobotany Conference, chuou univ, [口頭発表].
- Yabe, A. and Yamakawa, C. (2012年8月28日) Paleoeology of *Cunninghamia* from earliest Miocene Shichiku Flora of Northeast Honshu, Japan. The 13th International Palynological Congress IPC-XIII 2012/The 9th International Organization of Palaeobotany Conference IOPC-IX 2012, International Palynological Congress / International Organization of Palaeobotany Conference, chuou univ, [口頭発表].
- Takahashi, A., Handa, K., Yamakawa, C., Kato, S., Furutani, H. and Okugishi, A. (2012年8月28日) Vegetation reconstruction based on the plant fossils from the Fukuchi Peat Beds along the Fukuchi River in the south-eastern area of the Chugoku Mountains, western Japan. The 13th International Palynological Congress IPC-XIII 2012/The 9th International Organization of Palaeobotany Conference IOPC-IX 2012, International Palynological Congress / International Organization of Palaeobotany Conference, chuou univ, [ポスター発表].
- 山川千代美 (2012年12月21日) 完新世初頭の中国山地東部の古植生復元. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].
- 増尾はづき・山川千代美・松本みどり・矢部 淳・三宅 尚 (2013年1月26日) 鮮新統上部古琵琶湖層群産マツ科トガサワラ属球果化石の形態比較. 日本古生物学会第162回例会, 横浜国立大学, [口頭発表].
- 山川千代美・増尾はづき・松本みどり・矢部 淳・三宅 尚 (2013年3月17日) 鮮新-更新統古琵琶湖層群産トガサワラ属球果化石の分類学的研究. 日本植物分類学会第12回大会 (千葉大学), 日本植物分類学会, 千葉大学, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「中期更新世のヒノキ属針葉樹林の構造と環境復元」, (2012年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者:高橋啓一), 研究協力者 (2011~2015年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「針葉樹トガサワラ属化石の生物地理変遷と生育環境の解明」(研究代表者:山川千代美), 研究代表者 (2011~2013年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 千葉大学理学研究科地球生命圏科学専攻地球科学コース学生, 卒業論文指導.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館 A 展示室, 10件.

2012年8月4日, IPMおよび収蔵庫施設見学, 博物館実習, 講師.
2012年10月14日, 化石観察会, 観察会, 甲賀市土山町鮎河, 担当.

他の博物館・機関等主催行事

2012年6月10日, 展示概要説明, 奈良大学, 講師, 2件.
2012年7月23日, 博物館のつくられ方, 滋賀県立石部高校, 講師.
2012年11月13日, 古琵琶湖層の植物化石, 滋賀県立米原高校実習, 講師.
2012年11月17日, 2013年1月21日, ミュージアムスクール, 立命館守山中学校, 講師, 2件.

視察対応

2012年5月15日, 静岡県企画広報部, 収蔵空間説明案内.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

文化庁滋賀県ミュージアム活性化事業委員会, プロモーションビデオ制作, 担当.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

寄贈資料の受入 (植物関係図書資料 195冊: 村田源氏), 1件.
寄贈資料の受入 (橋本忠太郎滋賀県産さく葉標本および感謝状贈与手続き), 1件.
奥山茂美氏古琵琶湖層群産植物化石標本, 整理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年4月1日~6月3日, ギャラリー展示「鉱物・化石展 湖国の大地の夢を掘るⅣ」の開催, 副担当.

【企画調整活動】

地域発見! 参加型移動博物館事業, 対応, 2012年8月5日, イオンモール高槻 (大阪府高槻市).
地域発見! 参加型移動博物館事業, 対応・展示物片付け, 2012年7月22日, イオンモール京都 (京都府京都市).
地域発見! 参加型移動博物館事業, 対応・展示物片付け, 2012年10月28日, フォレオ大津一里山 (滋賀県大津市).

【研究部関連事業】

地学研究発表会, 研究交流, 2013年2月11日, 滋賀大学サテライト, 担当.
新琵琶湖学セミナー, 研究発信, 2013年1月~2月 全5回, 琵琶湖博物館, 副担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

文化庁滋賀県ミュージアム活性化事業委員会, 連携講座, 副担当.
文化庁滋賀県ミュージアム活性化事業委員会, プロモーションビデオ制作, 担当.

日本における鮮新-更新世の堆積層を対象に、挟在する火山灰から広域層序と過去の爆発的火山噴火活動について、堆積物から過去の堆積環境変化についてを研究対象としている。とくに最近では、堆積物からみた琵琶湖の環境変動史についての検討をすすめている。

古琵琶湖層群の時代にあたる鮮新世から更新世の日本における 12 地域の主要な地層について、既存研究をまとめることによって提案した広範囲な層序と年代モデルの論文が *Island Arc* に掲載された。この論文によって日本の鮮新-更新統の基準層序と年代が確立された。また、このモデルはこの時代の日本における爆発的火山噴火活動を検討する上でも重要な情報を示しており、自らの今後の研究についても一つの区切りとなった。

科学研究費補助金でおこなっている琵琶湖地域の洪水履歴を堆積物から検討する研究は、今年度が最終年であった。これまで北湖の愛知川河口沖を中心に調査を行ってきたが、今年度はそれに加えて南湖の草津川河口沖での調査を行った。その結果、当初想定した以上に河口沖の湖底堆積物は削剥が大きく、過去の記録を十分に記録していないことがわかった。このような湖岸域の湖底堆積物の削剥や堆積がどのように行われているかが今後の問題点となった。現在の琵琶湖の堆積物調査は、過去の琵琶湖である古琵琶湖の堆積環境を考える上でも重要であるので、本プロジェクトの終了後もテーマとして扱っていきたい。

総合研究として行っている琵琶湖の生物多様性の成立過程研究については、古琵琶湖から現在の琵琶湖への地理的環境変化を担当しており、これまで提案されている古琵琶湖から琵琶湖への地史の再検討を行っている。これにはいくつかの時代における仮説を立てており、その検証方法を検討中である。

また、地域の人びとと共同で展示を行う鉱物・化石展の第四回を今年度初頭に行った。今回は、展示参加者の中で特に思い入れの強い資料の一点を中心に紹介する一点展を展開するなどの新たな試みを行った。その他、地域の方々と実施する地学研究発表会の運営などを、地学関係学芸職員と行ったほか、個人管理インターネットページで、博物館事業や、研究についての情報発信を行った。

印刷物

【学術論文】

Satoguchi, Y. and Nagahasi, Y. (2012) Tephrostratigraphy of the Pliocene to Middle Pleistocene Series in Honshu and Kyushu Islands, Japan. *Island Arc*, 21, Blackwell Science: 149-169.

小野映介・片岡香子・梅津正倫・里口保文 (2012) 十和田花山 AD915 噴火後のラハールが及ぼした津軽平野中部の堆積環境への影響. *第四紀研究*, 51 (6), 日本第四紀学会: 317-330.

【専門分野の著作】

里口保文・山川千代美・高橋啓一 (2012) E 班案内図: 古琵琶湖層群における新・旧鮮新-更新統の境界. *地質学雑誌*, 118 補遺, 日本地質学会: 70-78.

Satoguchi, Y. (2012) Geological history of Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 9-16.

【一般向けの著作】

里口保文 (2012) 湖岸より 154 鉱物や化石でおなかいっぱい. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012 年 4 月 14 日.

里口保文 (2012) 湖岸より 164 河原の石の調べ方. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012 年 8 月 25 日.

里口保文 (2012) 各地の博物館めぐり 滋賀県立琵琶湖博物館. *地質と調査*, 133, 土木春秋社: 51-52.

里口保文 (2013) 湖岸より 175 175 万年前に何があったか. *中日新聞*, 中日新聞社: 2013 年 2 月 9 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

長橋良隆・里口保文（2012年8月21日）上総層群と大阪層群のテフラ層の層序と岩石学的特徴に基づく長期爆発的火山噴火史. 日本第四紀学会2012年大会, 日本第四紀学会, 立正大学（埼玉県熊谷市）, [口頭発表].

里口保文・長橋良隆・IODP Expedition333次航海乗船研究者（2012年8月21日）紀伊半島沖海底コアによる鮮新-更新世基準テフラ層序の検討. 日本第四紀学会2012年大会, 日本第四紀学会, 立正大学（埼玉県熊谷市）, [口頭発表].

里口保文・芳賀裕樹（2012年9月15日）琵琶湖愛知川河口沖の表層堆積物. 日本地質学会第119年学術大会, 日本地質学会, 大阪府立大学（大阪府堺市）, [ポスター発表].

石田志朗・服部 昇・三矢信昭・中島 健・里口保文（2012年9月15日）滋賀県高島市饗庭野の傍ヶ谷層の再検討と新旭層の提案. 日本地質学会第119年学術大会, 日本地質学会, 大阪府立大学（大阪府堺市）, [口頭発表].

長橋良隆・里口保文（2012年9月15日）南海トラフ海底堆積物コアのテフラ層からみた過去800万年間の爆発的火山噴火史. 日本地質学会第119年学術大会, 日本地質学会, 大阪府立大学（大阪府堺市）, [口頭発表].

里口保文（2012年10月26日）河口沖の表層堆積物を見いだす. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（草津市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「蒲生・草津累層堆積時期の堆積環境」, (2012年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者:高橋啓一), 共同研究者(2011~2015年度).

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖地域における堆積環境変化の広域性と古気候変化との関係」(研究代表者:里口保文), 研究代表者(2011~2012年度).

科学研究費補助金(基盤C)「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」(研究代表者:里口保文), 研究代表者(2010~2012年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本地質学会近畿支部, 幹事, 2009年~.

日本第四紀学会, 評議員, 2009年9月~.

東京地学協会, 地学雑誌, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

2012年7月29日, 夏休み自由研究講座(地学), 夏休み自由研究講座, 琵琶湖博物館, 副担当, (滋賀県足跡研究会 岡村喜明氏講師、高橋啓一主担当).

2012年11月22日, 琵琶湖の成り立ち, 指導者のための博物館活用講座(地学), 講座, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2012年5月19日, 琵琶湖の成立と変遷, 九州大学工学部電気工学科同窓会, 体験学習(講義), 琵琶湖博物館, 講師.

2012年5月20日, 琵琶湖のおいたち, さくら会, 体験学習(講義), 琵琶湖博物館, 講師.

2012年6月9日, 琵琶湖の変遷を調べるということ, 滋賀県立虎姫高校, SSH 連携講座, 長浜バイオ大学, 講師.
2012年6月10日, 琵琶湖のおいたち, 湖南省石部西区広報企画部, びわ湖博物館へ大なまづを見に行こう, 琵琶湖博物館, 講師.
2012年7月7日, 地層のしらべかた, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師.
2012年7月23日, 琵琶湖のおいたち, 滋賀県立石部高校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師.
2012年7月30日・31日, ミュージアムスクール, 滋賀県立石部高校, 琵琶湖博物館, 課題研究の相談と助言, 2件.
2012年11月8日, 米原市立息長小学校5年生の野洲川流域観察, 滋賀県立彦根東高等学校, 独立行政法人科学技術振興機構コアSSH, 甲賀市・守山市, 川の役割の専門的な解説.
2012年11月16日, 琵琶湖の活断層と津波, 滋賀県立虎姫高校, 琵琶湖博物館, 課題研究の相談と助言.
2012年11月17日, 12月15日, 琵琶湖学習, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 課題研究の補助, 2班.

視察対応

2012年5月26日, 琵琶湖博物館の紹介, 応用地質株式会社中部支社, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2012年4月2日, 京都新聞, ギャラリー展示紹介, (2012年4月1日取材対応).
2012年4月11日, 中日新聞, ギャラリー展示紹介, (2012年4月2日取材対応).
2012年5月18日, 読売新聞, しが県民情報, ギャラリー展示紹介, (2012年4月14日取材対応).
2012年5月7日, びわ湖放送, 知ったかぶりカイツブリにゅーす, 高師小僧の説明, (2012年4月19日取材対応).
2012年9月18日, びわ湖放送, 知ったかぶりカイツブリニュース, 田上山の鉱物の説明, (2012年9月13日取材対応).
2012年11月20日, BS ジャパン, 空から日本を見てみよう+, 多景島のでき方の説明, (2012年10月~11月数回取材対応).
2013年3月6日, 読売新聞, 琵琶湖の形成について取材, (2013年2月12日取材対応).
2013年3月12日, 産経新聞, トピック展示紹介, (2013年3月5日取材対応)

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人ページ, 管理・運営, 更新多数.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

ポーリングコア整備, 情報整備, 約50件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年4月1日~6月3日, ギャラリー展示「鉱物・化石展 湖国の大地に夢を掘る IV」の開催, 主担当.
展示交流員と話そう, 内容指導.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館研究調査報告書 PDF ファイルの公開, 公開調整,

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012 年度，新琵琶湖博物館創造準備室展示ワーキンググループ，全体調整.

昨年度に引き続き、今年度も中世琵琶湖のフナ属をめぐる消費と漁撈の実態解明に勢力を傾注するとともに、併せて水辺エコトーンの漁撈実態の解明とそこにおける村落の機能について追究した。そして、研究史整理にも取り組んで、京都大学に学位論文『日本中世の環境と村落』を提出した。

まず、科学研究費補助金基盤研究（C）「日本中世における「水辺推移帯」の支配と生業をめぐる環境史的研究」（研究代表者：橋本道範）および琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世史は「種」を問題とすることができるか—社会史から環境史への挑戦—」（研究代表者：橋本道範）に関しては、中世琵琶湖における都市消費と漁撈との関係および禁漁（殺生禁断）について概論した「Medieval social relationships and Lake Biwa fisheries」が刊行された。

次に、賀茂御祖神社（下鴨神社）のフナ属の神饌貢納が琵琶湖の漁撈とどのように関わっていたのかについて検討した小論「年中行事と生業の構造—琵琶湖のフナ属の生態を基軸として—」が刊行された。

次に、論考「中世における魚介類の都市消費と漁撈—琵琶湖のフナ属の旬をめぐる—」を完成させた。これは、中世においてフナ属が首都京都においてどのように消費されていたのかを明らかにした上で、そうした都市消費の動向が琵琶湖漁撈といかにかかわっていたのかについて検討を加えたものである。

次に、論考「中世の「水辺」と村落—「資源のより稠密な利用」をめぐる—」を執筆した。これは、近江八幡市の奥島周辺の水域と陸域が推移する「水辺」をフィールドとして、エリ漁などの漁獲原理の質的展開を措定し、その過程における上位の村落（荘郷）と下位の村落（ムラ）の機能について論じたものである。そこでは、13世紀前後を画期として資源利用の原理が稠密化の方向で転換をはかられていくなかで、新たな資源利用の形態に適合的な社会組織としてムラが地域資源利用の主導権を握ると論じている。

一方、今年度採択された科学研究費補助金基盤研究（B）「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究—中・近世村落像の再検討—」（研究代表者：青柳周一氏）に関しては、菅浦文書の再翻刻に分担して取り組んでいる。また、併せて菅浦地区に所蔵されている近世・近代の古文書の調査・撮影にあたった。

最後に、科学研究費補助金基盤研究（C）「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」（研究代表者：里口保文氏）に関して、研究成果の一部を紹介するトピック展示「天皇が記録した災害—花園天皇の日記から—」（2013年4月16日～6月23日）の準備を行った。

その他事業関係の業務については下記に概要を示す。

印刷物

【専門分野の著作】

- Hashimoto, M. (2013) Medieval social relationships and Lake Biwa fisheries. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 269-273.
- 橋本道範 (2013) 年中行事と生業の構造—琵琶湖のフナ属の生態を基軸として—. *環境の日本史 3 中世の環境と開発・生業*, 吉川弘文館: 189-216.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 橋本道範 (2013年3月15日) 日本中世における「水辺」と村落—「資源のより稠密な利用」をめぐる—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世史は『種』を問題とすることができるかー社会史から環境史への挑戦ー」,
(2012年度).

科学研究費補助金(基盤C)「日本中世における「水辺推移帯」の支配と生業をめぐる環境史的研究」(研究代表者:橋本道範),研究代表者(2011~2014年度).

科学研究費補助金(基盤C)「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」(研究代表者:里口保文),研究分担者(2010~2012年度).

科学研究費補助金(基盤B)「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究ー中・近世村落像の再検討ー」(研究代表者:青柳周一),研究分担者(2012~2015年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク,琵琶湖博物館,9件.

2012年8月3日,博物館資料と整理についてー歴史資料の収集・整理・保管と活用を中心にー,博物館実習,琵琶湖博物館,講師.

2012年8月4日,保存食を科学する「すなずし」,博物館講座,琵琶湖博物館,解説.

2012年10月21日,フロアトーク「ふなずしになったニゴローのいもうと」,あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!,琵琶湖博物館,講師.

他の博物館・機関等主催行事

2012年10月28日,座主のお話と、知事を囲んで、「石山寺縁起絵巻の全貌」展記念シンポジウム,滋賀県立近代美術館,石山寺(大津市),講師.

2012年12月15日,琵琶湖のエリ漁について,立命館守山中学校,総合学習(琵琶湖学習),琵琶湖博物館,講師.

視察対応

2112年5月27日,説明・案内,国立大学法人山口大学人文学部人文社会学科国史研究室,琵琶湖博物館.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

お正月トピック展示,「へびにまつわる干支セトラ」情報のweb発信,指導,2件.

収蔵資料展示情報のweb発信,指導,7件.

安土城考古博物館企画展「湖の船が結ぶ絆ー天智天皇・信長の大船、そしてうみのこー」へ『日吉山王祭礼図屏風六曲一双・左隻』・『日吉山王祭礼図屏風六曲一隻』の貸出情報のweb発信,指導,1件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

安土城考古博物館史料調査対応(『日吉山王祭礼図屏風六曲一双・左隻』・『日吉山王祭礼図屏風六曲一隻』).

安土城考古博物館企画展「湖の船が結ぶ絆ー天智天皇・信長の大船、そしてうみのこー」へ『日吉山王祭礼図屏風六曲一双・左隻』・『日吉山王祭礼図屏風六曲一隻』,貸出・返却対応.

定期収蔵庫清掃(特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室),実施,12回.

大掃除(B展示室・歴史研究室),実施,1回.

収蔵庫担当者会議,開催,3回.

生物環境調査,実施,3回.

特別観覧,対応,2件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年4月17日～5月20日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第29回，補助.

2012年5月22日～6月24日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第30回，補助.

2012年6月26日～8月5日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第31回，補助.

2012年8月7日～9月9日，収蔵資料展示「企画展示関連企画～古文書でたどる～田んぼの様子と農民の暮らし」第32回，補助.

2012年9月11日～10月14日，収蔵資料展示「企画展示関連企画～古文書でたどる～琵琶湖名産フナズシができるまで」第33回，補助.

2012年10月16日～11月18日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第34回，補助.

2012年11月20日～12月24日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第35回，補助.

2013年1月3日～1月27日，お正月トピック展示「へびにまつわる干支セトラ」歴史資料の部「古文書でさがそう!!
—様々な蛇—」，補助.

2013年1月3日～2月3日，お正月トピック展示「へびにまつわる干支セトラ」歴史資料の部「古文書でさがそう!!
—蛇にまつわる伝説の数々—」，補助.

2013年2月5日～3月10日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第36回，補助.

2013年3月12日～4月15日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第37回，補助.

B展示室常設展示陳列替え，実施，6件.

モーニングレクチャー，講義，4回.

展示交流員と話そう，指導，3件.

【企画調整活動】

地域発見！参加型移動博物館事業，対応，2012年7月21日，イオンモール京都（京都府京都市）.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012年度，新琵琶湖博物館創造準備室展示ワーキンググループ，チーム員.

本年度は、「人と自然との関係性の社会的検討」を研究主題としている。湖沼環境保全を担う鍵は、その地域の暮らしにあると考え、フィールド調査の地域学の立場から琵琶湖を含むアジアの湖沼環境変化とその対応についての検討を進めてきた。

研究活動では、これまでに実施してきた研究調査の一部を世界村落社会学会（ポルトガル）などの国際学会・会議での研究成果の公表を行った。その他、中日新聞の連載コラム『湖岸より』、毎日新聞連載コラム『ここだけの湖の話』の執筆も行った。また、企画展示を通して、研究成果の一部を、「東アジアの水田漁撈と漁具」（企画展示室での展示、企画展示「ニゴロの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」の開催、その副担当を務めた）、また「村の至宝 湧水と井戸」（琵琶湖博物館新空間での展示）において、一般公開に努めた。そして、異分野との共同研究については、主に外部資金による科学研究費補助金基盤研究C研究課題「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」及び基盤研究C研究課題「貯蔵」と「加工」からみた東アジア農耕導入期の野生植物食料利用の実態とその変遷」の研究分担者として研究を進めた。また、日本環境社会学会国際交流委員や大学での非常勤講師を継続している。

事業活動として、企画調整課の事業については、国際交流事業の推進・主担当、新琵琶湖博物館リニューアルに向けたピアレビュー関連・主担当、電子媒体による質問等の受付および情報整理・主担当、日本博物館協会・全国科学博物館協会・日本動物園水族館協会関連・主担当として、そのほか、新琵琶湖博物館リニューアル・県民ワークショップ関連・副担当、琵琶湖博物館中長期基本計画の推進・副担当、JICA研修に関すること・副担当、業績目録・副担当、博物館刊行物の調整・管理・副担当、新任職員等の研修・副担当として業務を行った。また、研究成果の還元につながる事業活動としては、県内外向けに「水と暮らしとの関わり」を中心とした講義及び博物館展示解説、地域交流会の実施、また博物館紹介の中国語版やパンフレットの翻訳などを行った。

印刷物

【専門分野の著作】

Yang Ping (2012) Topic 18 Waterside living and landscape. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 359.

【一般向けの著作】

楊 平 (2013) 湖岸より 176 水に親しむ 源流. *中日新聞*, 中日新聞社: 2013年2月23日.

楊 平 (2013) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館研究セミナー再現～20 水田で共に生きる知恵. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2013年3月12日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Yang Ping and Zhu W. (2012年7月8日) The exploitation and protection of rice paddy field's ecology. ChangJiang University, HUNAN, [ポスター発表].

楊 平 (2012年8月4日) Environmental change and boatman's life in TaiHu Lake, IRUSA. 世界村落社会学会国際大会, ポルトガル・リスボン, [口頭発表].

楊 平 (2013年1月13日) 水辺暮らしからみた湖の環境変容と持続的利用のありかた. 国際シンポジウム「湖の

現状と未来可能性」, 上海交通大学, [口頭発表].

楊 平 (2013年1月29日) 野生植物の利用について. 東アジア農耕導入期の野生植物食料利用研究会, 京都大学, [口頭発表].

楊 平 (2013年2月15日) 水田稲作と資源の共同利用. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤C) 「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」 (研究代表者: 楊平), 研究代表者 (2010~2014年度).

科学研究費補助金 (基盤C) 『貯蔵』と『加工』からみた東アジア農耕導入期の野生植物食料利用の実態とその変遷」 (研究代表者: 細谷 葵), 研究分担者 (2012年度~).

河川環境管理財団補助事業「琵琶湖水系における地域住民主体の湧水環境保全に向けた民俗論」 (研究代表者: 用田政晴), 共同研究者 (2012年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本環境社会学会, 国際交流委員, 2012年~.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年10月~2013年3月, 滋賀県立大学環境科学部, 「比較文化」, 非常勤講師.

博物館事業に関する業績

【交流サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

2012年5月19日, 琵琶湖博物館フィールドレポーター調査「天然水と水の神様」, フィールドレポーター交流発表会, コメンテーター.

2012年10月20・21日, あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!, 会場等の対応・企画展示の解説.

他の博物館・機関等主催行事

2012年5月15日, 関西高級中学校交流事業, 関西高級中学校, 琵琶湖博物館 (草津市), 展示説明及び講義.

2012年7月22日, 夏季中韓学習交流, 福祉法人さるさと会, 琵琶湖博物館 (草津市), 見学・展示案内.

2012年7月23日, 生活と水のかかわりについて, 滋賀県立石部高校ミュージアムスクール, 夏季集中講座「琵琶湖探究」, 琵琶湖博物館 (草津市), 講義.

2012年8月20日, 立命館大学日中青少年交流事業, 琵琶湖博物館 (草津市), 見学対応・講義.

2013年2月28日, 地域活性化と地元住民, 甲賀市国際交流, 甲賀市人権センター (甲賀市), 講師.

視察対応

2012年4月20日, 展示案内・展示解説, 韓国視察団, 琵琶湖博物館.

2012年5月23日, 琵琶湖と博物館、概要説明及び講義, 京都大学日中交流推進事業, 琵琶湖博物館.

2012年8月23日, 見学対応・講義, 日中協会環境交流事業, 琵琶湖博物館.

2013年3月21日, 展示解説, 滋賀県ビジターズビューロー事業関連 広東省視察団, 琵琶湖博物館.

2013年3月26日, 概要説明、展示解説, 湖南省友好30周年記念事業関連, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2012年4月13日, アジアの食文化, NHK 天津放送局 電話対応.

2012年4月17日、太湖における水上の暮らし、NHK 天津放送局 取材対応。

2012年6月8日、アジアの食文化と琵琶湖、NHK 天津放送局 取材対応。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電子媒体による質問等の受付および情報整理，主担当。

クエリーへの問い合わせ，回答，3件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の寄贈受け入れ，3件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示（C展示室）維持管理，担当。

第20回琵琶湖博物館企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」，副担当。

2012年7月28日～8月30日，琵琶湖博物館企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」
関連の展示説明，4件。

2013年2月20日～3月17日，琵琶湖博物館新空間展示「村の至宝 湧水と井戸」開催，副担当。

琵琶湖博物館関連のパンフレット等，中国語版の翻訳・作成等。

琵琶湖や琵琶湖の漁業関連のDVD等，中国版の翻訳・修正等。

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

国際交流事業の推進，主担当。

日本博物館協会・全国科学博物館協会・日本動物園水族館協会など，主担当。

琵琶湖博物館中長期基本計画の推進，副担当。

JICA研修に関すること，副担当。

業績目録，副担当。

博物館刊行物の調整・管理，副担当。

新任職員等の研修，副担当。

新任職員等研修，C展示室農村と暮らし展示説明，2012年4月18日，琵琶湖博物館。

移動博物館一般公開，展示業務，2012年4月25日，琵琶湖博物館。

琵琶湖博物館企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」オープンニングセレモニー，会場対応，2012年7月14日，琵琶湖博物館。

国際交流の課題について，報告説明，2012年8月16日，琵琶湖博物館。

地域発見！参加型移動博物館事業，会場対応，2012年8月25・26日，草津イオン（草津市），2件。

JICA博物館学集中コース，会場対応2012年9月25日，JICA研修事業，琵琶湖博物館。

中長期会議，会議参加・記録，2012年10月11日，琵琶湖博物館。

JICA博物館学集中コース，検討会議参加、会場・来客対応，2012年10月9日，琵琶湖博物館。

JICA博物館学集中コース，会場・全体等の対応，2012年10月11日～10月17日，琵琶湖博物館。

JICA研修事業，展示解説等対応・講義，2012年11月16日，琵琶湖博物館。

イオン交流事業関連，展示解説等の対応・講義，2012年11月27日，琵琶湖博物館。

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

新琵琶湖博物館リニューアル・ピアレビュー関連，主担当。

新琵琶湖博物館リニューアル・県民ワークショップ関連，副担当。

展示リニューアル検討委員会，委員。

第1回新琵琶博物館リニューアル・ピアレビューの実施，主担当，2012年11月6日，琵琶湖博物館。

第2回新琵琶博物館リニューアル・ピアレビューの実施，主担当，2012年11月29日，琵琶湖博物館。

第3回新琵琶博物館リニューアル・ピアレビューの実施，主担当，2012年12月19日，琵琶湖博物館。

第4回新琵琶博物館リニューアル・ピアレビューの実施，主担当，2013年3月14日，琵琶湖博物館。

第5回新琵琶博物館リニューアル・ピアレビューの実施，主担当，2013年3月29日，琵琶湖博物館。

第6回新琵琶博物館リニューアル・ピアレビューの実施，主担当，2013年3月30日，琵琶湖博物館。

【研究部関連事業】

海外の研究機関との連携，主担当。

2012年度，琵琶湖博物館研究セミナー，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012年度，JICA博物館学集中コース運営委員会，専門委員。

【海外渡航】

2012年7月27日～8月7日，ポルトガル・リスボン，世界村落社会国際会議参加・研究発表。

2012年11月17日～24日，中国浙江省周辺，現地資料収集・研究調査。

今年度は、研究代表を務める、科学研究費補助金（若手 B）「複数絵図情報の統合による集落の環境民俗建築学的研究」が、来年度に最終年を迎えることから、研究の取りまとめに向けた研究資料の整理、分析を行った。また、本研究の発展の方向性について、関連分野の研究者などとの意見交換を活発に行った。

事業分野では、はしかけ制度について主に担当し、様々な事業を企画・実施した。前年度、はしかけ制度成立 10 周年記念事業として企画した「はしかけオープンハウス」を、今年度についても継続実施した。また、はしかけ担当職員会議において、2010 年度まで実施していた「はしかけ発表会」と「はしかけ交流会」の 2 事業を、「はしかけオープンハウス」に発展的に統合し、来年度以降も実施していくことを合意した。

新琵琶湖博物館創造準備室交流空間再構築・交流機能強化ワーキングにおいては、2010 年度から交流担当として「はしかけ制度」および「フィールドレポーター制度」について担当、調査した業務経験をもとに、「博物館への新たな住民参加制度」の必要性を提案し、制度運営についての具体的な提案を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

Oi, F. (2012) Topic 19 The traditional baths used in houses in Shiga Prefecture. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 361-363.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「滋賀県で使用された揚水機についての基礎的研究－民俗学からみた景観研究の検討に向けて－」, (2012 年度).

科学研究費補助金（若手 B）「複数絵図情報の統合による集落の環境民俗建築学的研究」（研究代表者：老 文子）、研究代表者（2010～2013 年度）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フローアートーク, 琵琶湖博物館, 5 件.

はしかけ制度運営, 主担当.

はしかけ運営, 湖をつなぐ会, 担当.

2012 年 7 月 22 日, 環境と科学のフェスティバル, ワークショップ, ビバシティ彦根, 運営補佐.

2012 年 10 月 19・20・21 日, はしかけオープンハウス, 琵琶湖博物館交流促進事業「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!」, 琵琶湖博物館, 企画運営担当, (各はしかけグループ等と協力実施).

2012 年 10 月 20・21 日, アトリウムコンサート, 琵琶湖博物館交流促進事業「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!」, 琵琶湖博物館, 企画運営担当, (大阪音楽大学音楽博物館等と協力実施).

2012年10月20・21日、虹のレストラン、琵琶湖博物館交流促進事業「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!」、琵琶湖博物館、企画担当・運営補佐、「(「おいしが うれしが」キャンペーン推進店等と協力実施)。

他の博物館・機関等主催行事

2012年7月4日、富江家に学ぶ昔の暮らし、野洲市須原自治会、琵琶湖博物館、講師。

2012年8月9日、昔の暮らしから学ぶ、平成24年度滋賀県環境教育研究協議会、琵琶湖博物館、講師。

2012年8月10日、障害児向けプログラム「びわこの生き物について知ろう!」、長浜市社会福祉協議会、長浜市六角館、ワークショップ補助。

2012年10月5日、昔の暮らしから学ぶ、近江八幡市立八幡小学校、琵琶湖博物館、講師。

2012年11月17日、立命館守山中学校、琵琶湖学習、琵琶湖博物館、グループ学習指導。

2012年11月17日、民家と民具から見た生活文化、香芝市子ども育成連絡協議会、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

2012年7月1日、博物館案内・交流空間機能説明、地球音楽隊フレンドシップ、琵琶湖博物館。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗資料整理・収蔵庫管理、担当。

環境資料整理・収蔵庫管理、担当。

他の博物館・機関等の活動

2012年10月29日、滋賀県平和祈念館、戦災民家調査の指導。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示C展示室 富江家展示管理、展示修理・交換。

【研究部関連事業】

研究部紹介、副担当、2012年度。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012年度、新琵琶湖博物館創造準備室交流空間再構築・交流機能強化ワーキングチーム、メンバー。

河川行政の課題の1つである河川の維持管理に伴って発生した伐採竹の処分コスト縮減や資源としての循環利用の可能性について検討を進めている。

竹の利活用については様々な分野で研究開発が進められている。その中で有効な手法の1つとして期待されているのが、畜産での敷料利用である。現在、家畜の敷料として主にオガクズが使用されているが、製材所の減少や住宅の建築に影響を受けるなど、その入手については不安定な状況にある。また、竹パウダーの品質についても協力農家から及第点を得ており、これらのことから、オガクズに代えてある程度の需要が見込めると考えられる。今年度は、敷料利用に関する現状や竹パウダーの利用意向、条件等について畜産農家へのヒアリングを行うとともに、3軒の畜産農家の協力を得て、敷料として使用してもらい、吸水性や堆肥温度の観察を行った。

ヒアリングからは、肉用牛の肥育農家、壮年期の牧場経営者を中心に竹パウダーの使用に関して前向きな意見が多く、敷料として需要が見込めることが判った。一方で、安定供給やコスト、吸水性の良さや安全性など、敷料に対しての様々なニーズがあり、これらの課題をクリアしていく必要性を再認識した。

竹パウダーの作製は昨年同様河川敷で行った。伐採後の野積み期間と竹パウダーの水分量を調査したところ、伐採直後にパウダー化したものは50%前後と、敷料としては使えないような数値であった。2ヶ月程野積みした後にパウダー化すると水分量が30%まで下がり、オガ粉と同等まで水分を下げられることが判った。

竹パウダーに含まれる細菌について家畜保健衛生所に検査を依頼したところ、リューコノストック属の乳酸菌が検出された。乳酸菌は発酵に伴い弱酸性の環境をつくりだすため制菌作用がある。オガ粉は乳房炎の原因のひとつだと指摘される農家もあり、乳酸菌の存在は竹パウダーの安全性やオガ粉にない付加価値を生み出す一方、カビの発生などパウダーの保管・備蓄には不向きであるという欠点もある。

今年度の牧場試験では、昨年度までの結果をふまえ、竹パウダーに従来敷料であるオガ粉やモミガラを混合し、敷料として使用して頂いた。これにより、竹パウダーの締め固まりが緩和され、オガ粉と同等の吸水性を確保することができた。しかし、是非とも竹パウダーをオガ粉に替えて使いたい、というところまでは至っていない。

畜産農家は敷料を堆肥として耕種農家や自家農園に提供している。しかし、年間通じて提供先を確保できている農家は少ない。農家ヒアリングからはこのような課題や竹パウダーを堆肥化に利用できないかといった提案も頂いた。そこで、敷料として使用した後の堆肥について竹パウダーの混合方法を変えて温度測定を行った。その結果、堆肥化（発酵）の開始時期は堆肥の水分量に左右されるものの、発酵温度については、竹パウダーを含む方が高くなる傾向があった。今回は試験ケースが少なかったため、今後さらなる検証が必要であるが、良好な堆肥作成に竹パウダーが寄与すれば、耕種農家と畜産農家の連携強化に繋がる可能性がある。

依然として課題になっているのは、竹パウダーの供給量と製作コストである。単位面積当たりの竹の伐採費と廃棄物処分費を比較したところ、今回の伐採現場では千㎡当たり約20万円処分費の方が安くなった。差額は処分単価にも左右されるが、河川管理者の立場からすると、本来の目的である維持管理コストの削減は達成できない。供給量についても、機械の性能の範囲で製作すると1日に2m³であった。

今年度の検討結果から、竹パウダーを利用した河川の維持管理コストの削減は、行政のみが関わる形では困難であることが判った。しかし、竹パウダーの持つ乳酸菌が、敷料としての付加価値や、堆肥を通じた耕種農家との連携などの可能性を秘めていることも実感できた。今後は、これらの可能性をさらにフィールドで検証していく必要がある。また、ネックとなっている竹パウダーの製作コストのうち8割は人件費である。行政が土木業者にパウダー製作を発注するのではなく、NPOや地域活動の場で竹パウダーを製作してもらうことができれば、少ないコストで生産できる。竹パウダーを畜産農家が使用し、発生した堆肥を耕種農家や地域団体に還元し安全で美味しい農産物の収穫ができれば、竹パウダーを介した河川管理者、畜産農家、耕種農家や地域団体の「三方よし！」の循環モデルを構築できるかもしれない。付加価値の検証と併せて、循環モデルの構築について、引き続き模索していきたいと思う。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

井関明子（2013年3月15日）伐採竹におけるゼロエミッション型モデルの実用化に向けた検討について。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，8件.

2013年2月17日，水害とくらしの関係，環境ほっとカフェ～未来の暮らしのつくり方～，環境学習センター，講師.

他の博物館・機関等主催行事

2012年9月28日，琵琶湖博物館の概要（土木と琵琶湖博物館），全国建設技術センター研究発表会，琵琶湖博物館.

2012年9月28日，滋賀県の水害対策，京都府立大学，琵琶湖博物館.

2012年10月2日，滋賀県の水質浄化対策について，JICA研修，琵琶湖博物館.

2012年12月15日，滋賀県の川への取り組みについて，名古屋大学国際環境人材育成プログラム，琵琶湖博物館.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年度，常設展示維持管理，主担当.

常設展示維持管理委託，主担当.

屋外展示維持管理委託，主担当.

C展示室富江家耐震補強業務，実施.

C展示室回転実験室点検業務，実施.

C展示室水族展示タッチングプール壁面画補修業務，実施.

ディスカバリールーム ザリガニ展示補修業務，実施.

モーニングレクチャー，講義，4回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012年度，滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室河川環境チーム，主任技師を兼務.

琵琶湖の湖底堆積物を中心とした花粉分析に基づいて、近畿地方における過去数十万年間の森林植生の変遷と気候変動との関連についての研究を進めている。本年度から琵琶湖博物館の一員となり、これまでの研究テーマについて、より発展、深化させていくことを目指している。

具体的な研究内容については、琵琶湖博物館専門研究を通して琵琶湖堆積物の花粉分析の高精度化を行うことにより、これまで進めてきた過去 12 万年前以降の森林変遷と気候変動との対応関係についての検討を進めた。また、これまで花粉分析的な研究が行われてこなかった過去 100 年間の環境変化についても、琵琶湖をはじめとした日本各地域での湖沼堆積物の分析から明らかにすることを目的としたプロジェクトに参加して検討を進めてきた。その成果の一部は、琵琶湖堆積物の分析結果として本年度日本花粉学会誌に公表し、その他の地域での成果についても今後随時発表していく予定である。

また、本年度は連携講座「琵琶湖 自然と文化」において、第 2 回の「琵琶湖の自然史」の講師として一般向けに研究内容についての発表を行なった。さらに、第 13 回国際花粉学会議および第 9 回国際古植物学会（IPC/IOPC 2012）の巡検案内や毎日新聞のコラム記事、琵琶博だよりの記事を通して、研究内容の紹介に努めた。

博物館事業に関しては、交流グループの一員として主に地域連携事業と観察会等のイベントの運営と企画を担当した。観察会については、リニューアルを念頭において博物館や烏丸半島の新たな活用方法を探ることを目指し、月 1 回ペースで博物館周辺での観察会や講座を行っていく「からすま半島で楽しもう」を企画、立案し、2013 年度に実施することとなった。展示面では、ギャラリー展「かわいいモンスター」について担当の 1 人として参加し、さらに連携展示としてトピック展示「かわいい化石のモンスター」を主担当として開催した。また、草津市教育研究所が主催の環境学習指導者養成講座の講師や、エフエム滋賀での取材協力を通して、博物館事業についての紹介を行った。

館外での活動としては、環境と科学のフェスティバルの実行委員としてイベントの企画運営に携わり、琵琶湖博物館としての参加協力を行った。また、滋賀県博物館協議会の記念事業委員として、30 周年記念「しが県博協まつり」の企画運営に取り組み、スタンプラリーやワークショップ、講演会、巡回パネル展の成功に協力することができた。

印刷物

【学術論文】

林 竜馬・兵藤不二夫・占部城太郎・高原 光 (2012) 琵琶湖湖底堆積物に記録された過去 100 年間のスギ花粉年間堆積量の変化. *日本花粉学会誌*, 58 (1) : 5-17.

【一般向けの著作】

林 竜馬 (2012) 新任学芸職員あいさつ. *琵琶湖博物館フィールドレポーター掲示板*, 67, 琵琶湖博物館フィールドレポーター : 2.

林 竜馬 (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～12 花粉の化石が語るもの. *毎日新聞*, 毎日新聞社 : 2012 年 10 月 11 日.

林 竜馬 (2013) どこでもだれでもフィールド情報 森の変化から見える気候や人の歴史. *琵琶博だよりの*, 11, 滋賀県立琵琶湖博物館 : 2-3.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

Hayashi, R., Inoue, J., Makino, M. and Takahara, H. (2012) Vegetation history during the last 17,000 years

around Sonenuma Swamp in the eastern shore area of Lake Biwa, western Japan: with special reference to changes in species composition of *Quercus* subgenus *Lepidobalanus* trees based on SEM pollen morphology. *Quaternary International*, 254: 99–106.

- Takahara, H., Igarashi, Y., Hayashi, R., Kumon, F., Liew, P.M., Yamamoto, M., Kawai, S., Oba, T. and Irino, T. (2010) Millennial-scale variability in vegetation records from the East Asian Islands: Taiwan, Japan and Sakhalin. *Quaternary Science Reviews*, 29: 2900–2917.
- Hayashi, R., Takahara, H., Hayashida, A. and Takemura, K. (2010) Millennial-scale vegetation changes during the last 40,000 years based on a pollen record from Lake Biwa, Japan. *Quaternary Research*, 74: 91–99.
- Hayashi, R., Takahara, H., Yoshikawa, S. and Inouchi, Y. (2010) Orbital-scale variability of vegetation during MIS 6, 5, 4, and 3 based on a pollen record from the Takashima-oki core in Lake Biwa, western Japan. *Japanese Journal of Palynology*, 56: 5–12.
- 高原 光・林 竜馬 (2010) 急激な気候変動に対する植生の応答. *月刊海洋*, 473: 185–191.
- Hayashi, R., Takahara, H., Tanida, K. and Danhara, T. (2009) Vegetation response to East Asian monsoon fluctuations from the penultimate to last glacial period based on a terrestrial pollen record from the inland Kamiyoshi Basin, western Japan. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 284: 246–256.
- 牧野真人・林 竜馬・高原 光 (2009) 走査電子顕微鏡によるコナラ属の花粉形態. *京都府立大学学術報告 生命環境学*, 61: 53–81.
- Hayashi, R., Takahara, H., Tanida, K., Danhara, T., Yoshikawa, S. and Inouchi, Y. (2007) Vegetation response to past climate changes since the last interglacial based on long pollen records from the Kamiyoshi Basin and Lake Biwa, western Japan. *Quaternary International*, 167–168: 158.
- Hayashi, R., Takahara, H., Danhara, T., Yoshikawa, S. and Inouchi, Y. (2006) Vegetation response to climate changes since the last interglacial based on pollen data of the Kamiyoshi Basin and Lake Biwa sediments. *Abstract The 5th International Symposium on Terrestrial Environmental Changes in East Eurasia and Adjacent Areas*: 73–74.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Hayashi, R., Takahara, H., Igarashi, Y., Kumon, F., Liew, P.M., Yamamoto, M., Kawai, S., Oba, T., Irino, T., Shichi, K. (2012年8月29日) Detection and characterisation of millennial-scale vegetation and climate variability in Quaternary pollen records from East Asia—recent progress and future perspective. 第13回国際花粉学会議および第9回国際古植物学会 (IPC/IOPC 2012), The Palynological Society of Japan, The International Federation of Palynological Societies, The International Organisation of Palaeobotany, Association of Pollen Information (NPO 花粉情報協会), 中央大学 (東京都文京区), [口頭発表].
- Fujii, R., Takahara, H., Hayashi, R., Yabe, A., Terada, K., Momohara, A., Yoshizawa, Y., Yamamoto, H., Nakagawa, T. (2012年8月29日) Vegetation reconstruction in MIS5e and MIS5d based on plant remains from the Mizukiri peat layer, Fukui, western Japan. 第13回国際花粉学会議および第9回国際古植物学会 (IPC/IOPC 2012), The Palynological Society of Japan, The International Federation of Palynological Societies, The International Organisation of Palaeobotany, Association of Pollen Information (NPO 花粉情報協会), 中央大学 (東京都文京区), [ポスター発表].
- Watanabe, A., Takahara, H., Hayashi, R., Takemura, K. (2012年8月29日) Vegetation and fire history since the last glacial based on pollen and macroscopic charcoal records in the southern area of Mt. Yufu, northeast Kyushu, Japan. 第13回国際花粉学会議および第9回国際古植物学会 (IPC/IOPC 2012), The Palynological Society of Japan, The International Federation of Palynological Societies, The

International Organisation of Palaeobotany, Association of Pollen Information (NPO 花粉情報協会), 中央大学 (東京都文京区), [ポスター発表].

林 竜馬 (2012 年 9 月 21 日) 琵琶湖湖底堆積物の花粉分析からみる万年・千年・百年スケールの森林変遷. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

佐々木尚子・林 竜馬 (2013 年 3 月 6 日) 堆積物中の花粉を用いた湖沼・集水域植生の復元. 日本生態学会第 60 回大会, 日本生態学会, 静岡県コンベンションアーツセンター (静岡県静岡市), [口頭発表].

林 竜馬・高原 光・佐々木尚子・兵藤不二夫・槻木玲美・加 三千宣・牧野 渡・占部城太郎 (2013 年 3 月 7 日) 湖沼堆積物の花粉組成は何を反映しているか? 琵琶湖、立山みくりが池、木崎湖における植生-花粉組成の比較と定量的植生復元手法の検討. 日本生態学会第 60 回大会, 日本生態学会, 静岡県コンベンションアーツセンター (静岡県静岡市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺における最終間氷期以降の森林変遷の高精度復元」, (2012 年度).

環境省環境研究総合推進費「湖沼生態系のレトロスペクティブ型モニタリング技術の開発」(研究代表者: 占部城太郎), 研究協力者 (2010~2012 年度).

厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助研究「別寒辺牛川集水域における明治期以降の土地利用変化と植生の変遷過程の解明」(研究代表者: 佐々木尚子), 共同研究者 (2012 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本花粉学会, 日本花粉学会会誌, 編集委員.

Quaternary Research, 査読, 1 件.

Quaternary Science Review, 査読, 1 件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 8 件.

2012 年 12 月 15 日, 化石花粉が語る琵琶湖の森と人の歴史, 連携講座 琵琶湖自然と文化「第 2 回琵琶湖の自然史」, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2012 年 7 月 24 日, 自分の木~身近な樹木の観察と森林の移り変わり~, 環境学習指導者養成講座, 草津市教育研究所, ロクハ公園および草津市教育研究所 (滋賀県草津市), 講師.

2012 年 8 月 31 日, Quaternary environment and vegetation changes in Kyoto and its vicinity, IPC/IOPC 2012 Post-conference Field Trip Post-3, IPC/IOPC 2012, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), 講師.

メディアへの協力

2012 年 7 月 5 日, エフエム滋賀, Happy! 平和堂マイデイリーライフ, 夏休み自由研究講座の紹介, 出演.

2012 年 12 月 3 日, 京都新聞, 湖国探検 34, 研究内容および連携講座の紹介, (2012 年 12 月 1 日取材対応).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物標本整備, 収蔵庫維持管理, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ギャラリー展示「かわいいモンスター」, 担当.

トピック展示「かわいい化石のモンスター」, 担当.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

地域発見! 参加型移動博物館, 展示対応, 2012年8月7日, ピアザ淡海.

地域発見! 参加型移動博物館, 展示設営, 2012年10月26日, フォレオ大津一里山.

【研究部関連事業】

研究セミナー, 主担当, 2012年度, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012年度, 滋賀県博物館協議会記念事業委員会, 委員.

2012年度, 環境と科学のフェスティバル実行委員会, 委員.

山村集落では、過疎高齢化に伴い、祭りの実施や水道管理などが困難になりつつあるが、それに対する対応は集落ごとに異なっている。区や氏子、若者といったなどの集落に存在する組織と、それらの組織を通じて維持管理されてきた資源に着目しながら、地域住民の考えと、集落の対応を、明らかにしている。

着任1年目の今年度は、これまで続けてきた山村の暮らしの変容に関する調査・研究を継続すると共に、滋賀県内での調査・研究の基盤づくりを行うことに重点を置いた。

2008年から行っている山梨県早川町での調査を継続するとともに、滋賀県内では、多賀町、彦根市、米原市、長浜市、高島市での調査を行った。山梨県早川町の事例と比較した場合、山村と他出先との距離が比較的近いという点で似ているものの、山村を離れた時期や経緯が異なる事例が、滋賀県内に複数見つかった。今後調査を進め、それぞれの事例を相対化し位置づけたいと考えている。成果は、日本村落研究学会、関西若手ルーラル研究会、コモنز研究会等で発表した。

また、ヨシの利用や流通について、近江八幡市を中心に調査を開始したところである。

印刷物

【専門分野の著作】

大久保実香 (2013) 限界集落とローカルコモンスター管理主体の一員としての他出者の役割. *森林環境 2013*, 森林文化協会: 53-64.

大久保実香 (2012) 若者にとっての山村—山梨県早川町の事例から. *日本村落研究学会研究通信*, 235, 日本村落研究学会: 21.

【一般向けの著作】

大久保実香 (2012) 日々の暮らしもフィールドそのもの. *琵琶博だより*, 10, 滋賀県立琵琶湖博物館: 2-3.

大久保実香 (2012) 忘れられた当たり前を探す: 目からウロコのフィールドワーク⑦ 持ちつ持たれつの信頼関係. *サステナ (ウェブ版)*, 24, 東京大学サステナビリティ学連携研究機構: 88-89.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

大久保実香・田中 求・井上 真 (2011) 祭りを通してみた他出者と出身村とのかかわりの変容—山梨県早川町茂倉集落の場合. *村落社会研究ジャーナル*, 17(2), 日本村落研究学会: 6-17.

大久保実香 (2011) 山梨県早川町における他出者がかかわるコモンスターとしての区と祭り. *第43回環境社会学会要旨集*, 環境社会学会: 20-21.

大久保実香 (2009) 山村の地域資源維持における他出者の役割—山梨県早川町M集落の事例. *日本村落研究学会研究通信*, 226, 日本村落研究学会: 22-23.

大久保実香 (2010) 「外にいる衆」と集落—早川町茂倉の事例から. (特) *日本上流文化圏研究所研究報告会資料*: 11-12.

大久保実香 (2009) ケニアにおけるフォーマル/ローカルな種子システム—ケツイ県ムセベ村の事例. *科研費研究「地域の生物多様性と社会的環境管理能力構築」研究会講演要旨集*: 18-23.

大久保実香・平野僚子・Khaing Pann Wit Hmon・三村真紀子・菊池 彰・渡邊和男 (2008) ミャンマー由来のMusa属遺伝資源の遺伝的多様性とゲノム構成の評価. *育種学研究*, 1(10), 日本育種学会: 124.

大久保実香 (2008) ミャンマー由来のMusa属遺伝資源の遺伝的多様性とゲノム構成の評価. *つくば生物ジャーナル*, 1(7), 筑波大学生物学類: 46.

- 大久保実香 (2012) 早川の若けえ衆んとお. *やまだらけ*, 51, 早川町フィールドミュージアム運営委員会 : 1-4.
- 大久保実香 (2010) 茂倉の絆. *やまだらけ*, 42, 早川町フィールドミュージアム運営委員会 : 1-4.
- 大久保実香 (2009) 太陽に愛されて一夏秋の暮らし, *やまだらけ*, 35, 早川町フィールドミュージアム運営委員会 : 1-3.
- 大久保実香 (2005) 地域を愛し、地の者として生きる. *季刊生命の島*, 71, 屋久島産業文化研究所 : 79-81.
- Hirano, R., Okubo, M., Syed Abdullah Gilani, N. and Watanabe, K. (2010) *Banana in Myanmar: a preview.* Mimatsu Corporation, Tokyo.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 大久保実香 (2012年5月18日) 他出者と集落とのかかわりー山梨県早川町茂倉の事例からー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 大久保実香 (2012年10月5日) 「限界集落」のその先をどう描けるかー他出第二・第三世代の立場から. 第15回関西若手ルーラル研究会 (かわきゅう), 関西若手ルーラル研究会, キャンパスプラザ京都 (京都府京都市), [口頭発表].
- 大久保実香 (2012年10月27日) 若者にとっての山村ー山梨県早川町の事例から. 日本村落研究学会第60回智頭大会, 日本村落研究学会, 智頭町旧山郷小学校 (鳥取県八頭郡智頭町), [口頭発表].
- 大久保実香 (2013年2月9日) 「限界集落」における資源共同管理の現在. コモンズ研究会定例会, コモンズ研究会, 龍谷大学深草学舎 (京都府京都市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「農山漁村における暮らしの変容」, (2012年度).
- 科学研究費補助金 (基盤 B) 「限界集落における持続可能な森林管理のあり方についての研究」 (研究代表者: 奥田裕規), 研究協力者 (2010~2012年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 国際コモンズ学会, 第14回世界大会 (北富士大会) 組織委員会事務局, 2013年3月~.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 8件.
- 2012年8月3日, 資料整備活動の実習指導, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2012年8月18日, 滋賀の自然をめぐるミステリー観察会, 観察会, 長浜市, 運営補助.
- 2012年10月21日, 近江の昔ばなし, あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!, 琵琶湖博物館, 担当.
- 2012年10月21日, とっておき資料の裏話, あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!, 琵琶湖博物館, 担当.
- 2013年2月17日, 虫の目、鳥の目から見る私たちの暮らし, 未来 (これから) の暮らしの作り方, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 講演・運営補助.
- 2013年3月10日, 未来 (これから) の暮らしの作り方, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 高島市, 運営補助.

他の博物館・機関等主催行事

- 2012年11月6日, 琵琶湖と暮らし, 滋賀県レイカディア大学, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2013年3月12日, 地域と暮らしを見つめるヒント, 東海シニア自然学校, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2012年10月5日，展示案内，(財)消防試験研究センター役職員，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2013年2月15日，えふえむ草津，イブロケ785「琵琶湖博物館玉手箱 ハロー!!びわはく」，ラジオ出演。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

東近江市博物館「もっと知りたい！東近江市 『食』うまい！ー明日へ命をつなぐものー」への食品レプリカの貸出・返却，対応。

環境資料の受入れ，対応。

図書資料の受け入れ，対応。

環境収蔵庫定期清掃，実施，11回。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

2012年10月19日～10月28日，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！琵琶湖博物館とっておき?! 資料展，担当。

2013年度ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎ー植物研究にかけた情熱」，担当。

【企画調整活動】

地域発見！参加型移動博物館，設置・展示交流・撤収，2012年7月4日，ニッセイ・ライフプラザ丸の内 未来フォレスト（東京都千代田区）。

地域発見！参加型移動博物館，撤収，2012年8月26日，イオンモール草津（草津市）。

イナズマロックフェス出展ブース，展示交流・集客，2012年9月15日，イナズマロックフェス会場（滋賀県草津市）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012年4月～，滋賀県博物館協議会，広報委員。

2012年度は、文化庁の地域ミュージアム活性化事業として、滋賀県ミュージアム活性化推進委員会事業の実施にあたった。沖島～歴史体験クルーズ～では、地曳網で漁獲された魚について解説を行うとともに、船内で琵琶湖の生物についての講義を行った。また、安土城考古博物館との連携講座「琵琶湖 自然と文化」では両館の学芸員のほか、各界の第一線で活躍されている講師を招いて、滋賀の魅力を再発見する内容の講座を企画、運営した。この他、海外に向けての情報発信ツールとして、水生植物公園みずの森と協働した外国人向けの、烏丸半島の魅力を紹介したリーフレットを作成した。

2013年度のギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎」の副担当として、現生植物の写真資料を収集するとともに、コレクションの貝類と植物区、天然記念物の展示部分を担当することとなった。また、企画展示「(仮) 生物多様性」においても副担当として、企画と計画の作成を担当している。

研究では、ハリヨとイチモンジタナゴの生息域外保全事業の最終年度にあたることから、事業のまとめと事業終了後の方向性を検討した。また、昨年度実施したイチモンジタナゴの交流会に続き、地域の方々の理解を得る目的で、ハリヨ研究報告会を米原公民館で開催した。この他、京都大学、志摩マリンランド、水道記念館、神戸市立須磨海浜水族園などとの共同研究として、アユモドキの遺伝的多様性調査に参加した。

印刷物

【学術論文】

Kitazima, J., Takeda, S., Matsuda, M., Nishida, S. Mori, S. (2012) Translocation and re-introduction project of striped bitterling in Lake Biwa and neighboring areas, Japan. *Global Re-introduction Perspectives*, IUCN : 59-64.

【専門分野の著作】

松田征也 (2012) 少なくなった魚たちの飼育繁殖. *ハリヨ研究報告会要旨集, 琵琶湖博物館 : 10.*

【一般向けの著作】

松田征也 (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～14 イチモンジタナゴの保全を. *毎日新聞*, 毎日新聞社 : 2012年11月20日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

松田征也 (2012年12月12日) ハリヨ. 環境省生息域外保全モデル事業報告・研究会, 東京大学, [口頭発表].

松田征也 (2012年12月12日) イチモンジタナゴ. 環境省生息域外保全モデル事業報告・研究会, 東京大学, [口頭発表].

松田征也 (2013年1月31日) 少なくなった魚たちの繁殖. *ハリヨ研究報告会*, 米原公民館, [口頭発表].

松田征也 (2013年3月23日) イチモンジタナゴの野生復帰に向けた取り組み. 第6回全国タナゴサミット, 八尾市文化会館(大阪府八尾市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「滋賀県内における淡水生貝類の分布調査および既存情報との比較」, (2012年度).
琵琶湖博物館共同研究「山と湖をつなぐ地下水環境域」(研究代表者:マーク ジョセフ グライガー), 研究副代表(2011~2012年度).
環境省「ハリヨ野生復帰モデル事業」(研究代表者:松田征也), 研究代表者(2010~2012年度).
環境省「イチモンジタナゴ野生復帰モデル事業」(研究代表者:松田征也), 研究代表者(2010~2012年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

2012年7月7日, 保存食を科学する「湖魚の佃煮」, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年7月21日, 身近な川の魚を調べてみよう, 観察会, 守山市運動公園, 講師.

2012年7月31日, 事業部について, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講義.

2012年8月2日, 琵琶湖の貝を調べてみよう, 第36回自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講義.

2012年8月4日, 保存食を科学する「ふなずし」, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年8月7日, ディスカバリーボックス製作について, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講義.

2012年8月22日, 沖島 ~歴史体験クルーズ~, 滋賀県ミュージアム活性化推進委員会, 琵琶湖湖上, 講師.

2012年9月1日, 保存食を科学する「かんぴょう」, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年10月20日, 水族バックヤード探検, あさ、ひる、ばん 琵琶湖博物館を楽しもう!, 琵琶湖博物館, 解説.

2013年2月17日, 淡水貝類の最新の分類について, うおの会勉強会, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2012年5月20日, 魚への漢字しらべ, 漢字探検隊, 立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所, 琵琶湖博物館, 解説.

2012年7月28日, 地域にすむ魚たちについて, 野洲市高木町自治会, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年8月9日, 琵琶湖の概要と水族展示室の解説①②, 平成24年環境教育研究協議会, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

2012年8月24日, 琵琶湖の魚についての解説と水族展示案内, (公)俳人協会, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年9月28日, 貝類の解剖, 甲賀市中学校理科部会, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年10月27日, 地域住民との環境保全, 南山大学, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年10月27日, 地域連携と水族展示バックヤードの案内, 三重大学, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年2月24日, 希少淡水魚の保全と動物園・水族館, 滋賀県獣医学会, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年2月26日, 淡水魚の話, 名鉄観光サービス(株)京滋支店, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2013年2月9日, 博物館の概要, 岐阜県海津市教育委員会委員, 琵琶湖博物館.

2013年3月22日, 博物館と企業連携, アイシン精機, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2012年4月3日, NHK, 「おうみ生き物図鑑」, (2012年4月2日取材協力).

2012年4月10日, NHK, 「おうみ生き物図鑑」, (2012年4月10日取材協力).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館インターネットページ・博物館ニュース、写真提供、10件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

写真資料整理、同定、435点（北海道旭川市）。

他博物館・機関の活動

千歳サケのふるさと館、ハリヨ10尾、分譲。

亀岡市文化資料館、アユモドキ5尾、貸出。

京都市動物園、イチモンジタナゴ、30尾、分譲。

近畿大学、Parabotia maculosa等標本、貸出。

小樽水族館公社、ビワコオオナマズ2尾、ホトケドジョウ10尾、貸出。

岡山理科大学、魚類咽頭菌乾燥標本、貸出。

名古屋市東山動物園、スイゲンゼニタナゴ60尾、分譲。

姫路市立水族館、カネヒラ15尾、ハリヨ25尾、分譲。

福井県立大学、ハリヨ10尾、分譲。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

トピック展示「金環日食を振り返ろう」、企画。

第20回企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」巨大タツベ、鳥類写真担当。

水族トピック展示「イチモンジタナゴの稚魚」、企画。

水族トピック展示「ホンモロコの稚魚（コイ科）」、企画。

水族トピック展示「天然記念物「イタセンバラ」の未成魚」、企画。

水族トピック展示「マミズクラゲ」、企画・飼育。

水族トピック展示「天然記念物「アユモドキ」の幼魚 絶滅危惧IA類」、企画。

水族トピック展示「ビワコガタスジシマドジョウの幼魚」、企画。

水族トピック展示「産卵期を迎えたカネヒラ」、企画。

【企画調整活動】

滋賀県博物館協議会、総会進行、2012年6月27日、滋賀県平和祈念館（東近江市）。

文化庁ミュージアム活性化支援事業、連携講座、主担当、全5回、琵琶湖博物館。

【研究部関連事業】

調査船「うみんど」管理、副担当、

研究用アルコール管理、主担当

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

文化庁ミュージアム活性化支援事業推進、主担当。

【館外の活動】

1999年～、守山湖岸再生部会、委員。

2000年～、木浜内湖再生部会、委員。

2005年～、日本動物園水族館協会 種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会、検討委員。

2004 年～，淀川水系アユモドキ連絡協議会(環境省)，委員.

2012 年度，日本動物園水族館協会 種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，ニッポンバラタナゴ種別調整者.

2012 年度，日本動物園水族館協会 種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，アユモドキ種別調整者.

2012 年度，日本動物園水族館協会 種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，イチモンジタナゴ種別調整者.

2012 年～，亀岡市アユモドキ緊急調査検討委員会，委員.

2012 年～，日本動物園水族館協会生物多様性委員会，保全戦略部部員.

今年度、環境学習センターの所長を研究部との兼務で行うことになった。環境学習センターは前年度まで交流グループの一部であったものが、今年度から分離されたものである。環境学習センターでは、「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！」を主催したり、環境ホットカフェを実施したりといった様なイベントも多々あるが、地域で活動している個人や団体との情報を収集し、それらの情報を元に活動を行いたいと思っている人達を支援していくことが主要な業務となる。しかし、2010年に博物館に移管される際に環境推進員が1名に減員されたことから、実際には情報収集ができなくなり活動も停滞していた。今年度は環境推進員が2名になったことで、多少なりとも情報収集を行うことができるようになり、活動も活発になってきた。ただ、環境学習センターには学芸員は私一人であり博物館の中での位置づけも曖昧なままである。そのため、琵琶湖博物館における環境学習センターのあり方を検討する必要があった。そこで、環境学習センターが持っているノウハウと資産を活かす形で、交流グループに位置づけられている地域連携機能を充実させる方向で検討を進め、試案としてまとめた。

それ以外では、7月14日～9月2日に開催された第25回 水族企画展示「ぼくらは田んぼの合唱団－滋賀にすむカエルたち－」を主催した。また、共同研究の一環で採集されたアナンデルヨコエビとビワオオウズムシの飼育試験を行い、アナンデルヨコエビに関しては水族トピック展示で初公開を行った。いずれも、現在検討が進んでいるリニューアルに向けて新たな水族展示の一環として展示の可能性を見いだすことができた。

研究活動では、「定期サンプリングによる湖内におけるビワマスの基礎的生態情報の取得」というテーマで、東大グループおよび近大グループと共同研究をすすめ、今年度はその2年目に当たる。私の分担である胃内容物の季節変化について、2011年と2012年のデータを比較することで、新たな知見も得ることができた。

昨年度末Online FirstでHP上に公開された「Introgression of *Oncorhynchus masou* subsp. (Biwa salmon) genome into lake-run *O. m. ishikawae* (Amago salmon) introduced into Lake Biwa, Japan」がIchthyological Researchの59巻3号に掲載された。また、魚類学雑誌に掲載されているシリーズ・Series日本の希少魚類の現状と課題において、ビワマスに関する記事の執筆依頼を受け「ビワマス：その利用と保全」というタイトルで投稿し、2013年4月に発行される魚類学雑誌に掲載される予定である。

印刷物

【学術論文】

Kuwahara, M., Takahashi, H., Kikko, T., Kurumi, S. and Iguchi, K. (2012) Introgression of *Oncorhynchus masou* subsp. (Biwa salmon) genome into lake-run *O. m. ishikawae* (Amago salmon) introduced into Lake Biwa. *Ichthyological Research*, 3(59), 日本魚類学会：195-201.

【一般向けの著作】

桑原雅之 (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナーの再現～10 漁業資源ビワマスを知る. *毎日新聞*, 毎日新聞社：2012年9月7日.

桑原雅之 (2012) 湖岸より 169 守りたいビワマス産卵. *中日新聞*, 中日新聞社：2012年11月10日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

桑原雅之(2012年8月17日) 定期サンプリングによる湖内におけるビワマスの基礎的生態情報の取得. 琵琶湖博物

館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館(滋賀県草津市)，[口頭発表]。

天野洋典・桑原雅之・白井厚太郎・鈴木享子・村山雅史・大竹二雄（2013年3月27日）ビワマスの放流魚識別における耳石の酸素・炭素安定同位体比の有効性。平成25年度日本水産学会春季大会，日本水産学会，東京海洋大学品川キャンパス(東京都)，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究」，(2012年度)。

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者：高橋啓一)，研究協力者(2011～2015年度)。

琵琶湖博物館共同研究「定期サンプリングによる湖内におけるビワマスの基礎的生態情報の取得」(研究代表者：桑原雅之)，研究代表者(2011～2013年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

伊豆沼・内沼研究報告，査読，1件。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件。

2012年7月28日，漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう，見学会，湖北町尾上，(協力：朝日漁協、菅原和宏と共同)。

2012年9月15日，アユの産卵用人工河川を見てみませんか，見学会，高島市安曇川町 安曇川人工河川，副担当，(協力：(財)滋賀県水産振興協会・滋賀県水産課)。

2012年10月27日，ビワマスの採卵現場を見学してみませんか，見学会，マキノ町知内，主担当，(協力：百瀬漁協・滋賀県漁連高島事業場、菅原和宏と共同)。

他の博物館・機関等主催行事

2012年5月20日，博物館実習Ⅱ，京都女子大学文学部国文学科4回生，琵琶湖博物館，講師。

2012年6月2日，川の生きものたちを見つけられるかな，常世川再生の会，甚七町自治会所(大津市)，講師。

2012年6月10日，琵琶湖の自然とさかな達，湖南市石部西区，琵琶湖博物館，講師。

2012年7月19日，矢倉小学校田んぼの学校，矢倉小学校，講師。

2012年8月6・7・9日，淡水魚の生態と分類，シニア自然大学，淡水魚①，NPOプラザ(大阪市)，講師。

2012年8月20・21・23日，淡水魚の採集と同定，シニア自然大学，淡水魚②，大戸川(大津市)，講師。

2012年11月17日・12月15日，琵琶湖学習，立命館守山中学校，講師，2件。

2013年3月10日，淡水魚についての研修，独立行政法人水産大学校水の生きもの研究会，講師。

メディアへの協力

2012年4月8日，NHK，NHK とっておきサンデー，出演，(2012年3月24日取材)。

2012年4月8日，NHK 大津，クイズで知る琵琶湖，出演，(2012年3月24日取材)。

2013年1月9日，NHK 大津，クイズで知る琵琶湖，出演，(2012年12月26日取材)。

2013年3月12日，関西テレビ放送，スーパーニュースアンカー，出演，(2013年3月7日取材)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集，担当。

水族資料維持管理，担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回.

2012年7月14日～9月2日，第25回水族企画展示「ぼくらは田んぼの合唱団－滋賀にすむカエルたち－」，主担当.

水族展示維持管理，担当.

旬のさかなたち，主担当.

水族トピック展示，担当.

展示交流員と話そう，内容指導.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

日本動物園水族館協会，設備会議幹事.

野洲市環境審議会，委員.

滋賀大学環境学習支援士養成プログラム，企画運営委員.

オサムシ科を中心に昆虫の系統進化および生物地理を明らかにすることを研究目標としている。また、地域の人たちとともに滋賀県の昆虫相を解明することを目指している。

研究活動では共同研究者と実施してきた「カワウの巣の昆虫相」に関する論文が日本昆虫学会の雑誌「昆蟲（ニューシリーズ）」に掲載された。この論文では、カワウの巣の昆虫相は主に生態系の腐食連鎖系に属する腐食性昆虫で構成されることを明らかにした。また、チビコブスジコガネ（コブスジコガネ科）は48個体確認されており、巢内の幼鳥の古い死体やペリット、食べ残しなどの分解者として重要な役割を果たしていることを明らかにした。その他のカワウの巣の昆虫相に関する研究としては、「琵琶湖竹生島のカワウの巣の鱗翅類」についての論文が「蝶と蛾」に掲載された。

事業活動としては、第6回生物多様性協働フォーラムの運営の総括的な役割を担当した。このフォーラムは300名の参加があり、またフォーラムの評価も高く成功に終わった。東日本大震災によって被災した岩手県の陸前高田市立博物館の昆虫標本を受け入れその修復を行ってきたが、各館の協力のもとに、保管している標本のデータベースを進めた。このデータベースはすでに公開されており、被災地復興への一助になるばかりでなく、学術的にも価値の高いものとなる。

昨年度に引き続き研究部長として研究部の総括を行うほか、研究部代表者会議や研究報告会、研究審査会の運営に関わった。科学研究費補助金事業の学芸員全員申請に館として取り組み、申請書類に目を通すなどして採択率の向上にも努めた。次期中長期基本計画については、主担当として案をとりまとめた。国際交流事業の一環として館長とフランスに出張し、フランス国立自然史博物館との姉妹協定の延長契約を結ぶ手続きを行った。また、エクス・アン・プロバンス自然史博物館のフェアブルに関する展示のほか、リニューアル中のマルセイユ自然史博物館、地中海考古博物館、ギメ博物館、ブランリー博物館、フランス国立自然史博物館、建設中の地中海考古文明博物館の視察・情報交換を行った。

印刷物

【学術論文】

八尋克郎・亀田佳代子・那須義次・村濱史郎（2013）カワウの巣の昆虫相. *昆蟲（ニューシリーズ）*, 16(1) : 16-24.
那須義次・村濱史郎・大門 聖・八尋克郎・亀田佳代子（2013）琵琶湖竹生島のカワウの巣の鱗翅類. *蝶と蛾*, 63(4) : 217-220.

【専門分野の著作】

八尋克郎（2012）ウェブサイト「日本&滋賀県のオサムシ」の紹介（「あきつ賞受賞サイト（11）」）. *昆蟲（ニューシリーズ）*, 15 : 275-278.

【一般向けの著作】

八尋克郎（2012）湖岸より 170 被災標本のレスキュー活動. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2012年11月24日.
八尋克郎（2012）ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～15 小さい空間で互惠・共生, *毎日新聞*, 毎日新聞社 : 2012年12月4日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

八尋克郎（2012年4月30日）滋賀県立琵琶湖博物館における昆虫標本のレスキュー活動と関連展示. 東日本大震災と自然史系博物館 被災自然史標本の修復技法と博物館救援体制を考える研究集会, 大阪市立自然史博物館, [ポスター発表].

八尋克郎・亀田佳代子・那須義次・村濱史郎（2012年12月8日）カワウの巣の昆虫相. 日本昆虫学会近畿支部2012年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第146回例会 合同大会, 兵庫県立人と自然の博物館（兵庫県三田市）, [口頭発表].

那須義次・八尋克郎・亀田佳代子・村濱史郎（2012年12月8日）カワウの巣の鱗翅類. 日本昆虫学会近畿支部2012年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第146回例会 合同大会, 兵庫県立人と自然の博物館（兵庫県三田市）, [口頭発表].

亀田佳代子・大園享司・保原 達・八尋克郎（2013年3月5日）カワウ営巣後の森林：養分供給と環境変化がもたらす森林生態系のレジームシフトと代替安定状態. 日本生態学会第60回大会, 自由集会「代替安定状態－レジームシフト、履歴効果、アリー効果」, 静岡県コンベンションアーツセンター（静岡県）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖とその集水域におけるゴミムシ類の分類学的研究」, (2012年度).

琵琶湖博物館共同研究「2010年代の滋賀県のトンボ類の分布状況に関する研究」(研究代表者：河瀬直幹), 研究副代表者 (2012～2014年度).

科学研究費補助金(基盤B)「地域住民による琵琶湖沿岸域の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」(研究代表者：川那部浩哉), 研究分担者 (2010～2012年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本昆虫学会, 評議員, 2013年1月1日～.

滋賀オサムシ研究会, 事務局, 1997年度～.

地表性甲虫談話会会報, 編集幹事, 2004年度～.

昆蟲 (ニューシリーズ), 査読, 2件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

2012年7月8日, 希望が丘自然観察会(昆虫), 観察会, 希望が丘文化公園・竜王町, 講師, (澤田弘行氏・トンボ研究会と共同).

2012年7月29日, 夏休み自由研究講座(昆虫), 講座, 琵琶湖博物館, 講師, (南 尊演氏、武田 滋氏と共同).

2012年7月31日, 博物館の研究活動, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年8月2日, 博物館周辺で昆虫採集をしよう, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年2月9日, 琵琶湖とそのまわりの昆虫相, 新琵琶湖学セミナー 第3回 琵琶湖を取り巻く新発見, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2012年8月9日, 昆虫から見る琵琶湖, 環境教育研究協議会, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.

2012年9月25日, 博物館の概要説明, 静岡文化芸術大学, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.

2012年10月13日，問題解決のアプローチの方法，立命館守山中学校調べ学習，琵琶湖博物館（草津市），講師。

視察対応

2012年10月14日，博物館の概要説明，橿原市昆虫館友の会，琵琶湖博物館。

2012年12月12日，琵琶湖博物館の概要説明，近畿府県中小企業支援機関連絡協議会，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2012年9月23日，日本経済新聞，皇居の動植物、オサムシ，（2012年9月7日取材対応）。

2012年11月3日，滋賀プラスワン11・12月号Vol.140，うおーたんのわくわく探検隊 生き物の宝庫！自然がいっぱいの滋賀！，（2012年9月8日取材対応）。

2013年2月17日，読売新聞，被災チョウ標本DB化完了，（2013年2月15日取材対応）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリーの質問対応，昆虫に関する質問への回答，4件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の貸出し，4件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第20回企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」，昆虫コーナー担当。

お正月トピック展示「へびにまつわる干支セトラ」展，昆虫担当。

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

新任職員等研修，博物館の理念と設立の経緯、琵琶湖博物館の研究活動について，講師，2012年4月10日，琵琶湖博物館。

新任職員等研修，C展示室生き物コレクション，講師，2012年4月20日，琵琶湖博物館。

JICA 博物館学集中コース，博物館と研究，講師，2012年10月11日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2013年2月16日～24日，フランス（マルセイユ、パリ），国際交流事業。

【館外の活動】

2011年4月1日～，滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，部会長。

2012年4月1日～，滋賀県環境審議会自然環境部会「指定希少野生動植物種および指定外来種の選定に関する選定小委員会」，専門委員。

2010年2月～2012年10月31日，日本環境動物昆虫学会第12期環境アセスメント動物調査手法研究部会，運営委員。

2011年11月1日～2013年10月31日，大津市環境影響評価委員。

研究のテーマは、「里山とひとのくらしのつながり」を通して、森との持続的で賢明なつきあい方を探ろうとしている。そこには多くの要素が含まれているが、里山林の生態系の変化と住民の意識および社会的動向についての二つの側面から調査研究を継続している。

具体的には、ナラ枯れ、シカ被害、竹の侵入など今日的に多くの里山で起こっている状況とそれに対応する保全対策としての里山林の利用、加えてそれらの社会的な意義と可能性について調査研究を行っている。

また、里山に直接つながる事柄だけでなく、次世代への支援として、人としての能力を育み、ものものとのつながりの理解を深めるための基礎力となる環境学習についても力を注いでいる。

詳細事項としては、①薪やペレットなどの木質バイオマスの利用、②里山から生み出される多くの恩恵の利用のあり方、③森林環境学習の推進、④森林の更新状況の把握とそれを阻害する病虫獣害などを対象として研究調査を進めている。

①については、薪ストーブユーザーなどで作られた薪割りクラブや里山保全活動を行っている活動NPO団体、行政機関、製材所などに聞き取り調査を行った。薪利用の調査は、途中段階であり次年度以降も地域や対象を拡大して実施する予定である。また、くらしの満足度の目安として「薪指数」を考案中である。

一方、NPO活動として、木質バイオマスの利用普及のために県内の多くの地域で開催されているセミナーへの参加や体験展示会などの企画実施をした。また、京都外国語大学の一回生対象の環境概論の中で「再生可能エネルギーと木質バイオマス」についての講義を行った。

②については、はしかけ里山の会の活動を支援助言する形で、里山の資源利用の仕方を継承している。また、活動を通じて市民との協働のあり方や自発的に活動を推進していく支援を行っている。具体的な作業としては、里山整備、蕎麦づくり、原木キノコ栽培などを行った。

③については、兼務している森林センターの業務である「やまのこ」事業の専任指導員の研修会や小学校担当教員への研修会での講師や指導助言などを行うとともに、滋賀県環境教育部会や地域の中学校、里山活動団体を対象とした、森林環境教育の現場指導や講師として出前講座を開催した。

④については、里山保全活動の手法を検討するため、近江八幡市、野洲市、竜王町などの里山保全活動の状況と整備後の推移の把握、過去のナラ枯れ被害地の植生の変化を調査した。これらについては、「ナラ枯れ被害と里山林の保全」として10月に龍谷大学瀬田キャンパスで開催された応用森林学会において口頭発表を行った。

この、滋賀の森林で生じている大きな問題である「ナラ類の集団枯損」については、次年度においても、枯損現況や植生推移状況などを継続調査し里山林保全の手引き書「現代版里山林とのつきあい方」を作成することとしている。

交流事業としては、野洲市大篠原の里山周辺で体験教室を四季を通じて4回企画運営した。また、高島市朽木や長浜市名越において田んぼやいきものなどを対象とした観察会の運営にも関わった。担当している、はしかけ里山の会では、里山体験教室の開催しない月に独自活動を実施しており、この活動に支援をしてきた。

また、博物館からの紙媒体の情報提供として唯一の定期発行物である「琵琶博だより」の編集を行い、第9号から第12号までを発行した。

印刷物

【一般向けの著作】

寺尾尚純 編 (2012) 琵琶博だより. 9・10・11・12, 琵琶湖博物館: 4p.

寺尾尚純 (2012) ニホンジカの増加と森林植生の変化、その先にあるもの. ヨシで琵琶湖を守るネットワーク通信, 13, ヨシで琵琶湖を守るネットワーク: 2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

寺尾尚純（2012年6月7日）森林環境教育について．滋賀県環境教育部会研修会，雄琴小学校（滋賀県大津市），[口頭発表]．

寺尾尚純（2012年6月15日）里山と人のくらしのつながり「里山林整備と木質バイオマス利用」．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]．

寺尾尚純（2012年10月19日）里山と人のくらしのつながり「ナラ枯れ被害と木質バイオマス利用」．第63回応用森林学会，龍谷大学瀬田キャンパス（滋賀県大津市），[口頭発表]．

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年10月22日，京都外国語大学一回生，「再生可能エネルギーと木質バイオマス」．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，5件．

はしかけ運営，里山の会，担当．

2012年4月～2013年1月，里山の四季を楽しむ，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営，4件，（はしかけ里山の会共同）．

2012年6月16日，自然豊かな田んぼで生きもの観察，観察会，高島市朽木，運営，（朽木いきもの里共同）．

2012年7月～9月，保存食を科学する，博物館講座，琵琶湖博物館，企画運営，3件．

2012年8月22日，山と水のつながり，サテライト博物館教員研修，永原小学校・長浜市，講師．

2012年11月10日，秋の里山を歩こう，観察会，長浜市名越，運営，（カワセミ自然の会、はしかけ里山の会共同）．

他博物館・機関等主催行事

2012年11月6日，南比良の里山観察，大津市立志賀中学校，環境学習，大津市立志賀中学校（大津市），講師．

2013年2月23日，ニホンジカによる森林被害について，ぼてじゃこトラスト研修会，水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶（大津市），講師．

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回．

展示交流員と話そう，内容指導，4件．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012年度，滋賀県森林センターを兼務．

2012年度，琵琶博だより，編集委員．

【館外の活動】

2012年4月～2013年3月，特定非営利活動法人おうみ木質バイオマス利用研究会，理事・事務局．

2012年4月～2013年3月，一般社団法人比良里山クラブ，理事.

2013年1月～2013年3月，農山漁村再生可能エネルギー導入可能性調査(滋賀県)検討会，委員.

2012年度は、数年越しの論文や執筆原稿が印刷、公表された。日本生態学会誌の水田生物群集の論文と、琵琶湖全般に関する英語の本である。その他には、生態学と博物館に関する連載の一部として短い著作が印刷された他、日本生態学会生態学教育専門委員会委員として編集に参加した「生態学入門 (第2版)」が出版された。また、共著の論文としては、カワウの巣内に生息する昆虫類を調べた論文が2報公表された。

学会発表では、2つの国際学会 (2012 ASLO Aquatic Sciences Meeting (2012年先進陸水海洋学会日本大会)) と 7th Symposium on Limnology and Aquatic Birds (第7回陸水学と水鳥シンポジウム)) に参加し口頭発表を行った。これらの学会では、海外の研究者と交流の機会を持つことができ、特に後者の学会後は、北欧の研究者に調査地のカワウ集団繁殖地を案内してもらい、現場を見ながらさまざまな議論を行うことができた。ここでの縁が、ヨーロッパのカワウ関係のウェブサイトに共著原稿の執筆、博物館の新琵琶湖学セミナーや環境省特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル (カワウ編) 改訂版へのヨーロッパのカワウ事情の紹介など、双方向の研究発信につながっている。一方国内の学会では、個体群生態学会の企画シンポジウムや日本生態学会の自由集会で発表を依頼され、琵琶湖のカワウ集団繁殖地でのこれまでの研究について発表を行った。これらの集会の演者や参加者との交流から、演者共著で総説論文を執筆する話が出てきている。

現在行っている科学研究費基盤研究 (C) 「カワウによる森林衰退に対する伝統的保全管理技術の効果と検証」では、遅れていた実験の準備が2012年度中に整い、年度終わりには実験開始の最終段階に入ることができた。最終年度となる2013年度には、実験データを収集し結果を出したいと考えている。また、基盤研究 (B) 「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」では、最終年度としてそれまでの研究内容や課題についてとりまとめを行った。

博物館の研究部業務としては、生態系研究領域グループリーダーとして、展示リニューアルに向け研究面からの各自のリニューアル案の共有と議論を推進した。また、他の研究機関・博物館との連携として、第6回生物多様性協働フォーラムの主催、関西広域連合生態系保全検討チームの議論や会議への参加などにも力を入れた。事業部の業務としては、展示グループで展示交流員の管理運営を行い、展示室の円滑な運営に努めた。また、企画調整課の協働 (特命) 業務としては、次期中長期基本計画の策定にたずさわった。

館外の活動では、学会活動として、昨年度に引き続き日本鳥学会の会計幹事を担当し、日本生態学会大会企画委員会高校生ポスター部会の委員として、大会時の高校生ポスター発表の運営に関わった。また新たに、「野生生物と社会」学会 (前野生生物保護学会) の編集委員となり、学術誌に投稿された論文の編集を担当した。行政への協力や研究の社会貢献としては、滋賀県カワウ特定鳥獣保護管理計画 (第2次) の策定、関西広域連合関西地域カワウ広域保護管理計画の策定、環境省特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル (カワウ編) の改訂作業に委員として関わり、素案の検討や一部原稿の執筆などを担当した。この他に、滋賀県生きもの総合調査鳥類部会委員としてレッドデータリスト改訂のための既存データの整理、「草津市第6回いきもの調査 身近にいる鳥調査」のアドバイザーとして調査対象種の選定や調査票作成への協力、講師として座談会への参加などを行った。

印刷物

【学術論文】

亀田佳代子 (2012) 鳥類の視点からみた水田地帯の群集解析. 特集1 今こそ水田生物群集を捉えなおすーミクロからマクロまでー, 日本生態学会誌, 62(2): 199-206.

那須義次・村濱史郎・大門 聖・八尋克郎・亀田佳代子 (2012) 琵琶湖竹生島のカワウの巣の鱗翅類. 蝶と蛾, 63(4): 217-220.

八尋克郎・亀田佳代子・那須義次・村濱史郎 (2013) カワウの巣の昆虫相. 昆虫 (ニューシリーズ), 16(1): 15-23.

【専門分野の著作】

- Kameda, K. (2012) Population Increase of the Great Cormorant *Phalacrocorax carbo* and Measures to Reduce its Damage to the Fisheries and Forest of Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 491-496.
- Hashimoto, H., Sugawa, H. and Kameda, K. (2012) Characteristics and Long-term Trends of the Avifauna of Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 129-134.
- Kameda, K., Ueda, J., Hashimoto, H. and Sugawa, H. (2012) A list of Aves in and around Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 702-721.
- 亀田佳代子・中井克樹 (2012) 博物館と生態学(19) 野生動物の保護管理における博物館の役割. *日本生態学会誌*, 62(2) : 307-312.
- 日本生態学会 編 (第2版編集委員会 編集委員長: 嶋田正和 編集委員: 浅見崇比呂・亀田佳代子・中井咲織・中村雅彦・西脇亜也・広瀬祐司・山路恵子・山村靖夫) (2012) *生態学入門 (第2版)*, 東京化学同人, 東京: 287p.

【一般向けの著作】

- 亀田佳代子 (2012) 湖岸より 156 ビル街に引っ越してきた海の鳥. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年5月12日.
- 亀田佳代子 (2012) 湖岸より 171 幻の鳥 カンムリツクシガモ. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年12月1日.
- 亀田佳代子 (2013) 写真「生物多様性シリーズI」スズメ 巻頭写真の説明. *琵琶博だより*, 11, 琵琶湖博物館: 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 亀田佳代子 (2012年6月23日) 竹生島および鶺鴒の山におけるカワウ営巣林の森林衰退一回復過程の解明. 琵琶湖博物館2012年度研究報告会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- Kameda, K. O. (2012年7月11日) CHARACTERISTICS OF THE RESOURCE SUBSIDIES TRANSPORTED BY SEABIRDS: BOTTOM-UP EFFECTS AND WIDESPREAD DISTRIBUTIONS IN TERRESTRIAL ECOSYSTEMS. 2012 ASLO Aquatic Sciences Meeting (2012年先進陸水海洋学会日本大会), 滋賀県立びわ湖ホール (滋賀県大津市), [口頭発表].
- Kameda, K. O., Fujii, H., Makino, A., Hobara, S., Koba, K., Osono, T., Fujiwara, S. and Takayanagi, A. (2012年8月16日) Ecosystem function, ecosystem services, and conflicts with people by nutrient transportation mediated by the Great Cormorant in freshwater areas. 7th Symposium on Limnology and Aquatic Birds (第7回陸水学と水鳥シンポジウム), クリステイアンスタッド生物圏保護区センター (スウェーデンクリステイアンスタッド), [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2012年10月21日) カワウの繁殖が森林の養分動態と生物相に与える影響. 第28回個体群生態学会大会シンポジウム「野生生物管理を通じて紐解く生物間の相互作用」, 東邦大学習志野キャンパス (千葉県船橋市), [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2012年11月16日) カワウの繁殖が森林生態系に与える影響: 養分供給と環境変化をもたらす分解者と消費者の変化. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 八尋克郎・亀田佳代子・那須義次・村濱史郎 (2012年12月8日) カワウの巣の昆虫相. 日本昆虫学会近畿支部2012年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第146回例会 (昆虫学公開研究発表会), 日本昆虫学会近畿支部・日本鱗翅学会近畿支部, 兵庫県立人と自然の博物館 (兵庫県三田市), [口頭発表].
- 那須義次・村濱史郎・大門 聖・八尋克郎・亀田佳代子 (2012年12月8日) 琵琶湖竹生島のカワウの巣の鱗翅類. 日本昆虫学会近畿支部2012年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第146回例会 (昆虫学公開研究発表会), 日本昆虫学会近畿支部・日本鱗翅学会近畿支部, 兵庫県立人と自然の博物館 (兵庫県三田市), [口頭発表].
- 野間直彦・亀田佳代子 (2012年12月9日) 日本鳥学会員近畿地区懇談会第105回例会. 日本鳥学会員近畿地区懇

談会，大学サテライト・プラザ彦根（滋賀県彦根市），[企画・運営]。

亀田佳代子（2012年12月19日）カワウによる生態系への影響と人との関わり，2012年度第16回龍谷エコロジーセミナー，龍谷大学瀬田学舎（滋賀県大津市），[口頭発表]。

亀田佳代子・大園享司・保原 達・八尋克郎（2013年3月5日）カワウ営巣後の森林：養分供給と環境変化がもたらす森林生態系のレジームシフトと代替安定状態。第60回日本生態学会大会自由集会「代替安定状態ーレジームシフト、履歴効果、アリー効果」，グランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）（静岡県静岡市），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「生態系機能としての鳥類の養分輸送機能の検討」，（2012年度）。

科学研究費補助金（基盤B）「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」（研究代表者：川那部浩哉），連携研究者（2010～2012年度）。

科学研究費補助金（基盤C）「カワウによる森林衰退に対する伝統的保全管理技術の効果と検証」（研究代表者：亀田佳代子），研究代表者（2011～2013年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本鳥学会会計幹事，2010年1月～2013年12月。

日本鳥学会評議員，2006年1月～2013年12月。

日本鳥学会員近畿地区懇談会世話人，2000年1月～。

日本生態学会生態学教育専門委員会委員，2010年4月～2014年3月。

日本生態学会大会企画委員会発表編成部会委員，2010年4月～2013年3月。

日本生態学会大会企画委員会高校生ポスター部会委員，2012年4月～2014年3月。

日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員，2008年1月～2014年12月。

「野生生物と社会」学会「野生生物と社会」編集委員，2012年4月～2014年3月。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件。

2012年12月8日，水鳥を観察しようー色とりどりの冬鳥たちー，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師。

2012年12月16日，からすま半島の水鳥を観察してみよう，観察会，烏丸半島周辺・草津市，主担当，（日本野鳥の会滋賀支部共催）。

2013年2月23日，カワウと人の関わりー琵琶湖、鶺鴒の山、ヨーロッパの事例からー，新琵琶湖学セミナー 第5回 人と生き物の関わり，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2012年5月27日，森によって異なるカワウと人のさまざまな『共生』，びわ湖の森の生き物研究会，第4回びわ湖の森の生き物シンポジウム，アクティ近江八幡，講師。

2012年11月11日，野生動物の保全における地域博物館の役割，滋賀県獣医師会，平成24年度滋賀県獣医師会野生動物研修会「野生動物の保護について考える～今、どんなことが出来る？ 今、なにをする？～」，琵琶湖博物館，講師。

2012年11月17日・12月15日，琵琶湖の鳥について，立命館守山中学校，総合学習（琵琶湖学習），琵琶湖博物館，講師，2件。

2013年3月23日，講評，草津市，第6回いきもの調査 身近にいる鳥調査座談会，草津市役所，アドバイザー。

メディアへの協力

- 2012年5月31日, NHK 大津支局, おうみ発610, 琵琶湖でのカワウ対策について, (2012年5月30日取材対応).
- 2012年6月18日, 読売テレビ, かんさい情報ネットten! 『ゲキ追』コーナー, 琵琶湖のカワウとその被害や対策について, (2012年6月13日取材対応).
- 2013年1月4日～, しが県庁ムービーチャンネル, 琵琶湖・からすま半島の水鳥を観察してみよう!～琵琶湖博物館・野鳥観察会の紹介～, 烏丸半島周辺でみられる鳥類および野鳥の観察会について, (2012年12月16日取材対応).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 鳥類資料(本剥製および骨格標本)の製作, 19件.
- 鳥類資料の提供, 受入・整理, 18件.
- 鳥類資料の貸出, 手続き・対応.
- 鳥類資料(本剥製標本)の特別観覧, 手続き・対応.
- 鳥類映像資料の特別観覧, 手続き・対応.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2012年10月19日～21日, 琵琶湖博物館とっておき?!資料展, 鳥類資料の展示.
- 展示交流員の管理運営に関すること, 主担当.
- 展示交流員と話そう, 内容指導, 2件.
- モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

- 新任職員等研修, C 展示室生きものコレクションコーナー(鳥類)の説明, 講師, 2012年4月18日, 琵琶湖博物館.
- 次期中長期基本計画に関すること, 副担当.

【研究部関連事業】

- 生態系研究領域の研究推進に関すること, 主担当.
- 第6回生物多様性協働フォーラム, 担当.
- 関西広域連合生物多様性保全検討チーム, 主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 2012年4月1日～2014年3月31日, 京都大学生態学研究センター, 協力研究員.
- 2006年8月1日～2016年3月31日, 滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会, 専門委員.
- 2006年7月12日～2016年3月31日, 農林水産省近畿中国森林管理局伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ, 委員.
- 2007年11月27日～2013年11月26日, 大津市環境審議会, 委員.
- 2010年7月21日～2013年3月31日, 滋賀県カワウ総合対策協議会, 委員.
- 2011年9月1日～2013年3月31日, 関西地域カワウ広域保護管理計画検討委員会, 委員.
- 2012年9月20日～2013年3月31日, 滋賀県カワウ保護管理計画検討会, 委員.
- 2012年10月18日～2013年3月15日, 環境省平成24年度カワウ保護管理検討会専門委員, 委員.

琵琶湖南湖の沈水植物の繁茂状況の把握と、増加原因の解明を行った。2012年度は南湖53地点で沈水植物の定量採取を行い、種別の現存量を調べた。この調査は2002年度と2007年度に行っており、今回は3回目である。2012年度は沈水植物の成長が非常に悪く、南湖全体での現存量は2002および2007年の1/3にとどまった。沈水植物の成長が悪かったのは、5月と7月の透明度が低下したことが原因と考えられる。

印刷物

【学術論文】

早川和秀・辻村茂男・石川俊之・芳賀裕樹・岡本高弘・焦 春萌・石川可奈子・熊谷道夫 (2012) 複数の定期調査データを用いた統合的解析による琵琶湖における全リン、硝酸態窒素濃度およびいくつかの水質項目の長期変化. *水環境学会誌*, 35, 水環境学会: 89-100.

【一般向けの著作】

芳賀裕樹 (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～9 博物館の資料が伝える 水草量の推移 魚との関係. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2012年8月23日.

芳賀裕樹 (2012) 琵琶湖水中雑談「琵琶湖で水草が増えた話」, *おりづる*, 81-2, 財団法人おりづる会: 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

HAGA, H. (2012年7月10日) Long-term change of submerged macrophytes in the southern basin of Lake Biwa. ASLO 2012 Aquatic Scientific Meeting, ASLO, 琵琶湖ホール (大津市), [口頭発表].

芳賀裕樹 (2012年7月20日) 南湖の沈水植物の季節変化. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

芳賀裕樹 (2013年3月26日) 2012年の南湖の水草の状況. 南湖研究会, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター, コラボしが21 (大津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「2012年の南湖の沈水植物の現存量分布」, (2012年度).

平成22年度環境研究総合推進費委託研究「魚介類を活用したトップダウン効果による湖沼生態系保全システムの開発に関する研究」(研究代表者: 澤田宣雄, 研究分担者 (2010～2012年度)).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

陸水学会, 会計監査.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件。

2012年9月22日，琵琶湖の模型を作ろう，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，（はしかけ「びわたん」共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2012年5月30日，琵琶湖・淀川の水質の話，武庫川女子中学，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2012年7月21日，琵琶湖と琵琶湖博物館について，草津市ボランティアガイド，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2012年7月25日，琵琶湖の水質とその調査方法について，石部高校，琵琶湖探求，琵琶湖博物館・烏丸半島（草津市），講師。

2012年8月9日，琵琶湖の水草の増殖，滋賀県教育委員会，環境教育研究協議会，ILEC（草津市），講師。

2012年9月19日，琵琶湖博物館について，JICA，JICA 集団研修「水質モニタリング」，琵琶湖博物館（草津市），説明。

2012年11月15日，琵琶湖の水草繁茂について，淀川水質汚濁防止連絡協議会，琵琶湖・淀川生物障害等調査小委員会研修，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2012年11月17日・12月15日，立命館守山中学，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館（草津市），学習助言，2件。

2013年1月27日，オオバナミズキンバイについて，赤野井湾再生プロジェクト，研修，玉津会館（守山市），講師。

2013年3月10日，琵琶湖の紹介，森林文化協会，琵琶湖博物館（草津市），講師。

視察対応

2012年9月19日，展示交流員の運営及び展示更新に関して，水俣市立水俣病資料館，琵琶湖博物館。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012年度，展示リニューアル検討委員会，メンバー。

2010～2012年度，ASLO 琵琶湖大会国内委員会，委員。

【館外の活動】

2012年，大津市科学館，運営協議会委員。

農村地域に生息する多くの生きものは、経済性や効率化を重視した様々な施設や環境の中で産卵、繁殖、成育を繰り返しながら生活史を創り上げている。そこで、水田地帯における水量の有無によって水域をコントロールできる支線排水路の生態的機能調査を実施した。

その結果、魚のゆりかご水田における堰上げ式魚道と一筆型魚道を併用した水路では、一筆型魚道を通して水田内に遡上する魚類の数は、田植え以降の降水量に大きく影響し、水田内に遡上できず排水路内に留まって産卵・繁殖する場合は、水深と餌の確保が必要であることから、全面型魚道とは異なった営農や維持管理の重要性を提案した。

次に、幹線排水路や河川に流出する前に水路の土砂を沈降させる施設として位置づけられている「泥だめ」の生態的な役割を検証するため、湖北地域の姉川流域と余呉川流域の一部水田地帯において、夏期と冬期の2回に分けて生物調査を実施し、両期における泥だめに生息する魚類、貝類の個体密度から、溜まった土砂(土質区分)による生態的な役割の有効性を確認した。特に、冬期における各地点での泥だめとその上流水路内部を比較すると、魚類、貝類とも泥だめの個体密度が高く、生態的な保全効果を検証することができた。

また、近江八幡市島町における東近江農業農村事務所との合同による排水路湛水調査では、月1回程度通年の生物調査を行い、灌漑期と非灌漑期の水深、水量が異なる排水路の生息状況を確認した。

これらの調査で得られたデータや資料は、施設の必要性や使い方等を検討するための基礎資料として、農家や地域住民が水田地帯やその周辺において、営農や地域活動によって生き物を守っていく取り組みの基盤づくりに役立てたいと考える。

今年度の企画展示「ニゴローの大冒険」に合わせ、滋賀県が取り組んでいる「魚のゆりかご水田プロジェクト」を館内外に紹介し、情報発信を行った。

印刷物

【一般向けの著作】

水谷 智・高橋啓一・大塚泰介・亀田佳代子・橋本道範・榊永一宏・金尾滋史・寺尾尚純 編(2012) うみっこ通信. 8, 琵琶湖博物館: 4p.

水谷 智・榊永一宏・草加伸吾・亀田佳代子・橋本道範・金尾滋史・寺尾尚純 編(2012) うみっこ通信. 9, 琵琶湖博物館: 4p.

水谷 智(2012)ここだけの湖の話～琵琶湖博物館研究セミナー再現～16 田んぼと生き物 観察に意欲. 毎日新聞, 毎日新聞社: 2012年12月18日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

水谷 智(2012年11月16日)水田地帯の排水路における生態保全の基礎調査. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].

水谷 智(2013年2月5日)水田地帯の排水路における生態保全の基礎調査. 平成24年度農業土木研究発表会, 滋賀県庁(滋賀県大津市), [口頭発表].

【研究プロジェクトへの参加】

琵琶湖博物館専門研究「水田地帯の排水路における生態保全の基礎調査」, (2012 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 7 件.

はしかけ制度, 副担当.

はしかけ登録講座, 琵琶湖博物館, 2 回, 担当.

2012 年 10 月 19~21 日, あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう! はしかけオープンハウス, 琵琶湖博物館, 担当.

2012 年 10 月 29 日, 学校サテライト博物館移動, 長浜市・東近江市, 副担当.

他の博物館・機関等主催行事

2012 年 6 月 16 日, 竹町魚のゆりかご水田プロジェクト観察会, 竹町のしぜんを守る会, 近江八幡市, 講師.

2012 年 6 月 23 日, 須原魚のゆりかご水田プロジェクト観察会, 須原魚のゆりかご水田協議会, 野洲市, 講師.

2012 年 6 月 24 日, 堤魚のゆりかご水田プロジェクト観察会, 堤青空ネットワーク, 野洲市, 講師.

2012 年 10 月 24 日, 魚のゆりかご水田プロジェクトについて, 海成中学校 (東京都), 琵琶湖博物館, 講師.

2013 年 3 月 18 日, 排水路泥だめの生態調査について, みずすまし専門部会 (生態系保全部会), 大津合同庁舎, 発表.

視察対応

2012 年 6 月 5 日, はしかけ制度について, 総合政策部文化振興課, 琵琶湖博物館.

2012 年 8 月 25 日, 魚のゆりかご水田プロジェクトについて, 東三河自然観察会, 琵琶湖博物館.

2013 年 3 月 8 日, 魚のゆりかご水田プロジェクトについて, 総務省奈良行政評価事務所, 琵琶湖博物館.

2013 年 3 月 14 日, はしかけ制度について, 静岡市生活文化局文化スポーツ部文化財課, 琵琶湖博物館.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の貸出(魚のレプリカ, 漁具), 4 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第 20 回企画展示「ニゴロの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」, 映像制作.

生活実験工房・田畑の維持管理行事, 13 件, 主担当.

モーニングレクチャー, 講義, 4 回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012 年度, うみっこ通信, 編集委員.

2012 年度, 滋賀県農政水産部耕地課企画調整担当, 主幹を兼務.

【館外の活動】

2012 年度, 豊かな生き物育む水田 (魚のゆりかご水田), 担当者.

2012年度, みずすまし専門部会(生態系保全部会), オブザーバー.

2012年度, 滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会, 委員.

2012年5月16日, 豊かな生きものを育む滋賀の農村PR大作戦業務審査会, 審査員.

2013年2月1日~2013年2月28日, 公益社団法人農業農村工学会, 学会賞選考委員会, 専門委員.

2012年4月~2013年3月, 近江八幡市島地区排水路湛水調査, 調査員.

昨年度に引き続き、2012年度も6月、9月と2回、科学研究費 基盤研究(B)(海外学術調査)「モンゴル北部森林火災跡再生困難地での「倒木遮蔽更新」仮説の検証と再生促進法の開発」の研究で、フブスグル湖流域の山火事跡や森林地帯を訪れた。頻発する山火事跡地の再生が非常に悪いことから、その再生を促進するために、この森林の更新機構と再生阻害要因を、観察と野外実験で調べている。昨年度行った再生阻害要因実験の追加データをとるとともに、異なる光環境のもと、自然状態の、倒木とその周囲の実生・稚樹生育調査を、湖西のハロス、湖東部ヘクツアル、及び湖南部のハトガルで広く行った。その結果、自然に起きた倒木遮蔽更新例が草原や明るい森林内で数多く見られ、数メートルほどに育った再生木が倒木の陰側だけに10本以上再生している実例データを数多くとることができた。これは、倒木陰に再生した稚樹の一部は自然状態で亜高木にまで育つことの証明となる。また、40年ほど前に焼失した湖西部ボルソグの広大な火事跡を調査したが、焼け跡の縁と斜面下部の一部以外は未だ全く再生していなかった。実験に使ったシベリアカラマツの種子を持ち帰って、500粒での発芽実験を行ったところ、発芽率は最高33%と非常に低かった。再生阻害要因実験での結果や自然の再生例などのこれまでの観察、発芽率などから、『倒木遮蔽更新仮説』を応用した森林再生促進のためのマニュアルを作成した。今後、モンゴル語や英語に翻訳し、現地でのシンポジウムや政府の森林関係者に提案していきたい。

また、30年ほど前に調査を行っていた世界遺産、奈良春日山原生照葉樹林流域は安定した水質であったが、近年当時と大きく変化してきていることが分かり、2012年から予備調査を開始した。その一部を日本水環境学会で報告するとともに、3月に出版された「世界遺産 春日山原始林—照葉樹林とシカをめぐる生態と文化—」(前迫ゆり編)にコラムで紹介した。今後その原因を調べようと思っている。

県内において、野草による食中毒の初めての例として、バイケイソウをオオバギボウシ(ウルイ)と間違えて中毒症状を起こした事件があり、担当された国立滋賀病院の前田医師に不明植物の同定を依頼されたことから、その症状や形態の違い、分布や日本内外での中毒例を述べた共著となった。バイケイソウ類は平行脈だがオオバギボウシは葉の中軸から側脈が出ていることが最もわかりやすい区別点である。

ながらく整理を進めてきたものに、明治から昭和の30年頃までに採集された、大変貴重な橋本忠太郎の県内植物標本がある。2万点あまりの素データが入力できたので、あらためて遺族に報告し、2013年春4月に開催すべくギャラリー展の準備を館内職員、館外の滋賀県植物研究会など、多くの方がたの協力を得て行った。この標本の中には今では県内絶滅してしまった珍しい植物も多く含まれ、整理は今も進行中である。

事業部展示科では新空間を担当し、2012年度はほぼ1月毎に、14件、市民やはしかけグループの展示利用があり、情報発信に協力した。

印刷物

【学術論文】

KENGO MAEDA, RYO IDEHARA, SHINGO KUSAKA (2012) Mistaken identity: Severe vomiting, bradycardia and hypotension after eating a wild herb. *Clinical toxicology*, (50):532-533.

【専門分野の著作】

草加 伸吾 (2013) 春日山原始林の水質は大きく変化しているのでは? 「世界遺産 春日山原始林—照葉樹林とシカをめぐる生態と文化—」前迫ゆり編. ナカニシヤ出版発行, 京都: 110-111.

【一般向けの著作】

草加伸吾 (2013) ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎—植物研究にかけた情熱—」. うみっこ通信第9

号. 琵琶湖博物館. 草津:4-4.

草加伸吾 (2013)「近江の博物学者 橋本忠太郎—植物研究にかけた情熱—」. *琵琶博だより*第12号, 琵琶湖博物館. 草津:1-2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

草加伸吾 (2013年3月13日) 奈良春日山原生照葉樹林流域の水質変化—約30年を隔てた大雨流出の比較—. 第47回日本水環境学会年会, 日本水環境学会, 大阪工業大学(寝屋川市), [口頭発表].

草加伸吾 (2012年7月20日) モンゴル北部フブスグル湖流域における倒木遮蔽更新仮説の検証—土壌水分環境に及ぼす倒木の影響—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館会議室(滋賀県草津市), [口頭発表]

草加伸吾・村瀬忠義 (2013年2月10日) 橋本忠太郎氏の業績のあらまし 採集地と植物. 平成25年滋賀県植物研究会総会・発表会, 滋賀県植物研究会, 琵琶湖博物館セミナー室(草津市), [口頭発表].

芦谷美奈子・山川千代美・草加伸吾 (2013年2月10日) 橋本忠太郎氏のギャラリー展の計画と手伝いについて. 平成25年滋賀県植物研究会総会・発表会, 滋賀県植物研究会, 博物館セミナー室(草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究, 「森林伐採後の硝酸形成に影響する環境条件の解明と斜面での硝酸流出過程の探求」, 研究代表者, (2012年度).

琵琶湖博物館共同研究, 「モンゴル北部森林被害(火災・蛾食害)跡再生困難地での「倒木遮蔽更新」仮説の検証と再生促進手法の開発」, 研究代表者 (2011年~2012年度).

琵琶湖博物館共同研究「山と湖をつなぐ地下水環境域」(研究代表者:マーク・J・グライガー), 研究分担者 (2011年~2012年度).

科学研究費 基盤研究(B)(海外学術調査), 課題番号:23405030「モンゴル北部森林火災跡再生困難地での「倒木遮蔽更新」仮説の検証と再生促進法の開発」, 研究代表者 (2011年~2013年度).

【大学での講義・実習、学生の指導など】

2012年11月14日,「おいしい水をはぐくむ森林と琵琶湖との関係およびモンゴルの森林再生促進」, 大阪工業大学, 琵琶湖博物館ホール(草津市), [講義].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営 緑のくすり箱 担当.

2012年4月14日,「春の花でしおりを作ろう」, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館屋外展示, (藤橋和弘, 蜂屋正雄, びわたんと共同), 講師.

2012年5月12日,「朽木で春を見つけよう」琵琶湖博物館フィールド観察会, 滋賀県高島市朽木麻生 森林公園くつきの森 搦み谷周辺, (はしかけ緑のくすり箱, 林竜馬氏と共同開催), 講師.

2012年7月29日, 夏休み自由研究講座(植物), 講座, 担当.

2012年8月2日,「屋外の森でふえた植物、へった植物」, 自然調査ゼミナール(博物館実習生と共同), 指導.

2012年8月3日 博物館実習[学芸員資格取得] 植物さく葉標本の作り方、整理について. 植物標本製作室, 植物収蔵庫, [講師].

2012年10月13日,「秋の色をさがしてみよう」, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館屋外展示, (藤橋

和弘, 蜂屋正雄, びわたんと共同) 講師.

2012年10月20日, 「屋外の森観察会」, あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう! 観察会, 琵琶湖博物館屋外展示, 講師 (林竜馬と共同).

質問コーナー, フロアトーク, 12件.

他の博物館・機関等主催行事

2012年7月12日, 「屋外展示の森の植物観察」, 彦根東高校スーパーサイエンスコース, 屋外展示, 琵琶湖博物館実習室 (草津市) 午前午後2回, 講師.

2012年10月8日, 「松の実 針葉樹 植物観察会」, はしかけ緑のくすり箱, 野洲市希望ヶ丘文化公園, 講師.

2012年10月21日, 「南郷水産センターの植物観察会」, 魚の学校, 南郷水産センター (大津市), 講師.

2012年11月17日, 12月15日 琵琶湖学習発表会準備, 山里の植物 立命館守山中学校, 琵琶湖博物館, 指導.

2012年12月2日, 「淡海こどもエコクラブ屋外観察会」, 淡海こどもエコクラブ, 琵琶湖博物館屋外展示, 琵琶湖博物館 (草津市), 講師.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物収蔵庫維持管理業務, 主担当.

植物標本資料収集整理 (モンゴル国植物標本資料用 40点)

橋本忠太郎植物標本整理: 採集標本のデータベース化約 10000点) の維管束植物データベース入力整理, (緊急雇用の山田奈都美、田中美紀、松井亜希子、松尾しのぶと共同)

橋本忠太郎手紙等資料整理 (緊急雇用の安井こぬいと共同)

橋元忠太郎地形図データ整理 (緊急雇用の柴田 茂と共同)

実験温室主担当、

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

「新空間」主担当, 14件の展示サポート.

橋本忠太郎ギャラリー展準備 (松田征也、山川千代美、芦谷美奈子、大久保実香、石田未基と共同)

モーニングレクチャー「橋本忠太郎ギャラリー展の紹介」, 4回. 展示交流員対象, 講師.

2012年12月~2013年3月 展示交流員と話そう. [内容指導], 2件.

屋外展示植栽木 (高木、亜高木) 番号ラベル調査実施 (追加: 落下、読めないもの対応).

【企画調整活動】

新任職員研修 (新空間について), 2012年4月11日, [解説]

新任職員研修 (屋外展示について), 2012年4月12日, [解説]

新任職員研修 (C展示室: 水をはぐくむ森林、森林、農地、市街地を通る水), 2012年4月18日, [解説]

地域発見! 参加型移動博物館, イオンモール京都 (京都府京都市), 2012年7月20日, 設営.

地域発見! 参加型移動博物館, フォレオ大津一里山 (滋賀県大津市) 2012年10月27日, 展示説明.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2012年6月18日~7月10日, モンゴル国フブスグル湖流域, ハトガル、ハロス、ヘクツアルの山火事跡地、森林地域に科研で野外調査のため出張.

2012年9月2日~9月20日, モンゴル国フブスグル湖流域, ハトガル、ボルソグ、ボルナイ、ヘクツアルの山火事跡地、森林地域に科研で野外調査のため出張.

琵琶湖博物館生態観察池から共生藻類をもつラッパムシ (*Stentor polymorphus*) を単離し、その共生藻類を共同研究者が調べたところ、これまで *S. polymorphus* から報告されているクロレラ属 (*Chlorella*) とは異なるマイコナステス属 (*Mychonastes*) の一種であることが判明した。

マミズクラゲ (*Craspedacusta sowerbii*) のポリプ (イソギンチャク状のステージ) を入手し、それからクラゲを発生させることに成功した。2012年8月から生きたクラゲをディスカバリールームで展示しており、2013年3月末時点でこの種の連続展示記録105日を大幅に上回り、記録を更新中である。また、実験室で生まれた雌クラゲと野外で採集した雄クラゲを掛け合わせ、受精卵を作り、ポリプを発生させることに成功した。飼育下で生まれたマミズクラゲの有性生殖の成功は世界的にも珍しい。

分担者として参加している科研費プロジェクト「気候変動が引き起こす原生動物の多様性減少モニタリングのための分類学的基盤の構築」では屋久島の原生動物調査に参加し、絨毛虫の解析を行った。

日本学術振興会研究拠点形成事業 B. アジア・アフリカ学術基盤形成型「アジアにおける新しい博物館・博物館学創出のための研究交流」の一環で7月14日～22日モンゴルに出張し、ウランバートルおよびカラコルムで開催された「日本とモンゴルにおける博物館・博物館学の比較研究」の研究会に参加し、7月19日にモンゴル科学技術大学で開催されたセッションで「博物館活動における地域との連携: 琵琶湖博物館の事例」というタイトルで発表した。

博物館の事業としては交流担当のとりまとめを行った。JICA 博物館学集中コースではコースの運営委員の一人として、6 カ国10 人の研修員を受け入れに関わった。

印刷物

【学術論文】

Hoshina, R., Sato, E., Shibata, A., Fujiwara, Y., Kusuoka, Y. and Imamura, N. (2013) Cytological, genetic, and biochemical characteristics of an unusual non-*Chlorella* photobiont of *Stentor polymorphus* collected from an artificial pond close to the shore of Lake Biwa. *Phycological Research*, 61: 7-14.

【専門分野の著作】

Maeda, M., Kusuoka, Y., Grygier, M. J., Ohtsuka, T. and the Lake Biwa Museum Hashikake Rice Field Organisms Research Group (2012) An important factor limiting the distribution of large branchiopods in Shiga Prefecture, Japan: moisture content of rice paddy soil in winter. In: Rice Parry [*sic*] Working Group, Ramsar Network Japan ed., *Report for Ramsar COP11 on Good Practices for Enhancing Biodiversity in Rice Paddy Ecosystem in Japan Korea and Other Asian Countries*, Ministry of the Environment of Japan, Tokyo: File b-3-6, 2 pp. [issued as DVD].

Kusuoka, Y. (2012) Protozoa of Lake Biwa. In Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M., eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*. Springer, Dordrecht: 37-40.

Kusuoka, Y. (2012) Appendix 2.1 A list of protozoa (non-photosynthetic protists) in Lake Biwa. In Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M., eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*. Springer, Dordrecht: 517-527.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Kusuoka, Y. (2012年7月19日) Participation of the local community in museum activities: the case study of the Lake Biwa Museum. International workshop on Asian museums and museology, “New Horizon in Asian museum and museology”, Mongolian University of Science and Technology (Ulaanbaatar Mongolia), [口頭発表].

楠岡 泰 (2012年9月13日) 日本の織毛虫の多様性とその分布. 日本動物学会第83回大会 (関連集会: 日本に生息する原生動物), 大阪大学豊中キャンパス (大阪府豊中市), [口頭発表].

Mark Grygier・前田雅子・楠岡 泰・田んぼの生きもの調査グループ (2012年10月20日) 滋賀県のアジアカブトエビの現状について. 日本甲殻類学会第50回大会, 熊本大学 (熊本市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤B) 「気候変動が引き起こす原生動物の多様性減少モニタリングのための分類学的基盤の構築」 (研究代業者: 重中義信), 研究分担者 (2009~2012年度).

日本学術振興会研究拠点形成事業 B. アジア・アフリカ学術基盤形成型「アジアにおける新しい博物館・博物館学創出のための研究交流」 (研究代業者: 園田直子), 研究分担者 (2012~2015年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年8月29日, JICA「水環境を主題とする環境教育」コース, Environment education in the Lake Biwa Museum.

2012年9月20日, 京都府立大学, 環境微生物学集中講義: 織毛虫の分類および生態, 非常勤講師.

2012年10月2日, JICA「ジャカルタ特別州下水処理場整備事業準備調査」コース, Museums and the local community.

2013年1月29日, JICA「湖沼環境保全のための統合的流域管理」コース, Environment education in the Lake Biwa Museum.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

2012年11月~, 日本原生動物学会, 評議員.

Microbes and Environments, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

はしかけ「田んぼの生き物調査グループ」, 主担当.

はしかけ「里山の会」, 副担当.

2012年4月15日・10月28日・2013年1月20日, 里山体験教室, 体験教室, 野洲市大篠原, 講師, (寺尾尚純・はしかけ「里山の会」共同).

2012年6月9日, 琵琶湖博物館わくわく探検隊: 田んぼの不思議なエビたちを見てみよう!, 体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, (藤橋和弘・蜂屋正雄・はしかけ「田んぼの生きもの調査グループ」共同).

2012年6月16日, 自然豊かな田んぼで生き物観察, 観察会, 高島市朽木生杉, 講師, (寺尾尚純共同・朽木いきものふれあいの里共催).

2012年6月17日, 田んぼの生きもの観察, 田んぼ体験教室, 琵琶湖博物館, 講師, (水谷 智, 中川 優共同).

2012年6月19日, プランクトンの観察, サテライト博物館, 永原小学校, 講師, (水谷 智, 蜂屋正雄共同).

2012年6月23日, 琵琶湖博物館わくわく探検隊: プランクトンの模型を作ろう, 体験学習, 琵琶湖博物館, 講師,

(藤橋和弘・蜂屋正雄、はしかけ「びわたん」共同)。

2012年8月2日、琵琶湖博物館の交流事業、博物館実習、琵琶湖博物館、講師。

2012年8月2日、プランクトンおよび付着生物調査、自然調査ゼミナール班別調査、琵琶湖博物館、講師。

2012年9月1日、保存食を科学する「かんぴょう」、講座、琵琶湖博物館、講師、(寺尾尚純共同)。

2012年11月10日、秋の里山を歩こう、観察会、長浜市名越、講師、(寺尾尚純・はしかけ「里山の会」共同・カワセミ自然の会共催)。

2013年2月9日、新種イタチムシと織毛虫、新琵琶湖学セミナー、琵琶湖博物館、講師、(鈴木隆仁氏共同)。

他の博物館・機関等主催行事

2012年4月8日、プランクトンの解説、ルシオール アート キッズ フェスティバル、立命館守山中・高等学校、講師。

2012年6月28日、プランクトンの同定および研究指導、栗東中学校、琵琶湖博物館、講師。

2012年6月30日、プランクトンの観察、立命館守山中学校、琵琶湖博物館、講師。

2012年7月12日、プランクトンの観察、彦根東高校、琵琶湖博物館、講師。

2012年7月25日、プランクトン観察指導、石部高校(ミュージアムスクール)、琵琶湖博物館、講師。

2012年7月30日、プランクトン観察指導、石部高校(ミュージアムスクール)、琵琶湖博物館、講師。

2012年8月8日、プランクトンの観察、神奈川県高等学校理科部会生物研修委員会、琵琶湖博物館、講師。

2012年8月9日、プランクトンの観察、滋賀県環境教育協議会、琵琶湖博物館、講師。

2012年8月11日、プランクトンの観察、福井県立金津高校、琵琶湖博物館、講師。

2012年8月22日、沖島体験クルーズ～「琵琶湖はおいしい面白い」(琵琶湖のプランクトン解説)、滋賀県ミュージアム活性化推進委員会、琵琶湖船上、講師。

2012年8月23日、プランクトンの同定および研究指導、栗東中学校科学部、琵琶湖博物館、講師。

2012年9月9日、プランクトンの観察、セントヨゼフ女子学園、琵琶湖博物館、講師。

2012年9月22日、琵琶湖の微生物をモチーフにアートしてみよう、滋賀県立近代美術館、滋賀県立近代美術館、講師、成安造形大学・滋賀県立近代美術館共催。

2012年11月17日、プランクトン調べの指導、立命館守山中(ミュージアムスクール)、琵琶湖博物館、講師。

2012年12月15日、プランクトン調べの指導、立命館守山中(ミュージアムスクール)、琵琶湖博物館、講師。

2013年2月24日、冬の生きもの観察、ぼてじゃこトラスト、大津市黒津、講師、(寺尾尚純共同)。

2013年3月19日、微生物研究指導、八幡工業高校 環境科学科、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

2012年3月14日、はしかけ制度について説明、静岡市文化財課、琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2012年8月2日、資料提供、珍しいクラゲ「マミズクラゲ」の増殖に成功しました！！。

2012年8月3日、中日新聞、「琵琶湖博物館でマミズクラゲ展示」、(2012年8月2日取材)。

2013年1月7日、京都新聞、「県内で新発見 微小生物紹介 琵琶湖 ユスリカ新種も」、(2012年12月22日取材)。

2013年2月27日、産経新聞、「大きな湖の小さなモンスター」、(2013年1月11日、1月17日、2月17日取材)。

2013年3月7日、トカゲ太郎のワンダーワールド <<http://www.tokagetarou.com/biwako.html#04>>、滋賀県立琵琶湖博物館、不思議な形の小さな生き物たち、(2013年2月26日取材)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物静止画、撮影および指導、約1,000件。

微小生物動画、撮影および指導、約20件。

微小生物プレパラート、作製および指導、約50件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4 回.

2012 年，常設展示：プランクトンコーナー，維持管理、展示更新（年4 回）.

2012 年，常設展示：ミクロの世界，維持管理.

2012 年，常設展示：どぶ川の生き物たち，維持管理.

【企画調整活動】

琵琶湖博物館の活動

新任職員等研修，琵琶湖博物館の交流事業，講師，2012年4月10日，琵琶湖博物館.

新任職員等研修，C 展示室全体説明，講師，2012年4月11日，琵琶湖博物館.

新任職員等研修，C 展示室個別コーナー説明，講師，2012年4月15日，琵琶湖博物館.

JICA 博物館学集中コース，交流事業の考え方，講師，2012 年 10 月 12 日，琵琶湖博物館.

JICA 博物館学集中コース，フィールドレポーターおよびはしかけとの懇談，コーディネーターおよび司会，2012 年 10 月13 日，琵琶湖博物館，（フィールドレポーター・はしかけ「びわたん」共同）.

JICA 博物館学集中コース，琵琶湖博物館の展示を評価する，実習指導，2012 年10 月17 日，琵琶湖博物館，（黒岩啓子氏・中井克樹・芦谷美奈子共同）.

JICA 博物館学集中コース個別研修，プランクトンの模型作り，実習指導，2012 年 12 月 4 日，琵琶湖博物館.

JICA 博物館学集中コース個別研修，MIHO MUSEUM・能登川東小学校でのサテライト博物館・滋賀県立平和記念館見学、引率，2012 年 12 月 6 日，甲賀市・東近江市.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2011 年 4 月～2013 年 3 月，滋賀県博物館協議会研修委員会，委員.

【海外渡航】

7 月 14 日～22 日，モンゴル，日本学術振興会研究拠点形成事業 B. アジア・アフリカ学術基盤形成型「アジアにおける新しい博物館・博物館学創出のための研究交流」.

【館外の活動】

2004 年 4 月～2013 年 3 月，JICA 博物館学集中コース運営委員会，運営委員.

2012年度は、前年度までの水産庁事業「外来種抑制等対策事業」を継承する新規事業「外来魚抑制管理技術高度化事業」の初年度に当たり、前事業に引き続き、地元関係者の協力が得られる水域において、外来魚の生息抑制を効果的に行うための手法の開発を目的として、野外実験を行った。オス親魚による産卵床形成を誘導する装置「吊り下げ式人工産卵装置」については、松元ダム貯水池（鹿児島県）と三春ダム貯水池（福島県）において、水位変動の影響を受けにくい網場や取水ポンプ施設といった“沖出し”施設への係留を本格的に行い、この設置方法の有効性を確認することができた。しかし、松元ダム貯水池では、三春ダム貯水池ほど誘引性が高くなく、高密度で生息するブルーギルによる影響が推測された。狭山公園宅部池（東京都）と早月川河口の溜まり（富山県）では、水域が小規模であるため、その全周にわたって装置を設置することができ、装置利用の頻度が稚魚の発生に至る自然産卵の頻度を大きく上回り、十分な数の装置を設置することで、繁殖抑制効果が期待できることが示された。前年度から始まった環境省地球環境総合推進費「外来生物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」では、サブテーマ「外来魚類の防除手法開発および防除体制強化」を担当し、上記水産庁プロジェクトで開発された装置の普及・展開をはかるとともに、ブルーギルを対象とした水位変動などを利用した繁殖抑制技術の開発や、オオクチバス・ブルーギル両種の当歳魚の有効な捕獲方法の開発に取り組んだ。同じく前年度開始の琵琶湖博物館共同研究「侵略的外来魚の生息抑制に関する総合的研究」では、滋賀県下の余呉湖と守山漁港において吊り下げ式人工産卵装置の設置を試みた。これら外来魚に関する研究成果は、国内外の学会・研究会と学術論文での発表を行った。

総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」では、貝類班班長として、貝類のなかでとりわけ琵琶湖の生物多様性を理解する上で重要と考えられるタニシ科とカワニナ科を対象とし、前年度に引き続き全国規模での分子系統解析を視野に入れた研究のための準備作業を進めた。

今年度から研究分担者として参加することになった文部科学省科学研究費補助金挑戦的萌芽研究「侵入害虫ジャンボタニシの地域限定の根絶管理」では、研究代表者らとの研究打合せを行うとともに、鹿児島県始良市や徳島県徳島市などにおける聞き取り調査を行った。

最終年度を迎えた環境省希少野生動物野生復帰事業では、分担者として、侵入したイトヨと大規模な交雑が進んでいる米原市の保護区におけるハリヨの野生復帰事業と、企業の設置したビオトープ施設などの野外施設を利用したイチモンジタナゴの野生復帰事業の取りまとめに協力した。希少生物の保全に関しては、環境省レッドリストの淡水産巻貝類と、京都府レッドデータブックの陸産貝類についても、前年度に引き続き見直し作業に携わった。

地域連携を視野に入れた専門家の立場からの活動としては、3年目を迎えた滋賀県経済同友会湖南支部による「湖南いきもの応援団」による地元を流れる狼川を対象とした生物調査に関わり、調査手法や結果の分析等にかかる指導を草津市環境課と共同で実施、これまでの調査結果についての取りまとめを行った。また、奈良県平群町で竜田川の水環境の回復をめざすグループの活動に対しても助言を行うとともに、地元小学校の環境学習にも協力した。

企画調整課の分掌業務としては、JICA集団研修「博物館学コース」の主担当者として研修プログラムの企画・運営を行い、琵琶湖博物館における各1週間の一般研修（10月）と個別研修（12月）の受け入れを担当し、広島への研修旅行（11月）にも同行した。国際交流の副担当としては、海外からの約10件の視察に対応し、フランス国立自然史博物館との相互協力関係の提携延長のための交渉に携わった。情報機器管理の主担当者としては、日々の情報機器の維持・管理に加え、5年に一度のシステム中枢機器の入れ替え作業を副担当者の主導で行った。特命業務の「移動博物館」事業の主担当者としては、前年度末に納品された「地域発見！参加型移動博物館」のキットを利用し、館内でのお披露目を含め県内外における15回の出展の企画・運営・実施に携わり、キットの修繕と改良を適宜行うとともに、新規キット「空から見た琵琶湖・拡大版」と「水田の生きものたち・微生物版」の製作を開始した。これら企画調整課関連の分掌業務が著しく過重となったため、次年度に開催予定の生物多様性をテーマにした企画展示については、主担当者としての準備作業に時間を割くことがほとんどできなかった。

印刷物

【原著論文】

熊澤一正・大杉奉功・西田守一・浅見和弘・鎌田健太郎・沖津二郎・中井克樹・五十嵐崇博・船橋昇治・岩見洋一・中沢重一(2012)ダム湖の水位低下を利用した定置網による外来魚捕獲とその効果. *応用生態工学*, 15:171-185.

【専門分野の著作】

Nakai, K. and Kaneko, Y. (2012) Non-indigenous species in and around Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*. Springer, Dordrecht: 179-187.

Nakai, K. (2012) Countermeasures against invasive non-indigenous species. *Ditto*: 475.

Nakai, K. (2012) Regulations and control of invasive non-indigenous species. *Ditto*: 477-484.

亀田佳代子・中井克樹(2012)野生生物の保護管理における博物館の役割. *博物館と生態学* 19, 日本生態学会誌, 62: 307-312.

【一般向けの著作】

中山れいこ 著・矢後勝也 監修・中井克樹 総監修(2012)よくわかる生物多様性③身近なチョウ 何を食べてどこにすんでいるのだろうか. くろしお出版, 東京: 57 p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中井克樹・松田征也・金尾滋史・林 和典・高倉 猛(2012年4月15日)滋賀県指定外来種スクミリンゴガイの現状. 日本貝類学会平成24年度大会, 東京家政学院大学(東京都千代田区), [口頭発表].

中井克樹(2012年4月16日)魚類(オオクチバス・ブルーギル). ワークショップ-生物多様性国家戦略の見直しにおける外来種の取り扱いについて, ワークショップ運営委員会, 国立環境研究所(茨城県つくば市), [口頭発表および運営委員会委員].

滋賀県立琵琶湖博物館(中井克樹)(2012年5月31日)課題7. 特定外来魚の生息抑制装置の開発. 平成24年度外来魚抑制管理技術高度化事業第1回検討委員会(計画検討会), 水産庁漁政部(東京都千代田区), [口頭発表].

中井克樹(2012年6月30日)滋賀県版レッドデータブック: 県条例及び国版リストとの関わり. 大阪生物多様性ネットワークキックオフ・ミーティング「これからのレッドデータブックのかたち」, 大阪市立自然史博物館(大阪府大阪市), [口頭発表].

Azami, K. A., Asaeda, T., Nakai, K., Osugi, T. and Nakazawa, S. (2012年7月9日) Ecological function of willow communities developing in the seasonally submerged zone of a reservoir as spawning and nursery habitats for native fish. 2012 ASLO Aquatic Sciences Meeting: SS52 Ecology and Management of Dams and their Watersheds, Piazza Omi (Otsu / Shiga), [Oral presentation].

Osugi, T., Nakai, K., Azami, K., Iwami, Y. and Nakazawa, S. (2012年7月9日) Development of methods for controlling invasive alien fishes in a reservoir, taking advantage of drawdown of water level. *Ditto*, [Oral presentation].

Nakai, K. (2012年7月10日) Lake Biwa - The Japanese ancient lake, harboring many endemics and inhabited by not a few invasives. 2012 ASLO Aquatic Sciences Meeting: SS63 Lake Biwa Story: Past, Present and Future, Biwako Hall (Otsu / Shiga), [Oral presentation].

Mabuchi, K., Song, H. Y., Takeshima, H., Nakai, K., Senou, H. and Nishida, M. (2012年7月10日) Lake Biwa as a refuge of native Japanese common carp. *Ditto*, [Poster presentation].

- Nakai, K. (2012年8月22日) Black bass and bluegill as invasive alien fish in Japan: Administrative response and technical development for their effective control. 142nd Annual Meeting of the American Fisheries Society, Minneapolis -St. Paul, Minnesota “Fisheries Networks: Building Ecological, Social, and Professional Relationships” : Symposium on “Biology and Control of Invasive Fishes: Lessons across Species and Regions” , Ballroom B - River Centre, St. Paul (St. Paul / Minnesota / USA), [Oral presentation].
- Nakai, K. (2012年8月30日) Recent declining trends in indigenous fish diversity in Lake Biwa, Japan, and efforts toward recovery. Speciation in Ancient Lakes 6, Cibinong Science Center - LIPI (Bogor / Indonesia), [Oral presentation].
- 大杉奉功・澁谷慎一・沖津二郎・樋口貴哉・中井克樹・土岐範彦・本多吉美 (2012年9月9日) ブルーギルの繁殖コロニーの特徴とダム湖の水位操作を利用した効果的な防除手法. 三学会 (日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会) 合同大会 - ELR2012 東京, 東京農業大学 (東京都世田谷区), [ポスター発表].
- 中井克樹 (2012年9月16日) 特定外来生物オオクチバスの繁殖抑制装置の開発. 日本陸水学会第77回大会, 名古屋大学 (愛知県名古屋市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2012年10月26日) 外来魚駆除用の人工産卵床の開発. 平成24年度滋賀県試験研究機関研究発表会「淡水海環境に関する試験研究の取組2012～滋賀発の技術開発・活用事例を通して～, 琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議, 長浜ドーム (滋賀県長浜市), [ポスター発表].
- 中井克樹 (2012年10月31日) 2012年オオクチバス繁殖期における人工産卵装置設置の結果. 第2回三春ダム外来魚研究会, 国土交通省東北地方河川事務所三春ダム管理所 (福島県三春町), [口頭発表].
- 中井克樹 (2012年11月1日) 外来魚の生息抑制技術の開発: 特に人工産卵装置について. 水源地生態研究会三春ダム研究グループ会議, 郡中ビルディング (福島県郡山市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2013年1月18日) 生物多様性をめぐる話題～2013年度の企画展に向けて～. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2013年1月29日) サブテーマ2: 外来魚類の防除手法開発および防除体制強化. 地球環境研究総合推進費平成23年度開始課題D-1101「外来生物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」第3回アドバイザーボード会議, 国立環境研究所, [口頭発表].
- 中井克樹 (2013年2月3日) 人工産卵装置は、沖出し施設に吊り下げて. 第8回外来魚情報交換会, 琵琶湖を戻す会, 草津市立まちづくりセンター (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2013年2月17日) 「かいなかま」の心得 (1): ご法度に注意. 阪神貝類談話会2013年2月例会, 西宮市立浜公民館 (兵庫県西宮市), [口頭発表].
- 滋賀県立琵琶湖博物館 (中井克樹) (2013年2月26日) 課題7 特定外来魚の生息抑制装置の開発. 平成24年度外来魚抑制管理技術高度化事業第2回検討委員会 (最終報告会), 農林水産省 (東京都千代田区), [口頭発表].
- 中井克樹 (2013年3月6日) コメント. 第60回日本生態学会大会: 企画集会 T15「里地の生態系再生に向けた総合的外来種駆除」, 静岡県コンベンションアーツセンター (グランシップ) (静岡県静岡市), [コメンテーター].
- 中井克樹 (2013年3月7日) オオクチバスの産卵行動を誘導する人工産卵装置の開発. 第60回日本生態学会大会: 口頭発表, 静岡県コンベンションアーツセンター (グランシップ) (静岡県静岡市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費補助金 (挑戦的萌芽)「侵入生物ジャンボタニシの地域限定個体群に対する総合的根絶マネジメントへの試み」(研究代表者: 日鷹一雅), 研究分担者 (2012～2014年度).
- 水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来種抑制技術高度化事業」(研究代表者: 片野 修), 研究分担者 (2012年度～).
- 環境省地球環境研究総合推進費「外来生物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」(研究代表者: 五箇公一), 研究分担者 (2011～2013年度).
- 環境省ハリヨ野生復帰モデル事業 (研究代表者: 松田征也), 研究分担者 (2010～2012年度).
- 環境省イチモンジタナゴ野生復帰モデル事業 (研究代表者: 松田征也), 研究分担者 (2010～2012年度).
- 水源地研究会陸上生態研究委員会三春ダム研究グループ (陸上・水圏生態研究委員会) (委員長: 谷田一三), 委員

(2008～2012 年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者:高橋啓一),貝類班班長(2011～2015 年度).

琵琶湖博物館共同研究「侵略的外来魚の生息抑制に関する総合的研究」,研究代表者(2011～2013 年度).

琵琶湖博物館専門研究「魚類・貝類の保全に関する研究」,(2012 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会自然保護専門委員会,近畿地区選出専門委員,2013年1月～.

日本生態学会自然保護専門委員会,外来種問題検討作業部会員,2001年3月～.

日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員会,委員,2010年1月～.

日本魚類学会,評議員,2004年1月～.

日本魚類学会自然保護委員会,委員.

応用生態工学会普及・連携委員会,委員,2009年9月～.

日本貝類学会,評議員,2011年1月～.

阪神貝類談話会,理事,2000年1月～.

生物多様性ネットワーク新潟,顧問,2004年10月～.

全国ブラックバス防除市民ネットワーク,理事,2005年11月～.

日本魚類学会「魚類学雑誌」,査読,1件.

Folia Zoologica,査読,1件.

農林水産省農村振興局農村環境課農村環境対策室(編)「カワヒバリガイ被害対策マニュアル」(2013年3月発行)の査読.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年6月22日,滋賀県立大学近江環人地域再生学座「地域診断法」特論,講義「滋賀県の動植物の特性把握と地域診断」.

2012年7月18日,同志社大学日本語日本文化教育センターCLSプログラム,講義「琵琶湖から考える外来魚問題と生物多様性」.

2012年7月23日,神戸女学院大学 ES538(2) Environmental Issues and ESD Progress in Japan II,講義「Lake Biwa - An ancient lake of Japan, suffering from invasive alien fishes」.

2013年1月10日,“Sustainability”Tour to Japan of Bucknell University,講義「Invasive species and indigenous biodiversity: Importance of localization in globalizing world」.

2012年度,鹿児島大学水産学部水産学科海洋資源環境教育研究センター4年生,卒業論文「松元ダムにおけるオオクチバスとブルーギルの出現パターンと簡易駆除方法の検討」に関する調査方法,データ解析,結果の解釈等に関する助言・指導.

2012年6月2日,滋賀大学教育学部2年生4名,外来魚問題に関するビデオ製作(授業課題)のための取材への対応.

2012年6月29日,大津市在住小学3年生,アルキメデスの原理の体感的再発見の図示についての助言(国立科学博物館「平成24年度博物館の達人・野依科学奨励賞(小・中学校の部)」受賞).

2012年7月6日～,国立民族学博物館研究員(台湾国立台北芸術大学博物館研究所研究員),琵琶湖博物館における市民参加型調査とくに「ホタルダス」調査に関する協力[荒井紀子展示交流員・楠岡 泰・芦谷美奈子・中藤容子と共同].

2012年8月3日,大津市在住小学3年生,琵琶湖の外来魚問題に関する研究方法等についての助言(「第31回海とさかな自由研究・作品コンクール」の研究部門において農林水産大臣賞受賞).

2012年8月6日,滋賀県立大学環境科学部3年生,外来魚を対象にした卒業研究のテーマ設定に関する助言.

2012年8月12日,私立清教学園高等学校(大阪府河内長野市)3年生2名,外来魚問題の解決をテーマにした卒業論文の作成に関する助言.

2012年11月13日,滋賀県立虎姫高等学校2年生,フィールドワークの一環として「琵琶湖の外来魚問題」に関する

る質問への対応。

2012年12月12日～、千葉大学大学院農芸学研究科修士課程2年生、修士論文「公園池におけるブルーギル個体群の減少に関する群集生態学的研究」に関する助言。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク、琵琶湖博物館、10件。

2012年5月19日、スクミリンゴガイ・タニシ類の見分け方教室および現地研修、琵琶湖博物館フィールドレポーター交流会、琵琶湖博物館（滋賀県草津市）およびスクミリンゴガイ生息地（野洲市）、講師。

2012年7月28日、琵琶湖の生きものたちは、いま、琵琶湖がやってくる～もっと知ろう！日本一の湖～、ニッセイ・ライフプラザ丸の内「みらいフォレスト」（東京都千代田区）、講師。

2012年8月8日、外来種を飼うとき、注意すべきこと：外来生物問題と生物多様性、琵琶湖博物館指導者のための博物館活用講座第1回「生き物飼う方講座」、琵琶湖博物館（滋賀県草津市）、講師。

2012年11月10日、観察会解説および講義「カタツムリのはなし」、琵琶湖博物館・高島市森林公園「くつきの森」共同開催観察会「朽木の森で宝探し『カタツムリとアニマルトラッキング』」、高島市森林公園「くつきの森」（滋賀県高島市）、講師 [澤邊久美子と共同]。

2013年2月16日、生物多様性の考え方～今年の企画展に向けて～、新琵琶湖学セミナー 第4回 生物群集からみた生物多様性、琵琶湖博物館（滋賀県草津市）、講師。

他の博物館・機関等の主催行事

2012年4月24日、現地調査指導および講評、湖南企業いきもの応援団第9回調査会、滋賀経済同友会湖南支部、日本ガラクトロニクス株式会社および狼川流域（滋賀県草津市）、講師。

2012年4月27日、琵琶湖の外来魚問題～外来魚駆除釣り大会によせて～、第2回「ボランティアの日」びわこ外来魚駆除釣り大会、レイカディア草津校33期生、におの浜ふれあいスポーツセンター（滋賀県大津市）、講師。

2012年4月27日、外来カメ類等の同定のための鑑別方法についての指導、平成24年度滋賀県エイリアン・ウォッチャー事業調査員研修、(株)パスコ、琵琶湖博物館（滋賀県草津市）、講師。

2012年5月13日、身近な生きものたちを大切に、琵琶湖博物館見学、蓮生寺子ども会（滋賀県守山市）、琵琶湖博物館（滋賀県大津市）、講師。

2012年5月17日、生物多様性の考え方～特に外来生物問題への対処をどうするか～、平成24年度エイリアン・バスターズ事業に係る勉強会、積水化成品工業株式会社、積水化成品工業株式会社滋賀研究開発棟（滋賀県甲賀市）、講師。

2012年5月29日、新たな外来魚への対策：ブルーギルとコクチバス、福井県内水面漁業協同組合連合会設立60周年記念大会、アオッサ研修室（福井県福井市）、講師。

2012年5月30日、琵琶湖における自然環境を守る取り組み、武庫川女子大学附属中学校2年生長浜合宿研修、琵琶湖博物館（滋賀県草津市）、講師。

2012年6月16日、琵琶湖の生き物とその調査法、2012年度立命館守山中学校総合学習第2回琵琶湖学習、琵琶湖博物館（滋賀県草津市）、講師。

2012年6月23日、講義「琵琶湖のいま」および外来魚釣り体験、森の子クラブ「琵琶湖博物館での体験学習」、フィールドソサイエティー（京都府京都市）、琵琶湖博物館（滋賀県草津市）、講師。

2012年7月13日、琵琶湖の外来魚問題と生物多様性、シニア自然大学、琵琶湖博物館（滋賀県草津市）、講師。

2012年7月18日、現地調査指導および講評、湖南企業いきもの応援団第10回調査会、滋賀経済同友会湖南支部、日本ガラクトロニクス株式会社および狼川流域（滋賀県草津市）、講師。

2012年7月30日、外来魚と生物多様性～松元ダムの魚たちから考える～、市民協働型生物多様性環境学習事業「外

- 来魚の学習&駆除 in 松元ダム」, 鹿児島市環境保全課・水土里ネットまつもと・NPO 法人かごしま市民環境会議・鹿児島大学総合研究博物館, 農村交流館まつもと (鹿児島県鹿児島市), 講師.
- 2012年8月8日, 外来生物問題と生物多様性, 橿原市立畝傍中学校科学部夏季遠征, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), 講師.
- 2012年9月6日, みんなの竜田川と生き物たち, 平群町立平群南小学校4年生環境学習, 平群町立平群南小学校 (奈良県平群町), 講師.
- 2012年9月9日, わが国における外来生物対策の現状と課題, シンポジウム「トキの野生復帰事業新たな段階へ…環境の島 佐渡の生物多様性を考える」, 生物多様性保全ネットワーク新潟, トキ交流会館 (新潟県佐渡市), 講師.
- 2012年9月18日, 琵琶湖から考える外来生物問題と生物多様性, NPO 法人シニア自然大学第19期緑組, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), 講師.
- 2012年9月19日, 外来魚問題への対策: なんのために、どうやって? 河川流域振興活動実践事業講習会, 富山県内水面漁業協同組合連合会, とやま自遊館「神通」(富山県富山市), 講師.
- 2012年10月9日, 生物多様性の考え方と企業の関わり, EPOC (環境パートナーシップ CLUB) 自然共生社会分科会「生物多様性保全地域・企業の視察」, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), 講師.
- 2012年10月9日, 現地調査指導および講評, 湖南企業いきもの応援団第11回調査会, 滋賀経済同友会湖南支部, 日本ガラクトロニクス株式会社および狼川流域 (滋賀県草津市), 講師.
- 2012年10月17日, 生物多様性の大切さと外来生物への対処, 坂井市環境フォーラム準備会琵琶湖博物館視察, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), 講師.
- 2012年11月4日, 総括・閉会の辞, JICA 集団研修「博物館学コース」公開フォーラム 世界の博物館 2012, 国立民族学博物館 (大阪府吹田市), 挨拶.
- 2012年11月17日, 班別調べ学習「外来魚」第1回, 2012年度立命館守山中学校総合学習琵琶湖学習, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), 講師.
- 2012年11月19日, 運営補助, NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク学芸員講習会「プラスティネーション標本の作成に関する研修会」, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), 受入れ担当.
- 2012年11月20日, 外来生物による生態的影響の解明と防除・抑制手法の開発および湖と人との関わり, レイカディア大学草津校第35期選択講座, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), 講師.
- 2012年11月24日, 外来生物問題の難しさ、なやましさを、環境フォーラム 2012～外国からきた生きものたち 外来種を考える…、エコネイチャーさかい・坂井市, みくに文化未来館 (福井県坂井市), 講師.
- 2012年12月15日, 班別調べ学習「外来魚」, 2012年度立命館守山中学校総合学習琵琶湖学習, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), 講師 [金尾滋史と共同].
- 2012年12月18日, 講義「Recent trends in fish community in Lake Biwa: Decline in indigenous fish and explosion of non-indigenous fish」および展示案内, JICA 国別研修カンボジア国「淡水魚養殖技術」, 琵琶湖博物館会議室 (滋賀県草津市) および展示室, 講師 [菅原和宏と共同].
- 2012年12月20日, Closing Remarks (閉会挨拶～閉会式終了), JICA 集団研修「博物館学コース」閉講式, 国立民族学博物館 (大阪府吹田市), 挨拶.
- 2013年1月12日, パネルディスカッション. 第6回生物多様性協働フォーラム～共生のビジョンを広域的な視点から考える～ (滋賀県・生物多様性協働フォーラム事務局主催), ピアザ淡海 (滋賀県大津市), パネリスト [泉峰一 (米原市市長)・中貝宗治 (豊岡市市長)・三橋弘宗 (兵庫県立人と自然の博物館)・西田貴明 (三菱UFJ リサーチ&コンサルティング) と共同].
- 2013年2月13日, 現地調査指導および講評, 湖南企業いきもの応援団第12回調査会, 滋賀経済同友会湖南支部, 日本ガラクトロニクス株式会社および狼川流域 (滋賀県草津市), 講師.

視察対応

- 2012年4月24日, 研修打合せおよび館内施設案内, 積水化成工業株式会社 CSR 推進部一行.
- 2012年4月25日, 「地域発見! 参加型移動博物館全キットお披露目」の視察, 滋賀県琵琶湖環境部部長一行.
- 2012年5月16日, 展示案内, 「21世紀東アジア青少年大交流計画」インド高校生訪日団 ((財) 日本国際協力セン

ター).

- 2012年5月29日, 展示案内, ガボン人文科学研究所 Moussavou Guy-Max 研究員一行, [篠原 徹館長と共同].
- 2012年7月14日, 展示案内, アメリカ合衆国ネバダ大学 Sudeep Chandra 講師ほか ASLO2012 参加者一行.
- 2012年9月6日, 施設・展示案内. EPOC (環境パートナーシップ CLUB) 自然共生社会分科会一行.
- 2012年10月2日, 展示案内, JICA 研修「沿岸域・内湾およびその集水域における統合的水環境管理研修」((公財) 国際エメックスセンター).
- 2012年10月13日, 展示案内, 横浜国立大学鈴木邦雄学長一行.
- 2012年11月15日, 琵琶湖博物館の概要紹介および展示案内, JICA 平成24年度「(第2回) 産業廃水処理技術(A)」コース研修 ((公財) 北九州国際技術協力協会).
- 2012年11月16日, 展示案内, JICA 平成24年度地域別研修「アフリカ地域都市上水道技術者養成」コース (横浜ウォーター株式会社).
- 2012年12月13日, 展示案内, アメリカ合衆国ミシガン州立大学 Damon Krueger 助手一行.
- 2013年2月19日, 展示案内, 経済産業省平成24年度地球温暖化対策技術普及等推進事業「インド共和国におけるマイクロ水力導入による無電化・弱電化地域解消プロジェクト」, シーベルインターナショナル株式会社.
- 2013年3月19日, 滋賀県・ミシガン州高校生交流研修に関する事前打合せおよび施設見学, アメリカ合衆国ミシガン州立大学 Siddharth Chandra 教授一行.
- 2013年3月26日, 施設見学等, 滋賀県国際室平成24年度「中国湖南省・広東省環境観光キーパーソン招聘事業」, [篠原 徹館長・藤村俊樹企画調整課長・八尋克郎・松田征也・楊平と共同].

メディアへの協力

- 2012年4月26日, 京都新聞, 『移動琵琶博』展示物が完成, 「地域発見! 参加型移動博物館」の概要説明 (4月25日, 会場で取材).
- 2012年5月3日, 中日新聞, 「県内の水環境紹介/草津 移動博物館セット展示」, 「地域発見! 参加型移動博物館」の概要説明 (5月2日, 会場で取材).
- 2012年5月4日, 富山テレビ放送, 「BBT スーパーニュース: とやま物語」, 魚津水族館と連携した外来魚調査に関するコメント (4月21日現地調査時に取材).
- 2012年5月8日, 富山テレビ放送, 「BBT スーパーニュース: 生態系を守れ!」, 人工産卵装置を利用した外来魚の繁殖抑制に関するコメント (4月21日現地調査時に取材).
- 2012年6月16日, 上越タイムス, 「“トンボの宝庫”を守れ/糸魚川「田海ヶ池」でBバス対策」, 人工産卵装置を利用したオオクチバスの繁殖抑制対策に関するコメント (6月14日, 田海ヶ池での調査時に取材).
- 2012年6月19日, 新潟日報 (上越面), 「外敵からトンボを守れ/糸魚川田海ヶ池 バス駆除 専門家協力」, 「田海ヶ池トンボを守る会」への指導・協力について取材および現地作業後のコメント (同上).
- 2012年7月1日, 同朋新聞, 「どうほうしんぶんキッズ: みんなで生きている奇跡」および「琵琶湖博物館で発見しよう!」への取材協力・助言.
- 2012年7月13日, KBS 京都ラジオ, 「妹尾和夫のパラダイス KYOTO」, 「滋賀・びわ湖ブランド展: 湖 (うみ) と生きる」のイオンモール KYOTO での開催予告と内容説明 (電話インタビュー).
- 2012年7月21日, KBS 京都ラジオ, 「桂塩鯛のサークルタウン」, 「滋賀・びわ湖ブランド展: 湖 (うみ) と生きる」のイオンモール KYOTO での開催状況の説明 (会場からの中継).
- 2012年7月27日, 中日新聞, 『県立琵琶湖博物館』が東京へ/『移動展示物』使い琵琶湖の魅力紹介, 日生丸の内みらいフォレストにおける「琵琶湖がやってくる! もっと知ろう! 日本一の湖」の概要説明 (7月26日会場にて取材).
- 2012年7月31日, Freshwater Illustrated “RiverWebs”, アメリカ合衆国コロラド州立大学 Kurt Fausch 教授による解説書および紹介ビデオ製作のための琵琶湖地域取材への協力, 琵琶湖および流入河川・水田地帯 (滋賀県野洲市・大津市・高島市・長浜市).
- 2012年8月10日, しが県民情報「近江すたいる」, 「湖国の魅力再発見! / 滋賀・びわ湖ブランド展/歴史・文化 楽しく学ぶ/25, 26日・草津 県の参加型移動博物館」, 「滋賀・びわ湖ブランド展」における移動博物館の概要説明 (7月21日, 京都会場で取材).

2012年11月13日, KBS 京都ラジオ, 「2012 産業フェア & そばフェスタ」における移動博物館の出展紹介 (電話インタビュー).

2012年11月23日, KBS 京都ラジオ, 「妹尾和夫のパラダイス京都」, 「2012 産業フェア & そばフェスタ」における移動博物館の開催状況 (会場からの中継).

2013年1月13日, 京都新聞 (滋賀版), 「生物と社会 共存模索/大津で協働フォーラム/淀川水系・コウノトリ・ビワマス 各地の取り組み紹介」, 琵琶湖淀川流域の取り組み紹介に関して記事化 (1月12日実施).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館情報システムの管理・運営, 随時 [戸田 孝と共同].

琵琶湖博物館情報システム中枢機器の交換および端末機器の導入 [戸田 孝と共同].

爬虫類・両生類収蔵品データベースの管理.

琵琶湖博物館インターネット展示室・電子図鑑「外来生物」 (<http://www.lbm.go.jp/emuseum/zukan/gairai/index.html>) の管理および修正.

他博物館・機関の活動

健学社, 「食育フォーラム No. 141 (2013年1月)」の連載「食育ふしぎばなし 10. どうする、どう付き合う、外来生物」における外来魚対策やバスバーガーに関する助言および写真提供.

関西電力ウェブサイト: エコでナチュラルなライフスタイル「ナチュラルびと」をたずねて 2012年12月, 「外来魚の駆除を通して、固有の生き物の宝庫、琵琶湖の環境を次世代に引き継いでいきたい 滋賀県立琵琶湖博物館専門学芸員 中井克樹さん」 (<http://www1.kepco.co.jp/kankyounatural/people/1212.html>) への取材協力.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

魚類・貝類・その他水生無脊椎動物の標本資料の採集, 受入れ, および収蔵, 随時.

ほ乳類の標本資料用個体の受入れ (大津市鳥獣対策室・湖南振興局・多賀町立博物館等の協力), 随時.

京都大学理学部動物学教室生態学研究室, タンガニイカ湖・琵琶湖産魚類の液浸標本および魚類の目代表種の骨格標本等の受入れ準備.

他博物館・機関の活動

(財) リバーフロント整備センター, 「平成 23 年度河川水辺の国勢調査」の結果リスト中の貝類疑義サンプルの取り寄せおよび同定.

大阪広域水道企業団, カワコザラガイの生態および防除方法に関する相談対応.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

琵琶湖博物館第 23 回企画展示「生きものがたり～生物多様性 湖国から 世界から～」(2013年7月20日～11月24日)の準備, 主担当 [松田征也・藤岡康弘・澤邊久美子と共同].

琵琶湖博物館第 22 回企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」(2012年7月14日～11月25日)の「田んぼの生き物こだわり研究」の個人パネルへの情報提供.

他博物館・機関の活動

茨城県自然博物館第 55 回企画展「不思議いっぱい! 貝たちの世界—蝸牛から烏賊・蛸まで—」(2012年7月7日～9月17日)の展示内容に関する助言.

滋賀県「滋賀・びわ湖ブランド展」(イオンモール KYOTO: 2012年7月21日～22日, イオン高槻店: 8月4日～5

日、イオンモール草津：25日～26日）におけるクイズ「琵琶湖のトリビア」製作総括〔多くの学芸職員の共同〕。

滋賀県「滋賀・びわ湖ブランド展」イオンモール草津会場（2012年8月25日～26日）における「びわ湖愛クイズ」の内容確認および助言。

茨城県自然博物館第58回企画展「ぎょ・魚・漁—淡水魚の知られざる生態を追って—」（2013年7月13日～9月23日）の開催への資料提供等協力〔松田征也と共同〕。

沖縄県立博物館・美術館平成25年度博物館特別展「海山川のおくりもの 目からウロコの大生き物語展—生物多様性ホットスポット JAPAN—」（2013年7月12日～9月1日）の開催への資料提供等協力。

【企画調整活動】

新入職員等研修，C展示室解説，講師，2012年4月10日，琵琶湖博物館。

国際交流の副担当として海外からの視察・研修等を目的とした来館者への対応，随時〔楊平と共同〕。

フランス国立自然史博物館との相互協力関係の提携延長に関する交渉〔篠原 徹館長・マーク J グライガー・八尋 克郎と共同〕。

JICA 集団研修「博物館学コース」の主担当として，研修プログラムの企画・実施・総括を行う〔楊平・楠岡 泰・芦谷美奈子と共同〕。

2012年9月25日，ミュージアムレポートの運営，琵琶湖博物館（滋賀県草津市）。

2012年10月11日～17日，一般研修「琵琶湖博物館」の計画・準備・運営，琵琶湖博物館（滋賀県草津市）ほか。JICA 集団研修「博物館学コース」，琵琶湖博物館の概要および設立経緯，講師，2012年10月11日，琵琶湖博物館（滋賀県草津市）。

JICA 集団研修「博物館学コース」，展示見学，講師，2012年10月11日，琵琶湖博物館（滋賀県草津市）〔楊平と共同〕。

JICA 集団研修「博物館学コース」，地域活動「エコアイデアキッズびわ湖」の見学，講師，2012年10月14日，狼川中流およびパナソニックアプライアンス社（滋賀県草津市）〔中村大輔氏（滋賀県フローティングスクール）と共同〕。

JICA 集団研修「博物館学コース」，展示評価の実践：来館者調査とその分析，2012年10月17日，琵琶湖博物館展示室および会議室（滋賀県草津市），〔黒岩啓子（ラーニングイノベーションネットワーク代表）・楠岡 泰・芦谷美奈子・楊平と共同〕。

JICA 集団研修「博物館学コース」，研修旅行「直島・広島」の準備および同行，2012年11月6日～8日，広島市こども文化科学館・広島平和記念資料館（広島県広島市）・宮島水族館・厳島神社（広島県廿日市市）〔新免光比呂氏（国立民族学博物館）と共同〕。

JICA 集団研修「博物館学コース」，個別研修「博物館と地域コミュニティー」の計画・準備・運営，2012年12月2日～7日，琵琶湖博物館（滋賀県草津市）・東近江市能登川博物館（東近江市）・オムロン株式会社野洲事業所（野洲市）・彦根城博物館（彦根市）・MIHO MUSEUM（甲賀市）・東近江市立能登川東小学校・滋賀県平和祈念館（東近江市）。

JICA 集団研修「博物館学コース」個別研修「博物館と地域コミュニティー」，Brief introduction to Lake Biwa at present: Focusing on fish community / Reintroduction program for endangered species: A case by a local museum in collaboration with a local company / Diversity and localization, as local heritages with historical background, 講師，2012年12月4日，オムロン株式会社野洲事業所（滋賀県野洲市）。

移動博物館の主担当として，移動博物館展示キットの出版に関する準備・実施を行う〔金尾滋史らと共同〕。

地域発見！参加型移動博物館事業，ルシオール・アート・キッズ・フェスティバルにおける「移動博物館展示」の前日設営・解説・撤収，2012年4月8日，立命館守山中・高等学校（滋賀県守山市）〔多くの学芸職員と共同〕。

地域発見！参加型移動博物館事業，「地域発見！参加型移動博物館の全キットお披露目」の前日設営・解説・一部撤収，2012年4月25日～27日，琵琶湖博物館（滋賀県草津市）〔多くの学芸職員と共同〕。

地域発見！参加型移動博物館事業，「地域発見！参加型移動博物館の一部キット特別公開」の運営・撤収，2012年4月28日～5月6日，琵琶湖博物館（滋賀県草津市）〔多くの学芸職員と共同〕。

地域発見！参加型移動博物館事業、「滋賀・びわ湖ブランド展」（滋賀県主催）における「地域発見！参加型移動博物館」出展の前日設営・解説・撤収，2012年7月21日～22日，イオンモールKYOTO センターコート（京都府京都市）[多くの学芸職員等と共同].

地域発見！参加型移動博物館事業，2012年7月26日～8月4日，「琵琶湖がやってくる！～もっと知ろう！日本一の湖～」(滋賀県主催)における「地域発見！参加型移動博物館」出展の前日設営・オープニングセレモニー，ニッセイ・ライフプラザ丸の内「みらいフォレスト」（東京都千代田区）[滋賀県東京事務所職員・篠原徹館長等と共同].

地域発見！参加型移動博物館事業，2012年8月4日～5日，「滋賀・びわ湖ブランド展」（滋賀県主催）における「地域発見！参加型移動博物館」出展の前日設営・解説，イオン高槻店スタジアムコート（大阪府高槻市）[多くの学芸職員等と共同].

地域発見！参加型移動博物館事業，2012年8月7日，「しが☆まなび☆発見！」（滋賀県生涯学習課）における「地域発見！参加型琵琶湖博物館」出展の当日設営，ピアザ淡海（滋賀県大津市）[多くの学芸職員等と共同].

地域発見！参加型移動博物館事業，2012年8月25日～26日，「滋賀・びわ湖ブランド展」（滋賀県主催）における「地域発見！参加型移動博物館」出展の準備，イオンモール草津（滋賀県草津市）[金尾滋史と共同].

地域発見！参加型移動博物館事業，2012年10月22日～26日，「大滝小まつり」（多賀町立大滝小学校主催）における「空からみた琵琶湖」キットの貸出しの準備・撤収，多賀町立大滝小学校（滋賀県多賀町）.

地域発見！参加型移動博物館事業，2012年10月27日～28日，「琵琶湖博物館・移動博物館」出展の準備・前日設営・解説，フォレオ大津一里山（滋賀県大津市）[多くの学芸職員等と共同].

地域発見！参加型移動博物館事業，2012年11月17日～18日，『『おいで～な滋賀』in 博多天神イムズ』における「地域発見！参加型移動博物館」出展の準備，博多天神イムズ（福岡県福岡市）[金尾滋史と共同].

地域発見！参加型移動博物館事業，2012年11月23日，「びわ湖源流の郷たかしま 2012 産業フェア & そばフェスタ」（高島市産業連携推進協議会主催）における「地域発見！参加型移動博物館」出展の前日設営・解説・撤収，今津総合運動公園内スパーク今津（滋賀県高島市）.

地域発見！参加型移動博物館事業，2012年12月8日～9日，「京都環境フェスティバル2012」（京都府主催）の「滋賀県ブース」における「ミニ琵琶湖博物館」出展の前日設営・解説・撤収，京都府総合見本市会館（京都パルスプラザ）（京都府京都市）[金尾滋史らと共同].

地域発見！参加型移動博物館事業，2012年2月24日，「びわ湖レイクサイドマラソン」ゴール地点における「琵琶湖博物館ブース」における移動博物館出展の設営，烏丸半島駐車場(滋賀県草津市)[多数の学芸職員と共同].

地域発見！参加型移動博物館事業，2012年2月26日～3月4日，「第25回琵琶湖夢街道大近江展」における移動博物館キット出展の設営確認・オープニングセレモニー参列，日本橋タカシマヤ（東京都中央区）.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012年4月1日～2013年3月31日，JICA 集団研修「博物館学コース」運営委員会（国立民族学博物館），3号委員.

【海外渡航】

2012年8月19日～8月25日，アメリカ合衆国ミネソタ州セント・ポール市，第142回アメリカ水産学会年次大会（リバー・センター）での日本の外来魚問題の概要に関する研究発表.

2012年8月27日～9月5日，インドネシア共和国西ジャワ州ボゴールおよび南スラウェシ州マリリ湖沼群，第6回古代湖生物研究者会議（インドネシア科学院サイエンス・センター）での琵琶湖の魚類群集の激変に関する研究発表およびマタノ湖・トウティ湖の視察.

【館外の活動】

2003年5月～，滋賀県，外来種問題検討委員会，検討委員および水生生態系部会員.

2003年度～，滋賀県，生きもの総合調査委員会，魚貝類部会，専門委員.

- 2004年8月～，国土交通省琵琶湖河川事務所，河川保全利用委員会，委員。
- 2010年3月～，国土交通省中国四国整備局苫田ダム管理所，ブラックバス勉強会，委員。
- 2012年1月～，国土交通省東北地方河川事務所三春ダム管理所，三春ダム外来魚研究会，委員。
- 2008年9月～2013年3月，農林水産省，外来貝類被害防止対策検討委員会，委員。
- 2008年7月～2013年3月，農林水産省東海農政局，外来貝類被害防止対策検討委員会，委員長。
- 2003年度～，環境省，絶滅のおそれのある野生動植物種の選定・評価検討会（陸・淡水産貝類分科会），検討委員。
- 2004年10月～，環境省，外来生物専門家グループ（無脊椎動物），検討委員。
- 2010年3月～，環境省中国四国地方環境事務所，開放水域におけるオオクチバス等防除モデル事業有識者会議，有識者。
- 2012年6月～，中央環境審議会野生生物部会外来生物対策小委員会，委員。
- 2012年9月～2013年3月，環境省，「オオクチバス等防除モデル事業の検証」検討会，委員。
- 2012年9月～，環境省，愛知目標達成のための侵略的外来種リストの作成会議，検討委員。
- 2012年9月～，環境省，外来種被害防止行動計画の策定会議，検討委員。
- 1999年2月～，（財）リバーフロント整備センター，河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員（貝類担当）。
- 1999年10月～，（財）ダム水源地環境整備センター，河川水辺の国勢調査（ダム湖版）スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員（貝類担当）。

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、世界の中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

文部科学省の科学研究費補助金(科研費)の研究「南米大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」において研究代表者として、2013年1月17日から2月22日の間、チリ、エクアドル、フランス領ギアナ、グアドループ、キーウエストにおいて調査を行った。これらの地域に固有な種(未記載を含む)を多数採集できた。この他、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製やDNAの解析を行っている。

印刷物

【専門分野の著作】

Masunaga, K. (2012) The Dragonfly and Damselfly Faunas of Lake Biwa and their Long-term Changes. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 117-118.

Masunaga, K. (2012) Apendix 2. 21. A list of Odonata (Hexapoda) in Lake Biwa and its adjacent waters. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 634-637.

梶永一宏 (2012) 大英自然史博物館での研修とイギリスの博物館事情. *博物館研究*, 47(10): 22-24.

【一般向けの著作】

梶永一宏 (2013) 世界を旅する昆虫採集. *うみっこ通信*, 9, 琵琶湖博物館: 1-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

梶永一宏 (2013年3月15日) 南米大陸の調査報告. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ属 *Dolichopus* の分類学的研究」, (2012年度).

科学研究費補助金(基盤C)「南米大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」(研究代表者: 梶永一宏), 研究代表者 (2011~2013年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Zoosystematica Rossica, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件。

2012年8月2日，企画調整課実習，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2012年10月20日，夜の森ミニ探検，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！観察会，琵琶湖博物館，講師。

2013年3月24日，川虫探検，観察会，藤ノ木川・大津市，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2012年5月26日，川の中の生きものしらべ，観察会，ホタルの学校，千丈川（大津市），講師。

2012年6月10日，千丈川の水生昆虫についての講話，ほたるのつどい，ホタルの学校，千丈川（大津市），講師。

2012年7月26日，川の生きものしらべ，観察会，ホタルの学校，千丈川（大津市），講師。

2012年8月7日，琵琶湖博物館へ行こう，観察会，ホタルの学校，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2012年8月19日，水生昆虫の観察，観察会，魚の学校，南郷水産センター（大津市），講師。

2012年10月14日，川の生きものしらべ，観察会，ホタルの学校，千丈川（大津市），講師。

2013年2月23日，水鳥と水辺の生きもの観察会，観察会，ホタルの学校，瀬田川（大津市），講師。

メディアへの協力

2012年5月6日，朝日小学生新聞，タイコウチの顔について。

2012年5月12日，朝日小学生新聞，これ何だ？ゲンゴロウの後ろ脚について。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース，維持管理。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

日本産の昆虫の収集・整理（液浸，乾燥とも），500件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

2012年度，ギャラリー展示「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見」，副担当。

2012年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」，ライトトラップの展示更新と維持管理。

2012年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」，顕微鏡で虫を観る展示更新と維持管理。

2012年度，研究最前線更新。

【企画調整活動】

新任職員等研修，C展示室 川の生き物の概要，講師，2012年4月18日，琵琶湖博物館。

事業に関する資料提供，5件。

琵琶湖博物館への案内看板設置（三大神社）。

地域発見！参加型移動博物館，2012年4月1～6日，滋賀県甲賀環境・総合事務所。

地域発見！参加型移動博物館，2012年4月8日，立命館守山中学校・高等学校。

地域発見！参加型移動博物館，2012年4月27・29日、5月2日，滋賀県甲賀環境・総合事務所。

地域発見！参加型移動博物館，2012年7月20日・22日，イオンモール KYOTO。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012 年度，琵琶博だより，編集委員.

2012 年度，滋賀県博物館協議会，事務局，主担当.

【海外渡航】

2013 年 1 月 17 日～2 月 22 日，チリ・エクアドル・フランス領ギアナ・グアドループ・キーウエスト，野外調査.

【館外の活動】

2012 年 4 月～2013 年 3 月，滋賀県生きもの総合調査昆虫類部会，専門委員.

以下に示す6つのプロジェクトを中心に研究を行っている。

1. 巨大精子の形態と化石記録を用いた琵琶湖地域のキブリス上科カミジンコ類進化の解明。カイミジンコのサンプリングと収集、解剖と測定。岩のサンプルの処理と化石カイミジンコの処理。2012年7月19日~31日ミュンヘンで共同研究者と打ち合わせをし、科研費研究のためのデータを集めるために、グルノーブルにあるヨーロッパ放射光施設へ行った。
2. オーストラリア Riversleigh 地層からのカイミジンコ、触角が保存されている化石カイミジンコの分析。
3. 日本の地下水に生息するカイミジンコについて、サンプリングを行い、分類作業を進めている。論文を準備中である。
4. 共同研究のプロジェクト「山と湖をつなぐ地下水環境域」のために、サンプリングをした。
5. 韓国の淡水カイミジンコの分類とサンプリングをした。
6. 総合研究プロジェクトと共同研究プロジェクトの結果について、ギャラリー展示「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見」を企画・作成した。

印刷物

【学術論文】

Escriva, A., Smith, R. J., Aguilar-Alberola, J. A., Kamiya, T., Karanovic, I., Rueda J., Schornikov, E. I. and Mesquita-Joanes, F. (2012) Global distribution of *Fabaeformiscandona subacuta*: an exotic invasive Ostracoda on the Iberian Peninsula?. *Journal of Crustacean Biology*, 32: 949-961.

【専門分野の著作】

Smith, Robin J. (2012) Ostracods of Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 99-102.

Smith, Robin J. (2012) Appendix 2. 19 A list of Ostracoda (Crustacea) in Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 627-631.

【一般向けの著作】

ロビン J. スミス (2012) 滋賀の動物相は新発見が進行中. *近江から*, 2, たねや近江文庫: 62-63.

梶永一宏・ロビン J. スミス (2013) かわいいモンスター ミクロの世界の新発見. *琵琶博だより*, 11, 琵琶湖博物館: 1-2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

スミス ロビン (2012年6月15日) オーストラリアのクイーンズランド州リバーズレー世界遺産の中新世時代洞窟の石から見つかった、殻の内部を保存したカイミジンコについて. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

Smith, Robin J. (2012年6月25日) Establishment & Outline of the Lake Biwa Museum. Asia Pacific Water Museum

Workshop, タイ国立科学博物館.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「東アジアのカイミジンコデータベースの拡大」, (2012年度).

琵琶湖博物館共同研究「山と湖をつなぐ地下水環境域」(研究代表者:マーク ジョセフ グライガー), 分類学 (2011~2012年度).

科学研究費補助金(基盤C)「巨大精子の形態と化石記録を用いた琵琶湖地域のキブリス上科カミジンコ類進化の解明」(研究代表者:ロビン ジェームス スミス), 分類学 (2010~2012年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Journal of Crustacean Biology, 査読, 1件.

Proceedings of the Biological Society of Washington, 査読, 1件.

Hydrobiologia, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

外国人来館者に対して行った、琵琶湖博物館についてのアンケートの結果を分析した.

他の博物館・機関等主催行事

2012年5月30日, 高校生, 琵琶湖博物館, 講義.

2012年6月22日, 高校生, 琵琶湖博物館, 講義.

2012年10月18日, 大学生, 琵琶湖博物館, 講義.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

英語版ホームページの更新, 多数.

外国人の対応のため、烏丸半島についてのチラシを作成.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

2012年12月22日~2013年3月10日, ギャラリー展示「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見」, 主担当.

2012年7月14日~11月25日, 第20回企画展示「ニゴローの大冒険~フナから見た田んぼの生き物のにぎわい~」, 図を作成.

世界の湖の展示コーナー, 清掃・管理.

【企画調整活動】

地域発見!参加型移動博物館事業, 2012年8月25日, イオンモール草津.

【研究部関連事業】

2012年3月9日~2012年4月17日, 琵琶湖博物館での Andreu Escriva の滞在の手配と世話.

2013年2月9日, 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, 会場内での写真の手配.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012年度，琵琶博だより，編集委員.

【海外渡航】

2012年6月23日～27日，タイ国立科学博物館，Asia Pacific Water Museum Workshop.

2012年7月19日～31日，フランス・ドイツ，科研費共同研究.

専門研究は昨年度に引き続き、琵琶湖固有種である条虫 *Proteocephalus plecoglossi* と線虫 *Raphidascaris gigi* がアユ体内の生物標識として利用可能かどうかを調べることを目的とした。本年度についても、琵琶湖の3漁協においてエリで漁獲されたアユを収集し、2種の寄生虫のアユへの寄生数を調べている。また、今年からはスレ症を目的とした塩水浴の治療メカニズムの解明についての試験を行っており、漁獲されたアユを種々の濃度の塩水で飼育し、生残率を比較することにより効果的な塩水浴濃度を調べている。今後は数種の魚類で同様の実験を行うとともに、魚体内の浸透圧や各イオン濃度についても調べていく予定である。

印刷物については、これまでに行ってきたアユの冷水病に関する研究について、近畿大学と共同で研究した内容の論文が掲載された。また、前の所属で行っていたピワマス引縄釣りの研究についての論文を執筆している。

博物館の事業では、資料活用担当として、資料整理・データ入力に関すること、資料の貸出等活用に関することを担当した。博物館資料を整理し、保存・活用できる状態にするために、今年度も業務委託により資料整理を進めた。資料の貸出担当として、多くの申請に対応した。貸出申請があった資料は、映像資料が最も多く、使用目的は報道、書籍掲載、発表などであった。本年度は交流・サービス事業として魚や漁業についての講義をする機会が多く、一般の来館者に対してわかりやすい説明をすることを心掛けた。本年度は企画展示・ギャラリー展示にも分担担当者として携わり、企画展示ではニゴロブナの漁業や増殖事業についての展示を作成した。

印刷物

【学術論文】

Fujiwara-Nagata, E., Ikeda, J., Sugahara, K. and Eguchi, M. (2012) A novel genotyping technique for distinguishing between *Flavobacterium psychrophilum* isolates virulent and avirulent to ayu, *Plecoglossus altivelis altivelis* (Temminck & Schlegel). *Journal of Fish Diseases*, 35: 471-480.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

菅原和宏 (2012年6月28日) 冷水病に強いアユを作る。第78回近畿ブロック水族館飼育係研修会, 日本動物園水族館協会, 姫路市立水族館 (兵庫県姫路市), [口頭発表].

菅原和宏 (2012年11月16日) 届出制によるピワマス引縄釣りの現状把握。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

Yamamoto, M., Sugahara, K., Ninomiya, K., Endo, M., Ishimaru, K. and Kato, K. (2012年11月23日) Prevalence of *Flavobacterium psychrophilum* in ayu *Plecoglossus astivelis* at Lake Biwa. 近畿大学グローバルCOEプログラム「串本国際シンポジウム～マグロ養殖の革新と国際化～」, 近畿大学, 串本ロイヤルホテル (和歌山県串本市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「アユの寄生虫2種の季節動態と生物標識としての可能性」, (2012年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件。

2012年5月13日，魚の寄生虫を調べよう！，博物館講座，琵琶湖博物館，講師。

2012年7月7日，保存食を科学する「湖魚の佃煮」，博物館講座，琵琶湖博物館，副担当。

2012年7月28日，漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう，見学会，湖北町尾上，主担当，（協力：朝日漁協）。

2012年8月2日，自然調査ゼミナール，滋賀県中学校理科部会，琵琶湖博物館，講師。

2012年8月4日，保存食を科学する「ふなずし」，博物館講座，琵琶湖博物館，主担当。

2012年8月8日，生き物飼い方講座，指導者のための博物館活用講座，琵琶湖博物館，講師。

2012年9月1日，保存食を科学する「かんぴょう」，博物館講座，琵琶湖博物館，副担当。

2012年9月15日，アユの産卵用人工河川を見てみませんか，見学会，高島市安曇川町，主担当，（協力：（公財）滋賀県水産振興協会、滋賀県水産課）。

2012年10月27日，ビワマスの採卵現場を見学してみませんか，見学会，マキノ町知内，副担当，（協力：百瀬漁協・滋賀県漁連高島事業場）。

2013年3月2日，湖魚の食文化，連携講座「琵琶湖 自然と文化」第4回クニマスとビワマス，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2012年5月24日，琵琶湖の漁業について，静岡県立修善寺中学校，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2012年5月26日，琵琶湖の幸について，NPO法人浜名湖クラブ，浜名湖ロイヤルホテル（静岡県浜松市），講師。

2012年6月24日，博物館の紹介，人と情報を結ぶWEプロデューサー/LMゼミプロジェクト，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2012年7月26日・31日，琵琶湖の魚の話と外来魚の解剖・調理，石山高校ミュージアムスクール，琵琶湖博物館（草津市），講師，2件。

2012年8月9日，セタシジミを使ったストラップ作り，滋賀県環境教育研究協議会，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2012年8月23・24日，夏休み親子水草と魚学習会，滋賀県水産課，琵琶湖博物館（草津市），講師，2件。

2012年9月19日，食料資源としての琵琶湖，滋賀県立大学生活栄養学科，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2012年10月17日，琵琶湖の魚の話と外来魚解剖，大津清陵高校，大津清陵高校（大津市），講師。

2012年11月13日，琵琶湖の現状・外来魚について，守山高校，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2012年11月16日，琵琶湖の魚や外来魚について，虎姫高校，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2012年11月17日・12月15日，今と昔の漁法の違い，立命館守山中学校ミュージアムスクール，琵琶湖博物館（草津市），講師，2件。

2012年12月20日，琵琶湖の魚と水族飼育管理，大阪コミュニケーションアート専門学校，琵琶湖博物館（草津市），講師。

視察対応

2012年7月10日，滋賀県の環境改善の取り組み，西三河漁協，琵琶湖博物館。

2012年11月21日，収蔵庫・展示室案内，滋賀県海外技術研修員，琵琶湖博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリーの質問対応，魚類等に関する質問への回答，5件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

映像資料貸出対応， 56 件， 766 点（前野コレクション、大橋コレクション、災害写真、魚類、その他）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012 年 7 月 14 日～11 月 25 日，第 20 回企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」，
分担担当者。

2012 年 7 月 14 日～9 月 2 日，第 25 回水族企画展示「ぼくらは田んぼの合唱団－滋賀にすむカエルたち－」，分担担
当者。

2012 年 12 月 22 日～2013 年 3 月 10 日，ギャラリー展示「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見」，分担担当
者。

モーニングレクチャー，講義，4 回。

展示交流員と話そう，内容指導。

琵琶湖博物館は開館以来、十余年にわたり「田んぼ研究」を進めてきた。そのとりあえずのまとめとして、企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生きものにぎわい～」を開催し、その主担当を務めた。本展示は約4万7千人を集客し、「平成24年度農業農村整備事業広報大賞」の優秀賞を獲得した。

琵琶湖地域で田んぼの生きものを研究している人たちを集めて、「第3回 琵琶湖地域の水田生物研究会」を開催した。第1部のミニシンポジウム「ナゴヤダルマガエルこだわり研究」では、各地でナゴヤダルマガエルの研究・保全にかかわる人たちを招聘してご講演をいただき、パネルディスカッションを行った。第2部は例年と同様の多数のショートセッションを行った。ポスター発表も含めて24題の発表、115名の参加があり、過去2年には及ばないものの盛会となった。

日本珪藻学会の編集委員長として、会誌 *Diatom* の28巻を編集・発行した。投稿論文が少なく、4論文、計62ページと例年の半分程度の分量となった。また、*Diatom* のバックナンバーをウェブ上で公開するための手続きを、日本珪藻学会の真山茂樹会長らとともに進め、1巻～26巻までに掲載された全ての論文を、J-Stage あるいは日本珪藻学会ウェブページで見られるようになった。

滋賀県南部のミズゴケ湿地研究を本格的に始動した。確保した予算が申請額の半分以下にとどまったこと、今年度上半期には研究代表者である私が企画展示で忙殺されていたことのために、研究の進展は遅れ気味である。しかし共同研究者、地元「甲賀水源の自然を守る会」、はしかけグループ「たんさいぼうの会」などの活躍によって、この地域のミズゴケ湿地の実体が徐々に明らかになりつつある。

本年度に出版された学術論文は、全て2年以上前の研究成果に基づくものである。本年度の下半期には珪藻の分類学・生態学に関する新たないくつかの研究成果が得られているので、なるべく早く論文にしていきたい。

印刷物

【学術論文】

Park, J., Koh C-H., Khim J. S., Ohtsuka, T. and Witkowski, A. (2012) Description of a new naviculoid diatom genus *Moreneis* gen. nov. (Bacillariophyceae) from sand flats in Korea. *Journal of Phycology*, 48, Phycological Society of America: 186-195.

日鷹一雅・大塚泰介 (2012) 「今こそ水田生物群集を捉えなおすーマイクロからマクロまでー」企画趣旨. *日本生態学会誌*, 62, 日本生態学会: 155-156.

大塚泰介・山崎正嗣・西村洋子 (2012) 水田に魚を放すと、生物間の関係が見えてくるー多面的機能を解き明かすための基礎としてー. *日本生態学会誌*, 62, 日本生態学会: 167-177.

【専門分野の著作】

Ohtsuka, T. (2012) Topic 3. Endemic diatoms of Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 135-136.

Ohtsuka, T. (2012) Practices for conserving paddy field biodiversity in the basin of Lake Biwa, a Ramsar wetland. In: Rice Paddy Working Group, Ramsar Network Japan (ed), *Report for Ramsar COP11 on good practices for enhancing biodiversity in rice paddy ecosystem in Japan, Korea and other Asian countries*, Ministry of the Environment (Japan), Tokyo (CD book).

Ono, S. and Ohtsuka, T. (2012) Winter flooding provides a habitat for threatened fish and amphibians in a hilly area paddy field. In: Rice Paddy Working Group, Ramsar Network Japan (ed), *Report for Ramsar COP11 on good practices for enhancing biodiversity in rice paddy ecosystem in Japan, Korea and other*

Asian countries, Ministry of the Environment (Japan), Tokyo (CD book).

Kanao, S. and Ohtsuka, T. (2012) Predation by crucian carp larva/fry visualizes biological interactions of paddy field community. *In: Rice Paddy Working Group, Ramsar Network Japan (ed), Report for Ramsar COP11 on good practices for enhancing biodiversity in rice paddy ecosystem in Japan, Korea and other Asian countries*, Ministry of the Environment (Japan), Tokyo (CD book).

Ohtsuka, T. and Suzuki, T. (2012) Pioneer studies on some microscopic organisms: an unknown aspect of species diversity in paddy fields. *In: Rice Paddy Working Group, Ramsar Network Japan (ed), Report for Ramsar COP11 on good practices for enhancing biodiversity in rice paddy ecosystem in Japan, Korea and other Asian countries*, Ministry of the Environment (Japan), Tokyo (CD book).

Maeda, M., Kusuoka, Y., Grygier, M. J., Ohtsuka, T. and the Lake Biwa Museum Hashikake Rice Field Organisms Research Group (2012) An important factor limiting the distribution of large branchiopods in Shiga Prefecture, Japan: moisture content of rice paddy soil in winter. *In: Rice Paddy Working Group, Ramsar Network Japan (ed), Report for Ramsar COP11 on good practices for enhancing biodiversity in rice paddy ecosystem in Japan, Korea and other Asian countries*, Ministry of the Environment (Japan), Tokyo (CD book).

【一般向けの著作】

大塚泰介 編著 (2012) ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～. 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津: 78 p.

大塚泰介 (2012) 琵琶湖地域の田んぼ研究と「水田生物研究会」. *琵琶博だより*, 9, 琵琶湖博物館: 1-2.

大塚泰介 (2012) 田んぼのミジンコのはなし. *近江から*, 2, たねや近江文庫: 60-61.

大塚泰介 (2012) 田んぼのタマミジンコの話. *おりづる*, 80, おりづる会: 11.

大塚泰介 (2013) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～17 水田の珪藻 栄養に働き. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2013年1月22日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

大塚泰介 (2012年5月12日) 日本珪藻学会第33回大会. 日本珪藻学会, 産業技術総合研究所 (茨城県つくば市), [座長].

芝崎美世子・大塚泰介・三田村宗樹 (2012年5月13日) 河川微地形における付着珪藻の空間分布と環境評価法. 日本珪藻学会第33回大会, 日本珪藻学会, 産業技術総合研究所 (茨城県つくば市), [口頭発表].

大塚泰介・中村優介・岩渕成紀・向井康夫 (2012年5月13日) 東日本大震災の津波と地盤沈下で海水化した水田に出現した珪藻. 日本珪藻学会第33回大会, 日本珪藻学会, 産業技術総合研究所 (茨城県つくば市), [口頭発表].

芝崎美世子・大塚泰介・三田村宗樹 (2012年9月9日) 珪藻と水生昆虫を用いた河川環境のマイクロヒタット評価. ELR 2012 東京, 応用生態工学会・日本景観生態学会・日本緑化工学会, 東京農業大学世田谷キャンパス (東京都世田谷区), [ポスター発表].

大塚泰介 (2012年12月21日) 珪藻は安全でおいしいお米ができる水田環境を指標するか?. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

大塚泰介・金尾滋史 (2012年12月23日) 第3回琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [企画運営].

大塚泰介 (2012年12月23日) 第一部 ナゴヤダルマガエルこだわり研究. 第3回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [座長].

富 小由紀・中西康介・田和康太・大塚泰介 (2012年12月23日) 湛水時期の違う3枚の田んぼにおける微小藻類相. 第3回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

大塚泰介・鈴木健太郎・辻 美穂・上瀧七美（2012年12月23日）田んぼの動物の体長は直線的に増加する：その含意。第3回琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。
水野敏明・大塚泰介・金尾滋史・小川雅広・舟尾俊範・前畑政善（2012年12月23日）ニゴロとナマズの好みの水路に違いはあるの？。第3回琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水田で珪藻の分布を規定する環境要因の検討」，（2012年度）
琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖の置き土産～滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究～」(研究代表者：大塚泰介)，研究代表者（2012～2016年度）。
琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者：高橋啓一)，共同研究者（2011～2015年度）。
琵琶湖統合研究「大気中から降下する汚染物質が琵琶湖と集水域に与える影響の評価」(研究代表者：永淵 修)，研究分担者（2011～2014年度）。
科学研究費補助金（基盤 A）「水田の生物がもたらす生態系サービスの賢い利用を導く技術と社会の総合研究」(研究代表者：夏原由博)，研究分担者（2012～2014年度）。
総合地球環境学研究所インキュベーション研究「生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会－生態システムの健全性」(研究代表者：奥田 昇)，研究協力者（2012年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会，Diatom，編集委員長，2009年1月～。
日本珪藻学会，運営委員，2011年1月～。
日本生態学会，近畿地区会委員，2012年4月～。
日本珪藻学会，Diatom，担当編集委員，2件。
日本生態学会，Ecological Research，査読，1件。
日本珪藻学会，Diatom，査読，2件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年8月29日，東北学院大学，「博物館実習」(琵琶湖博物館の交流活動)，特別講師。
2012年9月19日，京都府立大学，「環境微生物学」，非常勤講師。
2012年4月～2013年3月，芝崎美世子（大阪市立大学理学研究科博士課程），研究指導・助言。
2012年4月～2013年3月，石角江里佳（京都造形芸術大学芸術学部），研究指導・助言。

【受賞など】

平成24年度農業農村整備事業広報大賞，2012年2月21日，第20回企画展示「ニゴローの大冒険～フナからみた田んぼの生き物のにぎわい～」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件。

はしかけ運営，たんさいぼうの会，担当。

2012年5月26日，プランクトンの模型をつくってみよう，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，アドバイザー（藤橋和弘、蜂屋正雄・はしかけ「びわたん」と共同）。

2012年7月22日，環境と科学のフェスティバル「顕微鏡コーナー」運営，ビバシティ彦根（滋賀県彦根市），運営協

力（林 竜馬・はしかけ「たんさいぼうの会」と共同）。

2012年9月2日，珪藻観察会，琵琶湖博物館，運営協力，（はしかけ「たんさいぼうの会」と共同）。

2012年11月3日，企画展示関連シンポジウム「田んぼに魚がやってきた！」，琵琶湖博物館，企画・運営，金尾滋史と共同）。

2012年11月3日，魚が繁殖した田んぼで何が起こるのか？，企画展示関連シンポジウム「田んぼに魚がやってきた！」，琵琶湖博物館，講演。

2012年11月3日，企画展示関連シンポジウム「田んぼに魚がやってきた！」，琵琶湖博物館，パネリスト。

2013年1月13日，はじめてのたんさいぼう，博物館講座，琵琶湖博物館，講師，（はしかけ「たんさいぼうの会」と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2012年6月30日，プランクトン実習，立命館守山中学校，実習，琵琶湖博物館，講師，（楠岡 泰と共同）。

2012年7月21日，カエル観察会，草津市環境課，観察会，浮舟地区の田んぼ（滋賀県草津市），講師，（沢邊久美子、上瀧七美氏と共同）。

2012年7月30日，企画展示の紹介，石部高校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講師。

2012年8月12日，琵琶湖のフナのはなし，天津プリンスホテル，琵琶湖のお話とヨシ笛作り体験，天津プリンスホテル（滋賀県大津市），講師，（藤橋和弘と共同）。

2012年9月18日，田んぼの生き物について，NPO法人シニア自然大学校，講義，琵琶湖博物館，講師，（中井克樹と共同）。

2012年9月22日，カエル調査の講評，草津市環境課，カエル調査座談会，草津市役所（滋賀県草津市），講師。

2012年11月17日・12月15日，「琵琶湖探究」への助言指導，立命館守山中学校，質問への応答，琵琶湖博物館，助言指導，2件。

2012年11月17日，プランクトン観察と琵琶湖のフナの話，NPO法人自然と緑，自然大学琵琶湖，実習，琵琶湖博物館，講師。

2012年12月9日・2013年3月16日，NICCOふゆみずたんぼ生き物観察会，公益社団法人日本国際民間協力会（NICCO），観察会，山之上のふゆみずたんぼ（滋賀県竜王町），調査指導と解説，2件。

2013年1月16日，フナでたどる琵琶湖の歴史，NPO法人大阪府高齢者大学校自然文化を楽しむ科，講義，琵琶湖博物館，講師。

2013年3月2日，はじめてのたんさいぼう（巡検用），日本陸水学会近畿支部会，実習，琵琶湖博物館，講師。

2013年3月17日，研究へのアドバイス，甲賀市立甲南中学校，質疑と討論，琵琶湖博物館，アドバイザー。

メディアへの協力

2012年5月18日，大阪朝日放送，探偵！ナイトスクープ「庭で増殖する謎の物体を食べたい！」，出演。

2012年7月19日，読売新聞，田んぼに生き物いっぱい ニゴロブナ目線の物語，取材対応。

2012年8月14日，日本農業新聞，田んぼとフナの関係を知ろう，取材対応。

2012年8月27日，京都新聞，剥製や4コマ漫画で湖国の生き物学ぼう，取材対応。

2012年9月6日，中日新聞，「田んぼの生き物展」フナの一生追体験，取材対応。

2012年10月19日，e-radio，radio max「琵琶湖博物館から公開生放送」，出演（金尾滋史と共同）。

2012年12月24日，京都新聞，絶滅危惧のカエル生息や保全報告 草津で水田生物研究会，取材対応。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物試料の収集、整理，監督・指示。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

2012年7月14日～11月25日,第20回企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」,
主担当.

2012年8月12日～9月2日,あら、こんなところに珪藻が! (集う・使う・創る新空間展示), 監修.
ギャラリー展示・企画展示の進行管理, 主担当.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員 (朱偉、柏尾珠紀), 受け入れ担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2001年4月～, 島根大学汽水域研究センター, 協力研究員.

2011年4月～, 京大大学生態学研究センター, 協力研究員.

本年度は、研究以外の事業の面では、ここ数年担当してきた分掌を離れ、それに替わって、開館直後を除いて直接関与してこなかった資料に関する情報発信の業務に携わることになった。その具体的内容は、アクセス権管理や情報発信の戦略的見直し、あるいは備品管理情報との対応関係の再整理など、業務全体を支える基礎部分が不完全になっていたのを立て直すことが中心となった。ただ、本年度は情報システム基幹部分の更新年度に当たり、その更新業務の遂行や電子情報発信全体の調整業務に対するフォローも担当することになり、結果的にはそちらに多くのエフォートを費やすことになったこともあって、資料情報に関する業務に専念することはできなかった。

研究面では、博物館学の戦略的展開を目指す共同研究において、当面の目標を絞るための「手がかりの概念」を探り続けて前年度までに「リエゾン」にたどりつき、本年度はそれを軸とした活動の端緒として博物館教員を巡る問題についての検討を始めた。その一環として、博物館勤務を経験した学校現場の教員が果し得る役割に着目した特別研究セミナーを開催した。一方、共同研究の中での個人的な分担としては、博物館教員に関するアンケート調査を実施した。これは、博物館教員に関する基礎データであるにも関わらず今まできちんとした調査が為されてこなかった部分で、個人的にも2年前から構想しながら実現に至らなかったものである。今年度に至って共同研究の方向性が見えてきたことを機に、その方向性を固める意味も含めて、多くのエフォートを注ぎ込んで実施したものである。8月の学会発表で中間報告を行ったのち、年度内に分析を完了して論文投稿に至る計画であったが、分析検討に思いのほか手間を要したうえ、後述する別件を優先したこともあって、少々遅れを来しており、来年度6月の学会発表に間に合うように分析を完了させるのが目標となっている。

年度当初から計画していた研究テーマとは別に、琵琶湖環流の研究史に関する本格的なレビューに取り組んだ。これは、新琵琶湖学セミナーで「琵琶湖の流れ」に関する内容を担当することとなり、そのために不可欠であったからである。本年度第3四半期における研究活動の大部分をこれに費やすこととなることが当初から見込まれたため、この機会を利用して論文として投稿できる内容のレビューを完成させることに努めた。そして、セミナー担当日の翌日に投稿し、年度末現在では査読手続の途上である。

印刷物

【専門分野の著作】

戸田 孝 (2012) 公益法人制度改革の「大手私立」以外の博物館への活用. *博物館学雑誌*, 37 (2), 全日本博物館学会: 105-111.

【一般向けの著作】

戸田 孝 (2012) 湖岸より 152 水位基準の決め方. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年7月28日.

戸田 孝 (2013) 湖岸より 173 風や太陽が環流の成因. *中日新聞*, 中日新聞社: 2013年1月12日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

戸田 孝 (2012年8月17日) 連携事業の成果を「博物館学」にするための模索. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

戸田 孝 (2012年8月29日) 博物館教員の実態調査(1)ースクリーニングと分類. 日本科学教育学会第36回年会, 日本科学教育学会, 東京理科大学 (東京都新宿区), [口頭発表].

戸田 孝 (2013年3月3日) 学校現場へ戻った博物館教員 ―博物館での経験は活かされたのか?―. 第63回琵琶湖博物館特別研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [司会進行].

戸田 孝 (2013年3月8日) 地域別博物館連携組織の活動 ～滋賀県博物館協議会を中心に～. みえの博物館ネットワーク事業 博物館間のネットワークについての研究会, 三重県新博物館推進プロジェクトチーム・三重県立博物館・三重県博物館協会, 三重県立博物館 (三重県津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「地球物理学を手がかりとする博物館学の展開」, (2012年度).

琵琶湖博物館共同研究『人をつなぐ人材』を軸とした戦略的博物館学への展開 (研究代表者: 戸田 孝), 研究代表者 (2012年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本科学教育学会, 編集委員, 2010～2013年度.

陸水物理研究会, 運営委員.

日本科学教育学会, 科学教育研究, 査読結果判定, 3件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

2012年8月7日, 回転実験室で水槽実験を!, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 運営.

2013年2月2日, 琵琶湖の大きな流れーその研究史ー, 新琵琶湖学セミナー 第2回 琵琶湖の流れと生き物, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2012年7月30日, 琵琶湖の水の流れ, 岐阜県立恵那高等学校, サマーサイエンスセミナー, 琵琶湖博物館, 講義.

メディアへの協力

2012年11月22日, NHK 天津放送局, 小さな旅, 漁師が漁具を流されたという話題に関連する湖流の作用についての情報提供, (2012年11月9日取材対応).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

インターネットを介した情報発信, 副担当.

情報システム整備および運営 (基幹部分の更新を含む), 副担当.

質問メールの受付・振り分け・回答進捗状況管理, 技術的補助.

全館員向けメールメッセージの館内公開.

個人管理ページの運営.

他博物館・機関の活動

滋賀県博物館協議会, 協議会ページの運営 (各加盟館紹介ページの更新など).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料データベースの管理運営, 総合調整およびセキュリティ管理.

資料データベースと備品管理情報との整合性確保，総合調整。
電子図鑑の管理運営，総合調整（将来計画策定など）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012 年度，気象に関する展示の維持管理，主担当。

2012 年度，水理に関する展示の維持管理，主担当。

【企画調整活動】

地域発見！参加型移動博物館事業，展示物管理および解説対応，2012 年 8 月 4 日，イオンモール高槻。

JICA 博物館学集中コース，Information Use and Equipment for Information Use-Learning from History-，講義，
2012 年 10 月 12 日，琵琶湖博物館。

地域発見！参加型移動博物館事業，展示物管理および解説対応，2012 年 10 月 27 日，フォレオ大津一里山。

【研究部関連事業】

研究備品管理情報の再整理，総合調整。

2012年度より、事業関係では1年間在籍した企画調整課より古巣の展示担当グループに戻り、研究部では生態学研究領域より博物館学研究領域に戻るなど、所属や仕事の内容が色々かわることとなった。病気療養によって長期にわたって戦力となることができなかつた状態から、徐々に回復して仕事の量がこなせるようになってきた。

研究について振り返ると、まず生物学に関しては、フィールドレポーターの2010年のイチョウウキゴケの調査を発端として、滋賀県における有性生殖の可能性とそのシステムをさぐる共同研究をフィールドレポーターの前田雅子さんと本格的に開始した。また、長期にわたってデータをそのままにしていたイバラモについての研究を再開すべく、そしてこの研究を発展させて学位取得することを目標に大学院博士課程への進学を決定した。博物館学に関しては、この年度より科研費の基盤研究S「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」(代表者: 国立科学博物館・小川義和)の研究分担者となった。また、かねてより取り組んでいた「博物館における癒し」の研究について、研究として成立させていく方向性を考えた。

事業に関しては、2011年度に企画調整課に館内異動になったが、2012年度から再び展示担当グループに異動となった。展示では、再度ディスカバリー・ルームの担当となり、また2013年度冒頭から開催予定であったギャラリー展「近江の博物学者 橋本忠太郎―植物研究にかけた情熱―」の副担当者として、橋本忠太郎氏が採集したタイプ標本の写真の撮影や、展示資料の収集を行なった。継続する業務としては、JICAの博物館学集中コースに関しては、企画調整課に所属した時以来、引き続き館内の副担当者として、国立民族学博物館との委員会の委員も務めることになった。

印刷物

【専門分野の著作】

Kaneko, Y. and Ashiya, M. (2012) Shiga Prefectural Government Measures for the Conservation and Restoration of Common Reed Marshes: Ordinance on the Conservation of Reed Beds around Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 449-453.

【一般向けの著作】

芦谷美奈子 (2012) ヨシものがたり 1 3つの機能を持つ水辺のパイオニア. *湖国と文化*, 3(36), 滋賀県文化振興事業団: 10-15.

芦谷美奈子 (2012) 湖岸より 160 植物に罪はないが…。 *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年6月13日.

芦谷美奈子 (2013) 湖岸より 179 滋賀の植物を見つめ続ける. *中日新聞*, 中日新聞社: 2013年3月30日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芦谷美奈子 (2012年7月20日) 博物館では「癒し」をどのように扱うか. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤 S) 「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」

(研究代表者：小川義和)，研究分担者 (2012～2016 年度)。

琵琶湖博物館共同研究『人をつなぐ人材』を軸とした戦略的博物館学への展開 (研究代表者：戸田 孝)，副代表者 (2012～2015 年度)。

琵琶湖博物館共同研究「レイク・モンスターなど湖や川の未確認生物の歴史と多様性、その生物学および民俗学的検証に関する研究」(研究代表者：芦谷美奈子)，研究代表者 (2011～2013 年度)。

琵琶湖博物館専門研究「ヨシを含む水草の利用の形態、およびそれらを利用する人による生物学的認識の考察」，(2012 年度)。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

ザ！ディスカバはしかけ運営，イベント2回 (ディスカバリールーム・あさひるぼん)，総会1回。
はしかけ植物観察の会運営，観察会3回。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

平成25年度ギャラリー展「近江の博物学者 橋本忠太郎 植物研究にかけた情熱」準備，副担当者。

【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース，副担当者，2012年10月11日～17日 (全体研修)，琵琶湖博物館。

JICA 博物館学集中コース，副担当者，2012年12月2日～7日 (個別研修)，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，守山湖岸再生部会，委員。

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，木浜内湖再生部会，委員。

2002年8月～，守山なごさ地区保全地域協議会，委員。

2011年4月～，JICA 博物館学集中コース運営委員会，専門委員。

2012年度の研究テーマは、4年間行ってきた『昔の暮らし』をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義から「地域を応援する学芸員の役割と新しい博物館像」に刷新した。本館は2011年度より中長期基本計画の第三段階「地域応援機能の強化」に入った。まさにこの「地域応援機能」について、「昔の暮らし」をめぐる今までの実践を基礎にして、博物館機能の枠組みから整理することが目標である。博物館に収蔵する民俗資料を整備し、その利用価値と存在意義を興味ある人々とともに再発見する中で近江はたおり探検隊・近江昔くらし倶楽部というはしかけグループが立ち上がり、人々の意欲に沿って活動を展開し、ご縁のあった専門家や興味をもつ人々と博物館資源を新たに活用する方法を開拓していく。こういった流れの中で、一番大事なのは、博物館のもつ資源を常に熟知し、人々・社会のニーズにもアンテナを向け、そのニーズをタイムリーに満たすコーディネートを行うこと。これこそが学芸員の果たすべき役割だと思ふ。博物館の都合でなく、人々の意欲・ニーズに沿って活動提案することで、活動は勝手に進み広がっていく。人々は博物館をまさに自分の居場所・活動場所として活用するのだ。このように人々の興味と意欲を引き出し、自由に自分の力を発揮することができる場こそ、今の社会に求められている。こうした場があれば、人々は癒され、自分の秘められた力に気づき、それを発揮して元気になれることだろう。

こんなことを考えている中、年度が変わり、開館20周年に向けての博物館リニューアルを行うために新設された「新琵琶湖博物館創造準備室」へ異動し、企画調整課と兼務することとなった。準備室では来館者・非来館者調査の担当となったが、今までの学芸員生活での蓄積では不十分なことしかできず、年度末のピアレビューで伺った静岡県立美術館の評価に取り組みされた北海道大学の佐々木亨さん、法政大学の金山善昭さんのご意見を活かすことができなかつたことが大変残念だった。初めて担当した博物館実習は、優秀な意欲ある若者たちと博物館の可能性を発掘することができ、貴重な体験だった。業績目録や年報といった博物館の定期刊行物の刊行や定例の年三回の来館者アンケート調査も、関係者の多大なご協力を得て無事実施できた。

この一年も、新たなご縁を頂く中で、研究実践を進めることができた。近代遺産である機織り工場で実際に糸から機織りする様子を見ることができ、はたや記念館ゆめおれ勝山では、松村英之学芸員と話が弾み、協働事業を多数行った。平成24年度の春の企画展「発見！わが家のはた織りさん」で近江の復元地機を展示頂いた上、近江昔くらし倶楽部の方々と機織り実演、さらにはたや研究会「白山周辺の地機とその地域性」では、機の歴史、福井と滋賀の機について、東村純子さん、坂本育男さん、辻川智代さんに発表頂き、コーディネーターをつとめ、会場の方々とともに知見を深める機会を得た。さらに8月には、国立民族学博物館の吉本忍先生のご講演「白山麓の織機と東アジアの機織り文化」にあわせたトークショーにゲストとして登壇、さらに年度末の3月には、まちづくり講演会で滋賀のファブリカ村の北川陽子さんのご講演「織物の歴史で元気なまちに！」の後、勝山市長山岸正裕さん、勝山出身の玉木新雌さんを加えてのフォーラムでコーディネーターをつとめさせていただいた。同じく3月、田舎のヒロインわくわくネットワークの全国集会で「次世代につなげる農業」と題したフォーラムでもコーディネーターの役を与えられ、志をもって就農された若者、同年代、人生の先輩の体験談から会場の方々とともに学びあう機会を得た。

この年の活動で、特筆すべきは二つある。一つは、本館で2004年に開催した民俗資料展「糸を紡いで布を織る」以来、ご縁のある国立民族学博物館の吉本忍先生が、四十年の研究成果を特別展「世界の織機と織物」で披露されたこと。諸説論争のあった「織物」の定義をシンプルに整理され、世界の織機を全て織れる状態で展示した、人類史の中核技術である「織り」の技術を集めた人類史上最初で最後の展示だろう。最後に「手仕事への回帰」を主張されたことが心に刻まれる。二つ目は、「ローカリゼーションという希望」と題して、インド・ラダック地方の研究者、ヘレナ・ノーバーク・ホッジさんと滋賀県知事、嘉田由紀子さんとの対談イベントを開催したこと。一日目は本館も会場となり、私は博物館担当者として運営に関わった。ここで県内外の多数の同志とご縁ができた。

その他、京都新聞の大田敦子記者が、「裂地を訪ねて」と題した毎月1回の連載記事を執筆されるとのことで協力を求められた。大津市葛川での古民家暮らしは丸2年となり、原子力発電所事故を受けた夏の計画停電に関連し

て、昔のくらしから省エネの工夫を紹介しようと、関西テレビやNHK 天津放送局の取材を受けた。こうした暮らし体験は、社会的にも大きな意味をもつことだろう。研究実践と合わせながらうまく発信していきたい。

印刷物

【専門分野の著作】

中藤容子 (2013) なぜ、ゆめおーれで「地機」なのか？. はたやブックレット 2 「発見！わが家の「はた織り」さんー白山周辺の「地機」とその地域性ー」, はたや記念館ゆめおーれ勝山: 4-10.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中藤容子 (2012年6月17日) 第1回はたや研究会「白山周辺の地機とその地域性」, はたや記念館ゆめおーれ勝山 (福井県勝山市), [コーディネーター].

中藤容子 (2012年6月17日) なぜ、ゆめおーれ勝山で「地機」なのか？. 第1回はたや研究会「白山周辺の地機とその地域性」, はたや記念館ゆめおーれ勝山, ゆめおーれ勝山 (福井県勝山市), [口頭発表].

中藤容子 (2012年8月17日) 「昔のくらし」をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「地域を応援する学芸員の役割と新しい博物館像」, (2012年度～).

琵琶湖博物館共同研究『「人をつなぐ人材」を軸とした戦略的博物館学への展開」(研究代表者: 戸田 孝), 研究分担者 (2012年度～).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年4月27日・5月11日, 龍谷大学国際文化学部, 「民俗学入門」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

はしかけ「近江昔くらし倶楽部」, 主担当, 随時.

はしかけ「近江はたおり探検隊」, 主担当, 随時.

2012年5月27日・7月14日・9月8日・10月28日・2013年1月20日・3月16日, おうみ昔くらし探検塾 (全6回), 琵琶湖博物館など (はしかけ「びわたん」, 「里山の会」と共同).

2012年9月8日, 綿にふれてみよう!, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館 (生活実験工房), (はしかけ「びわたん」と共同).

2012年10月20日, 富江家のくらし案内ツアー, あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!, 琵琶湖博物館, 担当, 3件.

2012年12月2日, 60年前にタイムスリッパー今のくらし比べてみようー, 淡海こどもエコクラブ活動交流会, 琵琶湖博物館環境学習センター, 琵琶湖博物館, 講師.

2013年2月9日, ワラにふれてみよう!, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館 (生活実験工房), (生活実験工房担当と共同).

他の博物館・機関等主催行事

- 2012年5月19日、育てた綿でコースターづくり，わんぱくプラザ草二つ子実行委員会，大路市民センター（草津市），実習（はしかけ「近江昔くらし倶楽部」と共同）。
- 2012年6月16・17日，復元地機をつかった白布を織る実演，春の企画展「発見！わが家のはた織りさん」関連行事，はたや記念館ゆめおーれ勝山（福井県勝山市），実習（近江昔くらし倶楽部と共同）。
- 2012年7月7日，民具の歴史とその調査方法―昔のくらしの道具から学ぶこと―，立命館守山中学校，琵琶湖博物館，講義。
- 2012年7月12日，伝統野菜・伝統食文化が残る湖北の魅力の活かし方，平成24年度地産地消活動研修会，湖北地域農村女性活動グループ，米原市朝妻筑摩，講義。
- 2012年8月19日，ゆめおーれ DAY 関連行事・講演「白山麓の織機と東アジアの機織り文化」とトークショー，はたや記念館ゆめおーれ勝山，ゆめおーれ勝山（福井県勝山市），トークショーゲスト。
- 2012年9月25日，昔のくらし体験，大津市立葛川保育園，琵琶湖博物館（生活実験工房），実習。
- 2012年11月2日，富江家のくらしについて，池田市立細河小学校3年，琵琶湖博物館，講義。
- 2012年11月6日，環境学習「山・里・湖、それぞれだけど、ひとつ。自然と共にあるくらしを感じ、つながってみよう！」，大津市立志賀中学校1年，大津市南比良，実習（比良里山クラブと共同）。
- 2012年11月17日・12月15日，琵琶湖学習発表会準備，立命館守山中学校，琵琶湖博物館，指導。
- 2012年11月17日，富江家のくらしとローカリゼーション，第8回河川を愛する市民会議，ウォーターステーション琵琶（大津市），話題提供。
- 2012年11月23日・24日，ローカリゼーションという希望 特別講演会 in 滋賀，NPO 懐かしい未来・幸せの国際会議滋賀実行委員会，琵琶湖博物館・栗東文化芸術会館さくら（栗東市），担当。
- 2012年11月23日，富江家に学ぶ懐かしい未来，ローカリゼーションという希望 特別講演会 in 滋賀，NPO 懐かしい未来・幸せの経済学国際会議滋賀実行委員会，琵琶湖博物館，講演。
- 2013年1月29日，地域のお宝を収集・保管・活用する，宮地区自治振興会，甲賀市役所甲南第三地域市民センター，琵琶湖博物館，講師。
- 2013年2月1日，昔の道具の声を聞いてみよう，草津市立山田小学校3年，草津市立山田小学校，講師。
- 2013年2月3日，綿をめぐって，近畿大学附属和歌山中学校科学部，琵琶湖博物館，講師。
- 2013年3月3日，フォーラムⅡ「次世代につなげる農業」，全国集会2013 私たちの未来は私たちの手で，田舎のヒロインわくわくネットワーク，早稲田大学小野記念講堂（東京都），コーディネーター。
- 2013年3月10日，まちづくり講演会・はたやフォーラム「織物の歴史で元気なまちに！―『地域力』と『つながり』から―」，はたや記念館ゆめおーれ勝山，ゆめおーれ勝山（福井県勝山市），コーディネーター。

視察対応

- 2012年10月18日，丸子船について，青森県立郷土館，琵琶湖博物館。
- 2013年1月14日，琵琶湖と人々のくらし，延世大学校社会科学大学（韓国），琵琶湖博物館。
- 2013年2月16日，地機と近江はたおり探検隊について，はたや記念館ゆめおーれ勝山，琵琶湖博物館。
- 2013年3月28日，琵琶湖周辺でのエクスカッション，国際地理オリンピック準備委員，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

- 2012年5月17日，関西テレビ，スーパーニュースアンカー，節電になる…“古民家暮らし”生活の知恵で省エネを，（2012年5月14日取材対応）。
- 2012年7月11日，NHK 大津放送局，おうみ探検隊，省エネのヒントを古民家暮らしから学ぶ，（2012年7月4日取材対応）。
- 2012年11月24日，京都新聞，琵琶博で「ローカリゼーションという希望」講演会開催，（2012年11月23日取材）。
- 2012年12月26日，京都新聞，裂地を訪ねて 2，原始機 体を駆使して一人で布織り 腰を引く、緩める 綜統が緯糸の道開く，（2012年11月28日～取材対応）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

近江昔くらし倶楽部 ブログ (2009年6月～), 管理人.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗収蔵庫 (水域) 維持管理業務・民俗資料整備, 主担当.

民俗収蔵庫 (陸域) 維持管理業務・民俗資料整備, 副担当.

環境収蔵庫維持管理業務・環境資料整備, 副担当.

他博物館・機関の活動

復元製作した地機一式, 企画展「発見! わが家のはた織りさん」での展示および近江はたおり探検隊による実演, はたや記念館ゆめおーれ勝山, 貸出.

準構造船 (模型)・丸子船 (模型・舵・櫓など)・固定席艇など 10 点, 開館 20 周年記念 第 44 回企画展「湖の船が結ぶ絆―天智天皇・信長の船、そしてうみのこ―」での展示, 滋賀県立安土城考古博物館, 貸出.

牛の鞍・釣瓶・練炭造り器・ドンペイ・アカトリなど修復民具 10 点, 秋季特別展「文化財保存・修復の半世紀」での展示, (財) 元興寺文化財研究所, 貸出.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示 B 展示室「湖に生きる人々」コーナー展示, 主担当.

生活実験工房 (屋外展示) 展示, 主担当.

屋外展示生活実験工房「おりばたけ」、滋賀の伝統作物の栽培, はしかけ「近江はたおり探検隊」「近江昔くらし倶楽部」活動.

展示交流員と話そう, 内容指導.

モーニングレクチャー, 講義, 4 回.

他博物館・機関の活動

びわ卓フォーラム 2013, 2013 年 1 月 14 日, 琵琶湖博物館はしかけグループ「近江昔くらし倶楽部」, ポスター展示, 滋賀県立県民交流センター (ピアザ淡海) (大津市).

【企画調整活動】

新任職員等研修, 主担当.

博物館実習, 主担当.

新任職員等研修, 生活実験工房, 展示説明, 2012 年 4 月 12 日, 琵琶湖博物館.

新任職員等研修, B 展示室, 展示説明, 2012 年 4 月 17 日, 琵琶湖博物館.

滋賀県博物館協議会総会, 運営協力, 2012 年 6 月 27 日, 滋賀県立平和祈念館.

日本博物館協議会近畿支部総会, 出席, 2012 年 10 月 12 日, 滋賀県立安土城考古博物館.

JICA 博物館学集中コース, 資料の整理と利用など, 講師, 2012 年 10 月 16 日, 琵琶湖博物館.

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

来館者・非来館者調査, 主担当.

今年度は主な研究テーマである水田地帯における各魚種の季節消長や利用目的、そして保全にむけた試みについて研究をまとめ、学会発表を行った。また、総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」の魚類班として、これまでの調査結果や博物館標本や文献における情報を元に滋賀県内における各河川魚類相について分布パターンを検討するための基礎資料をまとめたほか、ナマズ類などの遺伝的多様性に関する研究のため、滋賀県内に生息するナマズ属3種のサンプリングを行なった。このほか、科学研究費補助金(基盤(B))「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の脈わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」(研究代表者:川那部浩哉)の一環として、参加型調査の実施や講演会の運営などを行ったほか、地域住民やアマチュア研究者が発見した成果を地域の自然史情報として記録に残すため、研究会会誌や博物館研究報告に報文を投稿するサポートを行なった。さらに、地域の自然観察会などで得られた情報や知見をモニタリングや調査研究に発展させるための試みや、観察会が地域自然史の知見を得るための場となりうる可能性について研究を開始し、それらで得られた成果や取り組みについて論文の執筆、学会発表を行なった。

また、今年度は総務部企画調整課広報担当となり、博物館の魅力を発信すべく、メディア対応や資料提供などを行ない、琵琶湖博物館ファンを増やすための広報を心掛けていった。このほか、「来館者数800万人記念セレモニー」、「来館者800万人達成予想日クイズ」やアトリウムでの「西川貴教のイナズマロックメッセージ for びわ湖」、「へびにまつわる干支セトラ」、「ハート模様のウナギ」など、普段とは異なる雰囲気の特集展示を企画し、博物館を身近に感じてもらうための工夫を図った。さらに移動博物館副担当として、県内および近畿、関東、九州などでの移動博物館展示に関わった。滋賀県のPRや観光という観点から県内外で広報を行なうことができる機会でもあり、様々な機関や団体等とともに実施をすることで当館として新たなつながりをつくることができたと考えている。

水族展示では水族維持管理、飼育のためのノウハウを実務も交えながら学んでおり、早期の専門的な技術習得を目指している。また、水族展示室トピック展示として2011年に新種記載されたメダカ北日本集団を、旬の魚コーナーではヒワラ(寒鮒)を担当した。このほか、水族企画展示「ぼくらは田んぼの合唱団 滋賀にすむカエルたち」の副担当となり、カエル類の採集や撮影などを行った。

さらに今年度は新しく設置された新琵琶湖博物館創造準備室に所属し、主に県民ワークショップの開催を担当した。2012年11月に「大学と琵琶湖博物館のよりよい関係をさぐる」、2013年2月に「地域企業と琵琶湖博物館のさらなる連携について」テーマにおいてワークショップを開催し、それぞれの参加者からリニューアルや琵琶湖博物館が目指すべき方向性について有意義な意見をいただくことができた。これらの意見を集約し、よりよいリニューアルにむけた計画を検討していきたい。

印刷物

【学術論文】

上野篤史・金尾滋史・久米 学・近 雅博(2012) 滋賀県犬上川下流域におけるハリヨ *Gasterosteus aculeatus microcephalus* の季節消長と生息場所利用. *地域自然史と保全*, 34(1): 3-12.

金尾滋史・松田征也・前畑政善(2012) 琵琶湖のタナゴ類: その現状と保全. *魚類学雑誌*, 59(1): 75-78.

【専門分野の著作】

金尾滋史(2012) 鯉図鑑(コイ科の仲間). *月刊食生活*, 106(5): 20-21.

岡坂 遼・石川智由希・金尾滋史(2012) 霊仙山一風洞におけるハコネサンショウウオ *Onychodactylus japonicus* の確認記録. *滋賀自然環境研究会誌*, 10: 7-10.

金尾滋史(2012) フナが結ぶ琵琶湖と田んぼ、そしてヒト. *科学*, 82(8): 889-890.

Ohtsuka, T. and Kanao, S. (2012) Predation by crucian carp larva/fry visualizes biological interactions of paddy field community. In: Rice Paddy Working Group, Ramsar Network Japan (ed), *Report for Ramsar COP11 on good practices for enhancing biodiversity in rice paddy ecosystem in Japan, Korea and other Asian countries*, Ministry of the Environment (Japan), Tokyo (CD book).

金尾滋史 (2012) 滋賀県多賀町におけるヒサゴクサキリの採集記録. *Came 虫*, 170 : 14.

藤野勇馬・金尾滋史 (2012) 中池見湿地で確認された福井県初記録の淡水貝類 4 種. *福井市自然史博物館研究報告*, 59 : 47-50.

金尾滋史 (2013) 野生生物生息状況調査 滋賀県甲良町におけるオグラヌマガイの生息状況. *平成 24 年度滋賀県生きもの総合調査報告書*. 滋賀県生き物総合調査委員会 : 20p.

金尾滋史 (2013) 野生生物生息状況調査 滋賀県東近江市における国内外来魚オヤニラミの分布拡大について. *平成 24 年度滋賀県生きもの総合調査報告書*. 滋賀県生き物総合調査委員会 : 10p.

金尾滋史・新保健志・中谷成一・遠藤真樹 (2013) 甲賀市レッドリスト 2012 魚類. 甲賀市みなくち子どもの森自然館 編, *甲賀市レッドリスト 2012*, 甲賀市役所, 甲賀 : 43-50.

【一般向けの著作】

金尾滋史 (2012) 湖岸より 157 観察会は発見の場. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2012 年 5 月 26 日.

金尾滋史 (2012) 湖岸より 161 フナからみた田んぼのにぎわい. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2012 年 7 月 14 日.

金尾滋史 (2012) ここだけ湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～ 標本収集は博物館の使命. *毎日新聞*, 毎日新聞社 : 2012 年 7 月 19 日.

金尾滋史 (2012) *カタツムリ調査票*. 環境フォーラム湖東.

布谷知夫・桑村邦彦・廣瀬正明・三和伸彦・植田 潤・中野栄美子・金尾滋史・高橋 進・楠岡 泰 (2012) *水源の里まいばらみらいづくり小冊子「水と環」*, 米原市・米原市教育委員会, 米原 : 50p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

金尾滋史 (2012 年 6 月 15 日) 博物館標本・文献を活用した生物の分布情報の把握. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

金尾滋史・舟尾俊範・田和康太・前畑政善・沢田裕一 (2012 年 9 月 22 日) 滋賀県内における魚類が利用可能な水田とその現状. 2012 年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 水産大学校 (山口県下関市), [ポスター発表].

高橋啓一・金尾滋史 (2012 年 11 月 24 日) 講演会“生命のにぎわい”をみんなで調べる方法をさぐる. 科学研究費補助金基盤 (B)「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [企画運営・司会].

金尾滋史 (2012 年 12 月 2 日)「技」を伝えるツール、「技」を学ぶツールとしてのチリメンモンスター. チリメンまつり 2012, きしわだ自然友の会・きしわだ自然資料館, 岸和田市立公民館 (大阪府岸和田市), [口頭発表].

大塚泰介・金尾滋史 (2012 年 12 月 23 日) 第 3 回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [企画運営].

金尾滋史 (2012 年 12 月 23 日) ため池から発見された宝物～オグラヌマガイを調べ、守る地域の取組み～. 第 3 回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [ポスター発表].

向井康夫・中西康介・河瀬直幹・金尾滋史 (2012 年 12 月 23 日) 滋賀県の水田の水生昆虫～その魅力と現状～. 第 3 回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

水野敏明・大塚泰介・金尾滋史・小川雅広・舟尾俊範・前畑政善 (2012 年 12 月 23 日) ニゴロとナマズの好みの水路に違いはあるの?. 第 3 回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

金尾滋史・三橋弘宗・波戸岡清峰 (2013 年 1 月 28 日) プラスティック封入標本の作製とその活用をめざした博物館スタッフ同士の交流. 第 53 回日本動物園水族館教育研究会, 日本動物園水族館教育研究会, 日本モンキー

センター（愛知県犬山市），[口頭発表]．

金尾滋史（2013年1月31日）滋賀県におけるハリヨの分布とその変遷．平成24年度ハリヨ研究報告会，琵琶湖博物館，米原公民館（滋賀県米原市），[口頭発表]．

金尾滋史（2013年3月5日）滋賀県における希少淡水魚類の生息域外保全とその課題 ～博物館という機関のもつ役割と使命～．第60回日本生態学会自由集会「遺伝的多様性に配慮した希少生物の生息・生育域外保全」，日本生態学会，静岡県コンベンションアーツセンター（静岡県静岡市），[口頭発表]．

金尾滋史（2013年3月7日）滋賀県東部のため池における希少淡水貝類オグラヌマガイの継続調査と保全活動 ～地域参画によるモニタリング調査の実践～．第60回日本生態学会，日本生態学会，静岡県コンベンションアーツセンター（静岡県静岡市），[ポスター発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺域における水田利用魚類の生態・保全に関する研究」，（2012年度）．

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」（研究代表者：高橋啓一），共同研究者（2011～2015年度）．

琵琶湖博物館共同研究「山と湖をつなぐ地下水環境域」（代表：Mark J. Grygier），共同研究者（2012年度）．

琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖の置き土産～滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究～」（研究代表者：大塚泰介），研究協力者（2012～2016年度）．

科学研究費補助金（若手B）「日本在来ナマズ属の地域集団と保全対象水域の特定および遺伝的モニタリングの実践」（研究代表者：松崎慎一郎），共同研究者（2011～2013年度）．

環境省「ハリヨ野生復帰モデル事業」（研究代表者：松田征也），研究協力者（2010～2012年度）．

科学研究費補助金（基盤A）「水田の生物がもたらす生態系サービスの賢い利用を導く技術と社会の総合研究」（研究代表者：夏原由博），連携研究者（2012～2014年度）．

科学研究費補助金（基盤B）「地域住民による琵琶湖沿岸の＜生命の脈い＞総合調査の方法論と具体的手法の確立」（研究代表者：川那部浩哉），研究協力者（2010～2012年度）．

総合地球環境学研究所インキュベーション研究「生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会－生態システムの健全性」（研究代表者：奥田昇），研究協力者（2012年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会，保全生態学研究，査読，1件．

農業農村工学会誌，農業農村工学会論文集，査読，1件．

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年7月4日，長浜バイオ大学，「動物科学演習」．

2013年1月5日，びわこ学院大学，「滋賀の環境」．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件．

はしかけ運営，温故写新，担当．

2012年8月18日，滋賀の自然をめぐるミステリー観察会，観察会，長浜市，企画・運営（澤邊久美子と共同）．

2012年8月26日，琵琶湖の浅瀬を歩いてみよう，観察会，長浜市，企画・運営（澤邊久美子と共同）．

2012年9月1日，企画展示「ニゴローの大冒険」関連イベント，ニゴローのおめん作り，琵琶湖博物館，（澤邊久美子と共同）．

2012年9月29日，写真の撮り方講座，はしかけグループ「温故写新」，琵琶湖博物館，講師．

- 2012年11月3日, 企画展示関連シンポジウム「田んぼに魚がやってきた!」, 琵琶湖博物館, 企画・運営(大塚泰介と共同).
- 2012年11月3日, 企画展示関連シンポジウム「田んぼに魚がやってきた!」, 琵琶湖博物館, [パネルディスカッション司会].
- 2013年2月10日, 写真の撮り方講座, はしかけグループ「温故写新」, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

- 2012年5月8日, 琵琶湖の生物とその生態—博物館という場所の役割—, 滋賀県立大津高校, 科学と生活, 大津高校(大津市), 講師.
- 2012年6月5日, 生き物からみた生物多様性, パナソニック株式会社アプライアンス社, 生物多様性セミナー, パナソニック株式会社アプライアンス社(滋賀県草津市), 講師.
- 2012年6月9日, わんぱくプラザ矢倉っ子草津川探検, わんぱくプラザ矢倉っ子実行委員会, 矢倉市民センター(滋賀県草津市), 講師.
- 2012年6月9日, 環境フォーラム湖東 第1回カタツムリ観察会, 環境フォーラム湖東, 金剛輪寺(滋賀県愛知郡愛荘町), 講師.
- 2011年6月12日, びわ湖生命の水プロジェクト蜚の観察会, (株)ブリヂストン, ブリヂストン彦根工場(滋賀県彦根市), 講師.
- 2012年6月16日, 竹町魚のゆりかご水田プロジェクト観察会, 竹町のしぜんを守る会, 近江八幡市, 講師.
- 2012年7月1日, 環境フォーラム湖東 第2回カタツムリ観察会, 環境フォーラム湖東, 大滝神社(滋賀県犬上郡多賀町), 講師.
- 2012年7月8日, 環境フォーラム湖東 第3回カタツムリ観察会, 環境フォーラム湖東, 龍潭寺(滋賀県彦根市), 講師.
- 2012年7月30日, 石部高校ミュージアムスクール, 石部高校, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2012年8月3日, 世代をつなぐ農村まるごと保全研修会, 滋賀県農村振興課, 新旭公民館(高島市新旭町), 講師.
- 2012年8月4日, 琵琶湖の魚はいま, ニッセイみらいフォレスト講演会, 日本生命(東京都), 講師.
- 2012年8月12日, 水源の里まいばらシンポジウム, ルッチプラザ(米原市), パネラー.
- 2012年10月6日, 伊吹山のカタツムリ観察会, 伊吹山文化資料館, 伊吹山文化資料館(米原市), 講師.
- 2012年10月9日, 琵琶湖の生物とその生態—博物館という場所の役割—, 滋賀県立大津高校, 科学と生活, 大津高校(大津市), 講師.
- 2012年10月14日, ため池のオグラヌマガイ観察会, 湖東地域みずすまし推進協議会, 甲良町(犬上郡甲良町), 講師.
- 2012年11月19日, プラスティネーション標本作成講座, NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク, 琵琶湖博物館, 世話役.
- 2012年11月29日, 生き物が教えてくれる身の回りの環境, ダイフクエコアクション 環境教育講座, 株式会社ダイフク, 講師.
- 2012年12月3日・2013年1月21日, 班での調べ学習への助言, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 学習助言. 2件.
- 2012年12月8日, カタツムリからわかる私たちの町の環境, 環境フォーラム湖東シンポジウム, 環境フォーラム湖東, ビバシティ彦根(滋賀県彦根市), 講師.
- 2012年12月10日, 大型プリンタ活用講座～素材編～, NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク, 大阪市立自然史博物館(大阪府大阪市), 世話役.
- 2012年12月15日, 琵琶湖学習, 立命館守山中学校, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2013年1月14日, 淡海の川づくりフォーラム, 淡海の川づくりフォーラム実行委員会, コラボしが21(滋賀県大津市), 選考委員.
- 2013年1月29日, 生態系講座, 湖東土木事務所, 湖東土木事務所(滋賀県彦根市), 講師.
- 2013年2月21日, 環境のアクションを起こしてみよう!! ～身近な自然や環境を感じるコツ～, ダイフクエコアクション 環境教育講座, 株式会社ダイフク, 講師.

視察対応

2012年8月17日, 南丹市教育委員会.

2012年9月13日, 京都工業繊維大学.

2012年11月14日, 京都プロバスケットボールクラブ.

メディアへの協力

2012年4月26日, NHK 大津放送局, おうみ発 610 クイズで知るびわ湖, 琵琶湖博物館, インタビュー・撮影対応, (2012年4月21日取材)

2012年7月17日, NHK 大阪放送局, ぐるっと関西おひるまえ 水族展示の紹介, インタビュー・撮影対応, (2012年7月5日取材).

2012年8月1日, 朝日放送, ココイロ 琵琶湖博物館の紹介, インタビュー・撮影対応, (2012年8月1日取材)

2012年8月15日, NHK 大津放送局, おうみ発 610 企画展示・水族企画展示紹介, インタビュー・撮影対応, (2012年8月14日取材).

2012年8月17日, えふえむ草津, イブロケ 785, 節電クールライフキャンペーン紹介, 出演, (2012年8月17日生放送).

2012年9月15日, びわ湖放送, KONBANWA SHIGA, びわ湖を“知る”, インタビュー・取材対応, (2012年8月23日取材).

2012年10月5日, FM 滋賀, radio max, あさ・ひる・ばん博物館を楽しもう!!紹介, 出演, (2013年10月5日生放送).

2012年10月9日, えふえむ草津, イブロケ 785, あさ・ひる・ばん博物館を楽しもう!!紹介, 出演, (2013年10月9日生放送).

2012年10月19日, えふえむ草津, イブロケ 785, あさ・ひる・ばん博物館を楽しもう!!紹介, 出演, (2013年10月19日生放送).

2013年1月19日, 関西テレビ, さかのぼりリサーチ コマンドーZ, 淀川の源流をさがせ!!, 出演・撮影対応, (2012年12月12日取材).

2013年1月18日, えふえむ草津, イブロケ 785, びわはく玉手箱 琵琶湖博物館だより, 出演, (2013年1月18日生放送).

2013年2月9日, NHK 大阪放送局, かんさいお昼のニュース ハート模様のうなぎ, インタビュー・撮影対応, (2013年2月9日取材).

2013年2月9日, NHK 大津放送局, おうみ発 610 ハート模様のうなぎ, インタビュー・撮影対応, (2013年2月9日取材).

2013年2月9日, NHK 大阪放送局, かんさいニュース 845 ハート模様のうなぎ, インタビュー・撮影対応, (2013年2月9日取材).

2013年2月9日, びわ湖放送, キラリン滋賀 ハート模様のうなぎ, インタビュー・撮影対応, (2013年2月9日取材).

2013年3月12日, 読売テレビ, かんさい情報ネット ten, アユモドキの解説, インタビュー・撮影対応,

2013年3月15日, えふえむ草津, イブロケ 785, びわはく玉手箱 琵琶湖博物館だより, 出演, (2013年3月15日生放送).

2013年4月13日 (予定), NHK 大津放送局 クイズで知るびわ湖, 琵琶湖博物館, 撮影対応, (2013年3月30日取材).

NHK 大津放送局 おうみ発 610, びわこ生き物図鑑, 撮影対応, 4回.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電話・窓口・メールによる質問対応 150件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集, 担当.

水族資料維持管理, 担当.

動物資料貸出・特別観覧対応, 1件(魚類).

魚類資料収集, 80件(淡水魚).

昆虫資料収集, 50件(直翅類, 水生昆虫等).

貝類資料収集, 50件(陸産貝類, 淡水貝類等).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理, 担当.

2011年5月15日～6月3日, 水族トピック展示「メダカ北日本集団」, 主担当.

2012年7月14日～11月25日, 企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」, 展示協力、写真提供.

2012年7月14日～9月2日, 水族企画展示「ぼくらは田んぼの合唱団－滋賀にすむカエルたち－」, 副担当.

2012年12月8日～2013年1月27日, お正月トピック展示「へびにまつわる干支セトラ」, 主担当.

2013年2月9日～3月17日, 水族トピック展示「ハートの模様があるウナギ」, 主担当.

2013年1月26日～3月26日, 水族展示旬の魚たち「ヒワラ(寒鮒)」, 主担当.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

展示交流員と話そう, 内容指導.

他博物館・機関の活動

河辺いきものの森, 屋外解説パネル展示協力・写真提供.

【企画調整活動】

地域発見!参加型移動博物館事業, 滋賀・びわ湖ブランド展～湖と生きる, 副担当, 2012年7月21～22日, イオンモール京都(京都府).

地域発見!参加型移動博物館事業, 琵琶湖がやってくる ～もっと知ろう!日本一の湖, 副担当, 7月26日～8月4日, 丸の内オアゾ ニッセイみらいフォレスト(東京都).

地域発見!参加型移動博物館事業, 滋賀まなび体験, 副担当, 8月4日, ピアザ淡海.

地域発見!参加型移動博物館事業, 滋賀・びわ湖ブランド展～湖と生きる, 副担当, 2012年8月25日, イオンモール草津(草津市).

アトリウム展示「西川貴教のイナズマメッセージ for 滋賀・びわ湖」, 主担当, 2012年9月1日～9月30日, 琵琶湖博物館.

イナズマロックフェス出展ブース, 主担当, 2012年9月15日～16日, からすま半島広場.

地域発見!参加型移動博物館事業, 近畿環境カウンセラー研修会, 主担当, 11月15日, コラボしが21.

地域発見!参加型移動博物館事業, おいでーな滋賀キャンペーン in 福岡・天神, 主担当, 11月16日～11月18日, 天神イムズ(福岡県).

地域発見!参加型移動博物館事業, 第25回琵琶湖夢街道大近江展, 副担当, 2013年2月26日～3月4日, 日本橋高島屋(東京都).

びわ湖レイクサイドマラソン出展ブース, 副担当, 2013年2月24日, からすま半島広場.

資料提供, 57件.

その他テレビ取材対応, 約20件.

その他新聞取材対応, 約30件.

雑誌情報掲載対応, 約50件.

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

琵琶湖博物館リニューアルに向けた県民ワークショップ「大学と琵琶湖博物館のよりよい関係をさぐる」, 主担当,
2012年11月25日, 琵琶湖博物館.

琵琶湖博物館リニューアルに向けた県民ワークショップ「地域企業と琵琶湖博物館のさらなる連携について」, 主担
当, 2013年2月7日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006年8月～, 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会, 委員.

2010年7月1日～, 環境省自然環境局, 希少野生動植物種保存推進員.

2010年4月1日～, 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 滋賀県希少野生動植物調査監視指導員.

2011年11月～, 滋賀県農政水産部農村振興課, 豊かな生き物を育む水田検討委員会, 委員.

2012年2月～, NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク, 標本救済ネット, ケースワーカー.

草地の利用と草地性生物の関係をテーマに博物館学の視点で、博物館と地域との関わり方および市民参画について研究対象としている。滋賀県内にはヨシ原や茅場など草を利用した暮らしがあり、草地には草地性生物の住処としての場と人間の資源利用としての場の機能が存在する。その両者の関係性を探り減少する草地保全に生かすための研究を進めている。今年度は、草地性生物であるカヤネズミの生息地である草地がどのような景観に位置し、その周辺環境が及ぼす影響を明らかにする研究を行った。カヤネズミは移動能力が低いため、草地の孤立が深刻な問題となる。生息草地の周囲半径 500m の景観スケールで草地が連続して存在することが重要であると示唆される。今後は、草地の連続性の評価について分析を進める予定である。また、生き物に対する意識・関心というのは人により大きな差があり、草地を利用する人、草地を管理する人、草地に全く関係を持たない人などそれぞれ異なった認識がある。博物館として生物の多様性や生き物が持つ機能を伝える際、市民の生き物に対する意識レベルを理解することは重要である。近年様々な市民参加型調査が実施されているが、博物館が関わる意義は大きい。過去の市民参加型調査から、博物館が加わって参加型の調査をする利点や意義を研究し、これからの市民参加型調査の可能性や博物館の役割を再認識できるものとなった。

それに加え、博物館をより使いやすくするため、屋外展示の活用を積極的に取り組んできた。2013 年度に向けて、屋外展示を使った観察会を企画展と関連して 4 回企画し、ほ乳類調査も開始する予定である。屋外展示のオニグルミの食痕からアカネズミが生息している可能性が高く、ホンドタヌキやキツネなどの記録を残すことを目的とする。普段は観察が難しいほ乳類の観察、参加型調査の可能性も含めて、さらに調査を進める。

交流グループの事業については、フィールドレポーター主担当、質問コーナー主担当、はしかけ副担当、観察会副担当として業務を行った。フィールドレポーターは毎月 2 回の定例会と展示更新をスタッフと協力して実施した。2012 年度は「身の回りの生き物と環境」調査を担当をした。新しいスタッフが 4 名参加し、来年度から 1 名参加する予定であり昨年度の人材不足の課題が改善され、より活発な活動が期待される。また、2012 年度はフロアトークの普及のため無料開放日にアトリウムで行うなど普及啓発に努めた。観察会については、昨年度行ったアンケート結果から、観察会の在り方を全面的に改善し、リニューアルに向けた試験的取り組みを取り入れ、博物館を足元から見つめるからすま半島をテーマに設定した。

2013 年度の企画展「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」の副担当として、ほ乳類分野の展示内容、展示借用、交流事業の企画などを担当している。滋賀県博物館協議会ガイドブック制作委員として、来年度以降のガイドブック製作に向けた準備として取材を行い、各館へアンケートを依頼し情報収集に努めた。

印刷物

【一般向けの著作】

- 澤邊久美子 (2012) 湖岸より 158 日常の発見から博物館の研究へ. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012 年 6 月 9 日.
- 澤邊久美子 (2012) 湖岸より 172 草むらを使う人と生き物. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012 年 12 月 15 日.
- 澤邊久美子 (2012) どこでもだれでもフィールド情報「滋賀のカヤネズミを求めて」. *琵琶博だより*, 9, 琵琶湖博物館: 3.
- 澤邊久美子 (2012) 今を生きるネズミと、過去に生きたネズミ. *琵琶湖博物館フィールドレポーター掲示板*, 2 (68), 琵琶湖博物館フィールドレポーター: 2.
- 澤邊久美子 (2012) 巻頭エッセイ 動物とわたし「小さなネズミが見せてくれる世界」. *天王寺動物園季刊「なまごえ」*, 48, 天王寺動物園: 3.
- 澤邊久美子 (2012) 草むらで暮らすカヤネズミ. *ヨシでびわ湖を守るネットワーク通信*, 14, ヨシでびわ湖を守るネットワーク: 2-3.

澤邊久美子 (2013) 田んぼの生きもの調査レポート「草の上のカヤネズミの暮らし」. 秀明自然農法ネットワーク
機関誌「自然尊重」, 35, 特定非営利活動法人秀明自然農法ネットワーク: 14-15.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

澤邊久美子 (2012年4月20日) 参加型調査の手法ーカタツムリ調査ひょうご2008-2009ー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

澤邊久美子 (2012年6月17日) 参加型調査の手法ーカタツムリ調査ひょうご2008-2009ー. 全日本博物館学会2012年度総会・大38回研究大会, 全日本博物館学会, 明治大学駿河台校舎・リパティタワー (東京都千代田区), [口頭発表].

澤邊久美子・夏原由博 (2013年3月6日) 景観構造がカヤネズミの生息率におよぼす影響. 第60回日本生態学会, 日本生態学会, 静岡県コンベンションアーツセンター (静岡県静岡市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「参加型調査による博物館活動と地域連携の発展について」, (2012年度).

科学研究費補助金 (基盤A)「水田の生物がもたらす生態系サービスの賢い利用を導く技術と社会の総合研究」(研究代表者: 夏原由博), 連携研究者 (2012~2014年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

フィールドレポーター, 主担当.

2012年4月15日, 里山体験教室第1回, 里山体験教室, 野洲市, 運営補助.

2012年5月12日, 葉っぱであそぼう!, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 運営, (フィールドレポーターと共同).

2012年7月28日, 漁船に乗ってピワマス漁をしてみよう, 観察会, 長浜市, 運営補助.

2012年8月18日, 滋賀の自然をめぐるミステリー観察会, 観察会, 長浜市, 企画運営.

2012年8月24日・9月14日, ニゴローのお面づくり, 企画展示関連イベント, 琵琶湖博物館, 2件.

2012年8月26日, 琵琶湖の浅瀬を歩いてみよう, 観察会, 長浜市, 企画運営.

2012年11月10日, 朽木の森で宝探し「カタツムリとアニマルトラッキング」, 観察会, 高島市, 企画運営,

2012年11月24日, 紙漉きをしよう, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 運営, (フィールドレポーターと共同).

2012年12月2日, 淡海こどもエコクラブ活動交流会屋外プログラム「草の上のお家を探そう」, 環境学習センター, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2012年6月5日, 生物多様性セミナー, パナソニック株式会社アプライアンス社 (滋賀県草津市).

2012年6月21日, 三田市有馬富士自然学習センターの目指す方向に関する研究会, 三田市有馬富士自然学習センター・兵庫県立人と自然の博物館 (兵庫県三田市).

2012年6月23日, 須原のゆりかご水田観察会, 須原のゆりかご水田協議会 (滋賀県野洲市), 司会.

2012年7月7日, 博物館の楽しみ方, いきいき市民視察, 吹田いきいき市民ネットワーク, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年7月21日, カエル観察会に来てみませんか?, 草津市環境課・志那中環境を守る会 (滋賀県草津市).

2012年11月25日, 琵琶湖の魚, ビオトープ管理士会近畿支部研修会, 日本ビオトープ管理士会近畿支部, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年12月8日, 博物館の仕事, 第5回 さとかん環境職業説明会~BIO & ECOな お仕事、大集合!~, 大阪府立大学 (大阪府堺市), 講師.

メディアへの協力

2012年5月3日, 京都新聞, フィールドレポーター「ジャンボタニシ分布調査」, (2012年4月26日取材対応).

2013年1月31日, NHK 大津放送局, おうみ発610 クイズで知る琵琶湖, ヨシは生き物の住処としても大きな役割, 出演.

2013年2月15日, FM 草津, イブロケ789「琵琶湖博物館玉手箱 ハロー!!びわはく」, 出演.

2013年3月19日, 中日新聞, フィールドレポーター「身の回りの生き物と環境調査」, (2013年3月1日取材対応).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリーの質問対応, ほ乳類、両生類、爬虫類に関する質問への回答, 7件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗資料の提供受入, 3点.

脊椎動物資料の提供受入, 11点.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

C展示室「フィールドからのレポート」, フィールドレポーター, 展示更新, 2件.

ディスカバリールーム「カヤネズミの巣」, 展示更新.

2012年7月14日~11月25日, 第20回企画展示「ニゴローの大冒険 ~フナから見た田んぼの生き物のにぎわい~」. 分担担当者.

企画展示「ニゴローの大冒険」関連イベント, ニゴローのお面をつくってみよう, 企画 (金尾滋文と共同).

2012年12月, 正月トピック展示「へびにまつわる干支セトラ」展, 写真提供.

2013年2月, トピック展示「ハートの模様があるウナギ」展, 写真提供・パネル作成.

2013年度, 第21回企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」, 副担当.

他の博物館・機関等の活動

ヤンマー株式会社, 2012年10月1日~2013年3月31日, 100周年記念事業 ヤンマーミュージアムプロジェクト, ビオトープ・ワークショップ開発の助言.

【企画調整活動】

地域発見!参加型移動博物館事業, 展示物設置・対応, 2012年8月3日, イオンモール高槻 (大阪府高槻市).

イナズマロックフェス出展ブース, 展示説明, 2012年9月15・16日, 烏丸半島芝生広場 (滋賀県草津市).

びわ湖レイクサイドマラソン出展ブース, 展示説明補助, 2013年2月24日, 烏丸半島芝生広場 (滋賀県草津市).

【研究部関連事業】

第6回生物多様性協働フォーラム~共生のビジョンを広域的な視点から考える~, 運営補助, 2013年1月12日, ピアザ淡海 (ピアザホール)・大津市.

新琵琶湖学セミナー, 研究発信, 2013年1月26日~2月23日, 全5回, 琵琶湖博物館, 主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2012年4月～2014年3月，滋賀県博物館協議会，滋賀県博物館協議会ガイドブック制作委員会，担当.

【館外の活動】

2013年1月～2014年3月，関西広域連合広域環境保全局，生物多様性検討チーム，琵琶湖博物館副担当.

琵琶湖博物館では、主に学校団体を対象とした「体験学習」のメニューをいくつか用意している。来館校数が横ばいまたは減少する中、体験学習を希望する学校は増加している。これら体験学習の実施状況についての調査から見えてくる姿を、昨年度の研究でまとめた。その結果、以下のような課題点が見えてきた。

- | |
|---|
| ①中学、高校生対象の体験内容の充実が望まれている。
②中学生向けのサポートシートの開発が望まれている。
③琵琶湖や滋賀県に関連した体験内容が望まれている。 |
|---|

今回は、中でも③のポイントに重点を置いて研究や開発を進めた。

〈今年度に行ったこと〉

今年度前半に行ったのは、「どのような材料を用いて工作するか」ということと、「貝の安定供給はどのようにすればよいのか」ということである。

工作材料や方法については、県水産試験場で実施している方法をもとに、工作に慣れていない子どもたちでも扱いやすく、原材料費が安価なもので、見た目や手触り感などを損なわないことを基準に考案した。

貝の入手方法については、いろいろ試行検討した結果、「水族で死んだ貝（殻）を取っておいてもらう」とこと、「博物館レストランから出る貝殻を取っておいてもらう」ということに落ち着いた。しかし、セタシジミと切り切つてよいのか、という点では厳密にはDNAを調べる必要があり、見た目だけでは判断できない。目下思案中である。

〈次年度から行うこと〉

このプログラムの実施については、3月に訪れる小学校での初実施が決定している。その学校をはじめこれから実施する学校に対し、アンケートに協力いただく予定である。

本体験プログラムには充填材が乾くまでの時間がどうしても必要になるが、その時間を利用して見せるVTRの内容もさらに検討や改良を加えていきたい。(環境学習センター所有DVD「フナやモロコでいっぱいびわ湖にもどしたい」を使用)

プログラムの後半で「減少しているセタシジミを増やすには、どうしたらよいか」という問いかけを行うことで、子どもたちから自由に意見を述べてもらう(一般的に、体験学習を希望する学校は、発表好きの子どもが多い傾向がある)。子どもたちの様々な意見を聞いたり、実際の状況を説明する中から、最終的には「殻長制限が有効手段の1つで、今日のストラップはそのために作っているのだ」ということに導いていこうと考える。

また関連して、前任者(大依さん)が検討していた「体験プログラムに参加できなくても、自分で発見や体験していただけるシートの開発」をセタシジミについて行う。これは、前述した「博物館内のセタシジミ展示探し」をマップ風に1枚にしたいと考えている。併せて、教師向けの解説シートも準備し、学校向けに効果的に使用していただくことを考えている。

〈琵琶湖博物館にあるセタシジミの展示〉

この研究をすすめるにあたって、琵琶湖博物館内にいったいどのくらいのセタシジミに関する展示があるのかを調べてみた。結果は10ヶ所以上もあり、滋賀県や琵琶湖博物館において、セタシジミが重要な位置づけにあることに気づかされた。

当然、セタシジミの他にも「館内のあっちにもこっちにもある展示」がまだまだあるはずであり、今後いわば「逆引き辞典」のように、ある特定の生物なり民具などに注目して、どれだけどこに展示されているかということを見つけていくようなプログラムやサポートシートがあってもよいのではないかと考える。

印刷物

【一般向けの著作】

藤橋和弘 (2012) 湖と人々との関わり. 琵琶湖と自然 六訂版, 2012年, 滋賀県教育委員会: 64-67・70-71.

藤橋和弘 (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～1 魅力ある体験学習を. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2012年4月5日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

藤橋和弘 (2012年6月23日) 琵琶湖博物館と学校とのよりよい連携をめざして～滋賀県に関連した材料を使った学習プログラムの開発～. 研究報告会, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].

藤橋和弘 (2013年1月18日) 琵琶湖博物館と学校とのよりよい連携をめざして～滋賀県に関連した材料を使った学習プログラムの開発～. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖博物館を活用した学習プログラムの開発」, (2012年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年4月～2013年3月, 滋賀の教師塾塾生, ヨシ笛製作実習・交流事業研修受け入れ.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営, びわたん, 担当, 随時.

2012年4月～2013年3月, 「春の草花でしおりをつくろう」等10講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業, 琵琶湖博物館, 企画運営, 19件, (はしかけグループ「びわたん」「田んぼの生き物調査グループ」「近江昔暮らし倶楽部」「ほねほねクラブ」、フィールドレポーターと共催).

2012年4月～2013年3月, サテライト博物館, 長浜市立永原小学校・彦根市立若葉小学校・東近江市立能登川東小学校, 運営.

2012年6月～2013年2月, 琵琶湖学習, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館・草津市, コーディネーター・講師, 7件.

2012年7月22日, 琵琶湖のヨシでヨシ笛をつくろう, 環境と科学のフェスティバル実行委員会, 環境と科学のフェスティバル, ビバシティ (彦根市), (はしかけグループ「びわたん」と共催).

2012年7月23～31日, 琵琶湖探究, 滋賀県立石部高等学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館・草津市, コーディネーター・講師, 5件.

2012年8月～11月, 指導者のための博物館活用講座, 教員・地域活動指導者向け博物館講座, 琵琶湖博物館・草津市, コーディネーター・講師, 3件.

2012年5月4日～6日, 金環日食説明会, 琵琶湖博物館, 講師, 3件.

2012年8月2～3日, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 企画運営, (滋賀県中学校教育研究会理科部会と共催).

2012年10月20日, びわたんと絵本で楽しもう, はしかけオープンハウス, 琵琶湖博物館, (はしかけグループ「びわたん」と共催、蜂屋正雄と共同).

2012年10月20日, 星空観察会, あさ・ひる・ばん! 博物館を楽しもう, 琵琶湖博物館, (天究館友の会と共催).
2012年10月22日, 学校教育における博物館活用と指導実習, サテライト博物館教員研修, 東近江市立能登川東小学校, 講師.
2012年11月26日, サテライト博物館オープニングセレモニー, サテライト博物館概要説明, 東近江市立能登川東小学校, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2012年4月~2013年3月, 学校団体向け体験学習, 県内県外小中高等特別支援学校大学, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館(草津市), 講師, 85件.
2012年4月~2013年3月, 一般団体向け体験学習, 各団体, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館(草津市), 講師, 9件.
2012年4月21日, 真野こいのぼり祭り, 大津市役所真野支所, 大津市役所真野支所(大津市), 講師.
2012年5月~8月, 琵琶湖博物館での環境学習, 滋賀県中学校理科教育研究委員会, 滋賀県中学校理科教育研修会, 琵琶湖博物館(草津市), コーディネーター, 4件.
2012年5月24日, 琵琶湖の漁業について, 静岡県立修善寺中学校, 琵琶湖博物館(草津市), 実習補助.
2012年8月7日, 滋賀県教育研究会理科部会研究委員総会, 滋賀県小学校教育研究会理科部会, 琵琶湖博物館(草津市), コーディネーター.
2012年8月9日, 滋賀県環境教育研究協議会, 県教育委員会学校教育課, 琵琶湖博物館(草津市), コーディネーター.
2012年8月9日, しが環境教育リーディング事業・研究推進委員会, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.
2012年8月11日, 琵琶湖のお話とヨシ笛作り体験, JAF 滋賀支社, JAF 滋賀支部(大津市), 講師.
2012年8月12日, 琵琶湖のお話とヨシ笛作り体験, 大津プリンスホテル, 大津プリンスホテル(大津市), 講師, (大塚泰介と共同).
2012年8月23日, 星空観望会, 湖南市夏見会館(湖南市), 講師.
2012年8月24日, 近畿日本ツーリスト教育旅行担当社員の訪問, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.
2012年10月21日, 常磐小学校ふれあいフェスティバル, 草津市立常磐小学校(草津市), 講師.
2012年10月23・25・30・11月1日, 琵琶湖博物館での体験学習(実習), 滋賀県総合教育センター, 初任者研修, 琵琶湖博物館(草津市), 講師, 4件.
2012年11月9・11・13・14・15日, 職場体験学習(実習), 草津市立新堂中学校, 琵琶湖博物館(草津市), 講師・コーディネーター, 4件.
2012年12月1日, 琵琶湖博物館における体験学習, 滋賀県教育委員会, 滋賀の教師塾, 琵琶湖博物館(草津市), コーディネーター・講師.
2013年2月3日, 小野ヨシ刈りでのヨシ笛教室, コープ滋賀, 大津市, 実習補助, (蜂屋, 黄瀬, 小嶋と共同).

視察対応

2012年6月30日, 琵琶湖博物館の学校連携について, 福山市立大学, 琵琶湖博物館.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

貝類等に関する質問への回答, 1件.

天体等に関する質問への回答, 12件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年4月~2013年3月, 学校等標本貸出事業, 担当, 21件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年7月～2012年11月、わくわく探検隊「プランクトン模型をつくろう」でつくった作品、企画展関連展示、コーディネート・展示、(はしかけグループ「びわたん」と共催)。

【企画調整活動】

JICA 博物館学研修集中コース、琵琶湖博物館わくわく探検隊について、コーディネーター、2012年10月13日、琵琶湖博物館。

JICA 博物館学研修集中コース、琵琶湖博物館の学校連携について、講師、2012年10月16日、琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2012年6月～2013年2月、しが環境教育リーディング事業、委員。

教育学、博物館学の視点で学校と博物館の連携を研究している。また、昨年度より滋賀大学が事務局となり、文部科学省の支援を受けている「コア・サイエンス・ティーチャー (CST) 事業」を受け、小学校の教員に向けた理科学習の研修会についての研究と研修を行っている。今年度は、草津市立笠縫東小学校・草津市教育研究部会理科部会・草津養護学校の教員に向けて、環境学習・理科の教科学習についての研修会を行った。

今年度は、博物館における学校のニーズと博物館での学習の可能性について研究を行った。

○はじめに

現在、琵琶湖博物館には年間、約 750 校、65,000 人の児童生徒が来館している。その内、10,000 人程度が「体験学習」を受けている。また、その中のいくつかの学校が、「総合的な学習の時間」の地域学習として学校独自の地域・環境学習へ発展させている。

「昔の暮らし」の学習が 4 年生から 3 年生に移行したため、より小さな学年の子どもでも、展示や工房を見学しながら学習できるサポートシートが求められている。また、環境学習として、答えを求める学校のニーズと答えはないという実態から「基礎的なことで答えがある内容」と「答えのない内容」を明示できる学習補助教材の必要性が見えてきた。基礎から実生活への道筋を示すことで、ニーズを掘り起こすこともできることがわかった。

○滋賀県の小学校における環境学習と博物館との連携について

今年度、いくつものコーディネーターや講師を経験し、学習活動の出口としての発表会・交流会が教育効果としては大変高い、ということを感じた。また、琵琶湖博物館学芸員が学校での環境学習活動を「価値付け」することに大きな意味があり、子どものモチベーションを高めることができること、環境学習は地域学習にもなり博物館には学校と地域とを繋ぐポテンシャルがあることを感じ、琵琶湖博物館としての体制を見直すことに可能性を感じた。

○指導要領の改訂と博物館での力点

改訂の概要を見ると博物館のチャンスは増えている。来年度から完全実施の高校教科書に「地学Ⅱ」がないが、地学の学習なら琵琶湖博物館で丸々 1 単元フォローできる、というメニューの例を示せば中学校、高校の利用が増えるのではないか。社会科の歴史はもちろん、国語科の古典とのつながりを示すのも面白い。特別支援を視野に入れた (& 幼児) 展示、サポートシートの可能性などにも取り組みたい。

体験することによって、知る。発表することによって認識し、言語化・共有化できる。これらの活動が博物館内で可能である。

以上の可能性を考え、学校団体の受け入れ時の講義・体験学習・自校指導に活かしていく。

印刷物

【専門分野の著作】

蜂屋正雄 (2012) 平成 24 年度近畿支部会報告. 天文教育普及研究会会報, 1 月号 (120), 天文教育普及研究会: 65-66.

蜂屋正雄 (2013) これが教室習慣になる 言葉学習のお得ワザ“ちゃんと聞く”. 教育科学 国語教育, 4 月号 (759), 明治図書: 74-75.

【一般向けの著作】

蜂屋正雄 (2012) 日食を見よう. パンフレット, 滋賀大学 CST 事務局.

蜂屋正雄 (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館研究セミナーの再現～21 地球に落ちた小天体, 毎日新聞, 毎日新聞社: 2013 年 3 月 26 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

蜂屋正雄（2012年11月18日）～博物館・科学館・大学と学校教育との連携～. 天文教育普及研究会近畿支部会, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].

蜂屋正雄（2013年2月15日）博物館と学校の現状・ニーズ・これから. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「小学校の環境学習支援と情報発信方法の開発」, (2012年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年4月～2013年3月, 滋賀の教師塾塾生, ヨシ笛作り実習・交流事業研修受け入れ.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営, びわたん, 副担当.

2012年4月～2013年3月, 「春の草花でしおりをつくろう」等10講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業, 琵琶湖博物館, 企画運営, 19件, (はしかけグループ「びわたん」, 「田んぼの生き物調査グループ」, 「近江昔暮らし倶楽部」, 「ほねほねクラブ」, フィールドレポーターと共催).

2012年4月～2013年3月, サテライト博物館, 長浜市立永原小学校・彦根市立若葉小学校・東近江市立能登川東小学校, 運営.

2012年6月～2013年2月, 琵琶湖学習, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館・草津市, コーディネーター・講師, 7件.

2012年7月21～31日, 琵琶湖探究, 滋賀県立石部高等学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館・草津市, コーディネーター・講師, 5件.

2012年8月22日, 学校教育における博物館活用と指導実習, サテライト博物館教員研修, 長浜市立永原小学校, 運営.

2012年8月～11月, 指導者のための博物館活用講座, 教員・地域活動指導者向け博物館講座, 琵琶湖博物館・草津市, コーディネーター・講師, 3件.

2012年8月2・3日, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 企画運営, (滋賀県中学校教育研究会理科部会と共催).

他の博物館・機関等主催行事

2012年4月～2013年3月, 学校団体向け体験学習, 県内県外小中高等特別支援学校, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館（草津市）, 講師, 98件.

2012年4月～2013年3月, 一般団体向け体験学習, 各団体, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館（草津市）, 講師, 6件.

2012年5月～8月, 琵琶湖博物館での環境学習, 滋賀県中学校理科教育研究委員会, 滋賀県中学校理科教育研修会, 琵琶湖博物館（草津市）, 講師, 4件.

2012年4月11日, 安全な日食観察の仕方, 草津市教育研究会理科部会, コア・サイエンス・ティーチャー（CST）事業, 常盤小学校（草津市）, 講師.

2012年7月24日, 特別支援校におけるよし笛づくり, 草津市養護学校, コア・サイエンス・ティーチャー（CST）事業, 環境学習研修会, 草津特別支援学校（草津市）, 講師.

- 2012年7月27日、新単元の実験研修、草津市立笠縫東小学校、コア・サイエンス・ティーチャー（CST）事業、草津市立笠縫東小学校（草津市）、講師。
- 2012年8月3日、放射線についての研修、草津市教育研究会理科部会、コア・サイエンス・ティーチャー（CST）事業、草津市松原中学校（草津市）、講師。
- 2012年8月7日、滋賀県教育研究会理科部会研究委員総会、滋賀県小学校教育研究会理科部会、琵琶湖博物館（草津市）、コーディネーター。
- 2012年8月10日、ミニ琵琶湖博物館、長浜市社会福祉協議会、長浜市社協サマーホリデー、長浜市、（はしかけグループ「びわたん」と共同）。
- 2012年8月24日～26日、滋賀キッズミュージアム with いわき、滋賀絆アートプロジェクト、いわき市暮らしの伝承館（福島県いわき市）、講師。
- 2012年10月15日、ビオトープの生き物について考えよう、環境学習研究授業、草津市立渋川小学校（草津市）、講師。
- 2012年10月23・25・30・11月1日、琵琶湖博物館での体験学習（講義、実習）、滋賀県総合教育センター、初任者研修、琵琶湖博物館（草津市）、講師、4件。
- 2012年10月29日、笠縫東小学校子ども環境会議、草津市立笠縫東小学校、総合的な学習の時間における環境学習のまとめ、草津市立笠縫東小学校（草津市）、コーディネーター。
- 2012年11月9・11・13・14・15日、職場体験学習（実習）、草津市立新堂中学校、琵琶湖博物館（草津市）、講師・コーディネーター、4件。
- 2012年11月16日、びわ湖の未来を考えてみよう、守山市立守山小学校、コア・サイエンス・ティーチャー（CST）事業、守山市教育研究部会社会科部会研究授業、守山市立守山小学校（守山市）、助言者。
- 2012年11月19日、よし笛を作ろう、草津養護学校、コア・サイエンス・ティーチャー（CST）事業、環境学習・ふれる・つくる・えがく、草津養護学校（草津市）、講師。
- 2012年12月1日、琵琶湖博物館における体験学習、滋賀県教育委員会、滋賀の教師塾、琵琶湖博物館（草津市）、コーディネーター・講師。
- 2012年12月5日、和歌山の小学校と交流しよう、草津市立笠縫東小学校、環境学習交流会、草津市立笠縫東小学校（草津市）、助言者。
- 2013年2月2日、草津市子ども環境会議「大人と子どもの環境井戸端会議」、草津市子ども環境会議実行委員会、草津市環境学習交流会、草津市役所（草津市）、コーディネーター。
- 2013年2月3日、小野ヨシ刈りでのよし笛教室、コープ滋賀、大津市、講師、（藤橋・黄瀬・小嶋と共同）。
- 2013年3月26日、滋賀県の理科教育、滋賀県教育センター、コア・サイエンス・ティーチャー（CST）事業、琵琶湖博物館（草津市）、講師。

視察対応

- 2012年6月30日、琵琶湖博物館の学校連携について、福山市立大学、琵琶湖博物館。
- 2013年3月21日、琵琶湖博物館の学校連携について、群馬県立歴史博物館、琵琶湖博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

県内学校の質問対応・コーディネート、担当、9件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年4月～2013年3月、学校等標本貸出事業、担当、27件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年7月～11月、わくわく探検隊「プランクトン模型をつくろう」でつくった作品、企画展関連展示、コーディネ

ート・展示，（はしかけ「びわたん」と共催）。

【企画調整活動】

JICA 博物館学研修集中コース，琵琶湖博物館の学校連携について，講師，2012年10月16日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2012年7月～2013年2月，草津市立笠縫東小学校エコスクール支援委員会，委員。

2012年4月～2013年3月，コア・サイエンス・ティーチャー（CST）事業，推進員。

2012年4月～2013年3月，天文教育普及研究会，近畿支部委員。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2012年6月2日, 紙芝居「ゲンタのたんじょうものがたり」, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ荒井氏共同).
- 2012年6月14日~7月7日, 七夕☆短冊に願いをかこう!, ディスカバリールームイベント, 企画・実施.
- 2012年10月20日, 虫むし☆さいはっけん, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ共同).
- 2013年2月17日~3月16日, 大学生のお兄さん・お姉さんがつくったディスカバリーボックス, ディスカバリールームイベント, 企画・実施.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2012年度, ディスカバリールーム, 維持管理・運営, 分担.
- 2012年4月1日~4月28日, 音の部屋「アフリカの楽器」展示, 分担.
- 2012年4月1日~5月20日, クビキリギリス飼育展示, 分担.
- 2012年4月1日~5月27日, ブックコーナー「春 version」展示, 分担.
- 2012年4月1日~5月27日, ノコギリクワガタ飼育展示, 分担.
- 2012年4月1日~5月27日, 人形劇場「春 version」展示, 分担.
- 2012年4月1日~6月13日, おばあちゃんの台所「春 version」展示, 分担.
- 2012年4月1日~6月13日, 石の下/水の中の生きもの「春 version」展示, 分担.
- 2012年4月1日~7月8日, コクワガタ飼育展示, 分担.
- 2012年4月1日~11月10日, ヒバカリ飼育展示, 分担.
- 2012年4月1日~12月24日, ナミコキセルガイ飼育展示, 分担.
- 2012年4月1日~2013年3月31日, ナマズ飼育展示, 分担.
- 2012年4月1日~2013年3月31日, アカハライモリ飼育展示, 分担.
- 2012年4月13日~5月6日, おばあちゃんの台所「こどもの日」関連展示, 分担.
- 2012年4月29日~7月31日, 音の部屋「日本の楽器」展示, 分担.
- 2012年5月2日~5月6日, タゴガエル, 飼育展示, 分担.
- 2012年5月16日~5月19日, シュレーゲルアオガエル(卵), 飼育展示, 分担.
- 2012年5月20日~7月16日, シュレーゲルアオガエル(オタマジャクシ~カエル), 飼育展示, 分担.
- 2012年5月22日~9月8日, カイコ飼育展示, 分担.
- 2012年5月23日~7月8日, ケラ, 飼育展示, 分担.
- 2012年5月28日~9月9日, ブックコーナー「夏 version」展示, 分担.
- 2012年5月28日~9月9日, 人形劇場「夏 version」展示, 分担.
- 2012年6月14日~7月7日, おばあちゃんの台所「七夕」関連展示, 分担.
- 2012年6月14日~7月8日, アメリカザリガニ, 飼育展示, 分担.
- 2012年6月14日~9月9日, おばあちゃんの台所「夏 version」展示, 分担.
- 2012年6月14日~9月9日, 石の下/水の中の生きもの「夏 version」展示, 分担.
- 2012年7月18日~2013年3月31日, シュレーゲルアオガエル(成体), 飼育展示, 分担.

2012年7月19日～9月22日, ミヤマクワガタ, 飼育展示, 分担.
2012年7月19日～10月7日, ノコギリクワガタ, 飼育展示, 分担.
2012年7月19日～11月4日, オオゾウムシ, 飼育展示, 分担.
2012年7月19日～11月4日, ヒラタクワガタ, 飼育展示, 分担.
2012年7月19日～11月4日, コクワガタ, 飼育展示, 分担.
2012年7月19日～11月4日, アカアシクワガタ, 飼育展示, 分担.
2012年7月23日～8月3日, ニゴロブナ, 飼育展示, 分担.
2012年7月29日～8月2日, タマムシ, 飼育展示, 分担.
2012年8月1日～10月31日, 音の部屋「南米の楽器」展示, 分担.
2012年8月2日～2013年3月31日, マミズクラゲ, 展示, 分担.
2012年9月11日～10月31日, おばあちゃんの台所「秋 version」展示, 分担.
2012年9月11日～11月30日, ブックコーナー「秋 version」展示, 分担.
2012年9月11日～10月31日, 石の下/水の中の生きもの「秋 version」展示, 分担.
2012年9月11日～10月31日, 人形劇場「秋 version」展示, 分担.
2012年9月12日～10月2日, おばあちゃんの台所「お月見」関連展示, 分担.
2012年11月1日～2013年3月20日, 音の部屋「アジアの楽器」展示, 分担.
2012年11月1日～12月25日, おばあちゃんの台所「冬 version」展示, 分担.
2012年11月1日～3月16日, 人形劇場「冬 version」展示, 分担.
2012年11月1日～3月16日, 石の下/水の中の生きもの「冬 version」展示, 分担.
2012年12月1日～3月7日, ブックコーナー「冬 version」展示, 分担.
2013年1月3日～1月15日, おばあちゃんの台所「お正月」関連展示, 分担.
2013年1月26日～2月3日, おばあちゃんの台所「節分」関連展示, 分担.
2013年1月19日～3月3日, おばあちゃんの台所「ひなまつり」関連展示, 分担.
2013年2月～3月5日, ディスカバリーボックス「びわこのいきものパズル(魚たちのパズル)」リニューアル, 主担当.
2013年3月3日～3月31日, おばあちゃんの台所「春 version」展示, 分担.
2013年3月7日～3月31日, ブックコーナー「春 version」展示, 分担.
2013年3月17日～3月31日, 人形劇場「春 version」展示, 分担.
2013年3月17日～3月31日, 音の部屋「アフリカの楽器」展示, 分担.
2013年3月31日, 「カヤネズミの巣」展示, 分担.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2012年6月2日, 紙芝居「ゲンタのたんじょうものがたり」, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ荒井氏共同).
- 2012年6月14日~7月7日, 七夕☆短冊に願いをかこう!, ディスカバリールームイベント, 企画・実施.
- 2012年10月20日, 虫むし☆さいはっけん, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ共同).
- 2013年2月17日~3月16日, 大学生のお兄さん・お姉さんがつくったディスカバリーボックス, ディスカバリールームイベント, 企画・実施.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2012年度, ディスカバリールーム, 維持管理・運営, 分担.
- 2012年4月1日~4月28日, 音の部屋「アフリカの楽器」展示, 分担.
- 2012年4月1日~5月20日, クビキリギリス飼育展示, 分担.
- 2012年4月1日~5月27日, ブックコーナー「春 version」展示, 分担.
- 2012年4月1日~5月27日, ノコギリクワガタ飼育展示, 分担.
- 2012年4月1日~5月27日, 人形劇場「春 version」展示, 分担.
- 2012年4月1日~6月13日, おばあちゃんの台所「春 version」展示, 分担.
- 2012年4月1日~6月13日, 石の下/水の中の生きもの「春 version」展示, 分担.
- 2012年4月1日~7月8日, コクワガタ飼育展示, 分担.
- 2012年4月1日~11月10日, ヒバカリ飼育展示, 分担.
- 2012年4月1日~12月24日, ナミコキセルガイ飼育展示, 分担.
- 2012年4月1日~2013年3月31日, ナマズ飼育展示, 分担.
- 2012年4月1日~2013年3月31日, アカハライモリ飼育展示, 分担.
- 2012年4月13日~5月6日, おばあちゃんの台所「こどもの日」関連展示, 分担.
- 2012年4月29日~7月31日, 音の部屋「日本の楽器」展示, 分担.
- 2012年5月2日~5月6日, タゴガエル, 飼育展示, 分担.
- 2012年5月16日~5月19日, シュレーゲルアオガエル (卵), 飼育展示, 分担.
- 2012年5月20日~7月16日, シュレーゲルアオガエル (オタマジャクシ~カエル), 飼育展示, 分担.
- 2012年5月22日~9月8日, カイコ飼育展示, 分担.
- 2012年5月23日~7月8日, ケラ, 飼育展示, 分担.
- 2012年5月28日~9月9日, ブックコーナー「夏 version」展示, 分担.
- 2012年5月28日~9月9日, 人形劇場「夏 version」展示, 分担.
- 2012年6月14日~7月7日, おばあちゃんの台所「七夕」関連展示, 分担.
- 2012年6月14日~7月8日, アメリカザリガニ, 飼育展示, 分担.
- 2012年6月14日~9月9日, おばあちゃんの台所「夏 version」展示, 分担.
- 2012年6月14日~9月9日, 石の下/水の中の生きもの「夏 version」展示, 分担.
- 2012年7月18日~2013年3月31日, シュレーゲルアオガエル (成体), 飼育展示, 分担.

2012年7月19日～9月22日, ミヤマクワガタ, 飼育展示, 分担.
2012年7月19日～10月7日, ノコギリクワガタ, 飼育展示, 分担.
2012年7月19日～11月4日, オオゾウムシ, 飼育展示, 分担.
2012年7月19日～11月4日, ヒラタクワガタ, 飼育展示, 分担.
2012年7月19日～11月4日, コクワガタ, 飼育展示, 分担.
2012年7月19日～11月4日, アカアシクワガタ, 飼育展示, 分担.
2012年7月23日～8月3日, ニゴロブナ, 飼育展示, 分担.
2012年7月29日～8月2日, タマムシ, 飼育展示, 分担.
2012年8月1日～10月31日, 音の部屋「南米の楽器」展示, 分担.
2012年8月2日～2013年3月31日, マミズクラゲ, 展示, 分担.
2012年9月11日～10月31日, おばあちゃんの台所「秋 version」展示, 分担.
2012年9月11日～11月30日, ブックコーナー「秋 version」展示, 分担.
2012年9月11日～10月31日, 石の下/水の中の生きもの「秋 version」展示, 分担.
2012年9月11日～10月31日, 人形劇場「秋 version」展示, 分担.
2012年9月12日～10月2日, おばあちゃんの台所「お月見」関連展示, 分担.
2012年11月1日～2013年3月20日, 音の部屋「アジアの楽器」展示, 分担.
2012年11月1日～12月25日, おばあちゃんの台所「冬 version」展示, 分担.
2012年11月1日～3月16日, 人形劇場「冬 version」展示, 分担.
2012年11月1日～3月16日, 石の下/水の中の生きもの「冬 version」展示, 分担.
2012年12月1日～3月7日, ブックコーナー「冬 version」展示, 分担.
2013年12月8日, ディスカバリーボックス「漁師すごろく」リニューアル展示.
2013年1月3日～1月15日, おばあちゃんの台所「お正月」関連展示, 分担.
2013年1月26日～2月3日, おばあちゃんの台所「節分」関連展示, 分担.
2013年1月19日～3月3日, おばあちゃんの台所「ひなまつり」関連展示, 分担.
2013年3月3日～3月31日, おばあちゃんの台所「春 version」展示, 分担.
2013年3月7日～3月31日, ブックコーナー「春 version」展示, 分担.
2013年3月17日～3月31日, 人形劇場「春 version」展示, 分担.
2013年3月17日～3月31日, 音の部屋「アフリカの楽器」展示, 分担.
2013年3月31日, 「カヤネズミの巣」展示, 分担.

印刷物

【一般向けの著作】

渡邊潤子（2013）匠の技！江戸時代観光ガイドマップ。琵琶博だより，12，滋賀県立琵琶湖博物館：4.

博物館事業に関する業績

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

お正月トピック展示「へびにまつわる干支セトラ」情報のweb発信，準備，2件.

収蔵資料展示情報のweb発信，準備，7件.

安土城考古博物館企画展「湖の船が結ぶ絆―天智天皇・信長の大船、そしてうみのこー」へ『日吉山王祭礼図屏風六曲一双・左隻』・『日吉山王祭礼図屏風六曲一隻』の貸出情報のweb発信，準備，1件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

安土城考古博物館史料（『日吉山王祭礼図屏風六曲一双・左隻』・『日吉山王祭礼図屏風六曲一隻』），調査対応.

安土城考古博物館企画展「湖の船が結ぶ絆―天智天皇・信長の大船、そしてうみのこー」へ『日吉山王祭礼図屏風六曲一双・左隻』・『日吉山王祭礼図屏風六曲一隻』，貸出対応，（2012年7月11日）.

安土城考古博物館企画展「湖の船が結ぶ絆―天智天皇・信長の大船、そしてうみのこー」より（『日吉山王祭礼図屏風六曲一双・左隻』・『日吉山王祭礼図屏風六曲一隻』）返却対応，（2012年9月11日）.

『木村忠兵衛家文書』仮目録の入力，301点.

三重県立博物館所蔵『鼠族図譜』の翻刻，実施.

『郁子図』の翻刻，実施.

近江関係散逸古文書履歴入力，実施，93件.

定期収蔵庫清掃（特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室），実施，12回.

定期清掃（収蔵庫廊下），実施，6回.

定期清掃（B展示室），実施，44回.

大掃除（B展示室・古文書整理室・燻蒸室），実施，1回.

特別清掃（B展示室），実施，1回.

虫カビ対策としての重点追加清掃（トラックヤード・歴史研究室・古文書整理室・環境収蔵庫・液浸収蔵庫アルコール・民俗収蔵庫1）実施，計9回.

IPM対策としての年次計画の作成.

防虫防黴調査，トラップ設置回収、報告書作成，3回.

生物発見履歴の整備，入力，48件.

pH測定（7ヶ所），実施，2回.

脱酸素処理，実施，2回.

収蔵庫・展示室等の温湿度記録計用紙交換（10ヶ所），実施，12回.

移動式展示ケース内温湿度記録計用紙交換及び湿度管理，実施，4回.

防虫剤投入（特別収蔵庫），実施，1回.

収蔵庫担当者会議発表, 実施, 3回.
バルサン加熱蒸散, 実施, 1回.
乳剤散布, 実施, 7回.
博物館パンフレット一斉発送作業手伝い, 1回.
図書室蔵書点検手伝い, 1回.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年4月17日～5月20日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第29回, 企画・調査・準備・展示.
2012年5月22日～6月24日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第30回, 企画・調査・準備・展示.
2012年6月26日～8月5日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第31回, 企画・調査・準備・展示.
2012年8月7日～9月9日, 収蔵資料展示「企画展示関連企画 ～古文書でたどる～田んぼの様子と農民のくらし」
第32回, 企画・調査・準備・展示.
2012年9月11日～10月14日, 収蔵資料展示「企画展示関連企画 ～古文書でたどる～琵琶湖名産フナズシがで
きるまで」第33回, 企画・調査・準備・展示.
2012年10月16日～11月18日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第34回, 企画・調査・準備・展示.
2012年11月20日～12月24日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第35回, 企画・調査・準備・展示.
2013年1月3日～1月27日, お正月トピック展示「へびにまつわる干支セトラ」歴史資料の部「古文書でさがそう!!
～様々な蛇～」, 企画・調査・準備・展示.
2013年1月3日～2月3日, お正月トピック展示「へびにまつわる干支セトラ」歴史資料の部「古文書でさがそう!!
～蛇にまつわる伝説の数々～」, 企画・調査・準備・展示.
2013年2月5日～3月10日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第36回, 企画・調査・準備・展示.
2013年3月12日～4月15日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第37回, 企画・調査・準備・展示.
B展示室常設展示陳列替え, 実施, 6件.

印刷物

【専門分野の著作】

- Kawanabe, H., Nishino M. and Maehata, M. ed. (2012) *Lake Biwa, Interactions between Nature and People*. Springer, Dordrecht: xvii+xii+744p.
- Kawanabe, H. (2012) Preface. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: v-vi.

【一般向けの著作】

- 京都市青少年科学センターのあり方検討専門家会議 (座長: 川那部浩哉) 編 (2012) *京都市青少年科学センターのあり方検討専門家会議提言*. 京都市青少年科学センター: 1-10.
- 川那部浩哉 (2012) (ずいひつ) 新潟水俣病と私、そして生態学 (1) (2) (3). *新潟水俣病第三次訴訟を支援する会* たちより, *新潟水俣病第三次訴訟を支援する会*, (12): 8-10, (13): 4-6, (14): 5-7, (15): 5-7.
- 川那部浩哉・辻井祐美子 (2012) 「京都水族館」の評価・教訓・課題. *京都民報*: 2012年5月20日.
- 川那部浩哉 (2012) 琵琶湖の再生に向けて～マザーレイク 2 1 計画と私～. *滋賀大学ンポジウム 琵琶湖の再生へ～ 私たちは何ができるのか～報告集*: 4-6.
- 川那部浩哉 (2012) はじめに. *ジャン＝アンリ・ファールブルの時間* (日仏友好百五十記念国際シンポジウム『ジャン＝アンリ・ファールブル』実行委員会 編), 東海大学出版会, 東京: iii-vii.
- 川那部浩哉 (2012) もっと知りたい! 「みずのたび」: 水道の水は、どこから来てどこへ行くのでしょうか. *月刊「かがくのとも」*, 521, 福音館書店, 東京: 2-3.
- 川那部浩哉 (・今吉邦英) (2012) SGI 会長の環境提言に寄せて 「地域」から行動を起こすことが大切. *聖教新聞*: 2012年7月15日.
- 川那部浩哉 (2012) SGI 会長の環境提言に寄せて 「地域」から行動を起こすことが大切 (韓国朝鮮語). *聖教新聞*: 2012年7月15日.
- 川那部浩哉 (2012) 鴨川のアユは今後どうなるだろうかーアユが喜び人も喜ぶ「いのち」とは何かを考えるー. *鴨沂会誌*, 149, 京都鴨沂会, 京都: 15-18.
- 川那部浩哉 (2012) 阿蘇地方の泉を見学して. *柿田川生態系研究会「阿蘇現地視察」報告集*, リバーフロント研究所, 東京: 20-21.
- 川那部浩哉・水野信彦 監修、中村太士 編 (2013) *河川生態学*. 講談社, 東京: xii+354 pp.
- 川那部浩哉 (2013) 監修者の言葉. *河川生態学* (川那部浩哉・水野信彦 監修、中村太士 編), 講談社, 東京: iii-iv.
- 川那部浩哉 (2013) 2012年読書アンケート. *みすず*, 55(1): 38-39.
- 川那部浩哉 (2013) (ずいひつ) 新潟水俣病と私、そして生態学 (4). *新潟水俣病第三次訴訟を支援する会* たちより, 16, *新潟水俣病第三次訴訟を支援する会*, 新潟: 6-8.

研究活動に関する業績

【学会・研究会等への参加】

- 2012年9月15～17日, 日本陸水学会, 名古屋大学 (名古屋市).
- 2012年9月21～24日, 日本魚類学会, 水産大学校 (下関市).

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金(基盤B)「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」
(研究代表者:川那部浩哉), 研究代表者(2010~2012年度).

【受賞など】

京都府文化賞特別功労賞, 2013年1月29日, 生物多様性に関する研究・普及活動.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2012年11月24日, 科学研究費補助金「“生命のにぎわい”をみんなで調べる方法をさぐる」講演会, 琵琶湖博物館(草津市), 挨拶.

他の博物館・機関等主催行事

2012年4月19日, 地球環境関西フォーラム企画委員会, リーガロイヤルNCB(大阪市), 提言.

2012年5月8日, 国際高等研究所研究推進会議. 国際高等研究所(木津川市), コメント.

2012年5月11~13日, 柿田川生態系研究会阿蘇地域視察, 阿蘇地域(熊本市・阿蘇市・南阿蘇村など), 視察.

2012年5月14日, 地球環境関西フォーラム100人委員会, リーガロイヤルNCB(大阪市), 提言.

2012年5月18日, 自然保護助成基金理事会, 環境パートナーシップ(東京都), 提言.

2012年5月23日, 京都新聞社会福祉事業団理事会, 京都新聞社(京都市), 提言.

2012年5月29日, 国際高等研究所研究プロジェクト会. 国際高等研究所(木津川市), コメント.

2012年6月11日, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン(東京都), 提言.

2012年7月2日, 京都市青少年科学センター学術顧問会, 京都市青少年科学センター(京都市), 提言・コメント.

2012年9月6日, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン(東京都), 提言.

2012年9月14日, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン(東京都), 提言.

2012年9月27日, 地球環境関西フォーラム生物多様性部会, 京都キャンパスプラザ(京都市), 司会.

2012年9月30日, 淀川流域アユの見聞シンポジウム, 京都大学房齋研究所宇治川キャンパス(京都市), 講演.

2012年10月6日, 西條八束と日本陸水学の流れ:西條さんの陸水学と私, 名古屋大学博物館(名古屋市), 講演.

2012年10月8日, 国際協力研究機構水産コース:Ecological Diversity, 高知大学宇佐研究キャンパス(宇佐市), 講演.

2012年10月16日, 京都市青少年科学センター学術顧問会, 京都市青少年科学センター(京都市), コメント.

2012年10月27日, 柿田川生態系研究会シンポジウム, ホテルエルムリージェンシー(清水町), コメント.

2012年11月5日, 京都市青少年科学センター学術顧問会, 京都市青少年科学センター(京都市), 提言・コメント.

2012年11月8-9日, 河川生態学術委員会五ヶ瀬川視察, 五ヶ瀬川(延岡市), 視察.

2012年11月12日, 地球環境関西フォーラム生物多様性部会, 阪急17番街(大阪市), 司会.

2012年11月30日, 河川生態学術委員会発表会, 科学技術館(東京都), コメント.

2012年12月4日, 地球環境関西フォーラム生物多様性部会, 京都センチュリーホテル(京都市), 司会.

2012年12月8日, プロナトウラフランド助成成果発表会, こどもの城(東京都), コメント.

2012年12月16日, 自然大学:水域生態系-水と生きる, 近畿中国森林管理局(大阪市), 講演.

2012年12月19日, 日本自然保護協会参与会, 日本自然保護協会(東京都), コメント.

2012年12月25日, 国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会, 国土交通省(東京都), 座長.

2013年1月23-24日, 国際高等研究所研究推進会議. 国際高等研究所(木津川市), コメント.

2013年1月28日, 地球環境関西フォーラム生物多様性部会, 阪急17番街(大阪市), 司会.

2013年2月6-7日, 山階鳥類研究所科学研究費特定奨励費研究成果発表会・研究調整会議, 東京大学フィールドサ

イエンス（東京都），コメント．

2013年2月7日，国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会，国土交通省（東京都），座長．

2013年2月10日，さらんネット「桂川の鮎の味」，らんざん（京都市），講演．

2013年2月19日，地球環境関西フォーラム生物多様性部会，メルパルク京都（京都市），司会．

2013年2月20日，国際生物学賞委員会，日本学術振興会（東京都），コメント

2013年2月21日，世界自然保護基金ジャパン理事会，世界自然保護基金ジャパン（東京都），提言．

2013年3月5-6日，京都市青少年科学センター学術顧問会，京都市青少年科学センター（京都市），提言・コメント．

2013年3月11日，国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会，国土交通省（東京都），座長．

2013年3月11日，河川生態学術委員会，TKP東京日本橋ビジネスセンター（東京都），提言．

2013年3月15日，自然保護助成基金理事会，渋谷区文化総合センター大和田（東京都），提言．

2013年3月19日，京都新聞社会福祉事業団理事会，京都新聞社（京都市），提言．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

朝日21関西スクエア，会員．

生き物文化誌学会，評議員．

石垣島白保に空港を作らせない会，会員．

International Journal of Ecology and Environmental Biology，編集顧問．

Environmental Biology of Fishes，編集顧問．

応用生態工学会，名誉会員．

環境問題研究会，会員．

九条科学者の会，会員．

京大植物園を考える会，会員．

京都市青少年科学センター，学術顧問．

京都新聞社会福祉事業団，理事．

京の川の恵みを活かす会，顧問．

魚類自然史研究会，会員．

黒潮実感センター，会員．

国際高等研究所研究推進会議，委員．

国際生物学賞委員会，委員．

国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会，委員長．

国土交通省琵琶湖とその周辺の河川環境に関する専門家会議，アドバイザー．

子どもと川とまちのフォーラム，顧問．

自然と緑「自然大学」，教授．

生態学琵琶湖賞運営委員会，委員．

世界自然保護基金ジャパン，理事．

地球環境関西フォーラム企画委員会，委員．

地球環境関西フォーラム生物多様性，部会長．

地球環境関西フォーラム100人委員会，委員．

DIVERSTAS（生物多様性科学国際共同研究計画）科学委員会，顧問．

長良川河口堰に反対する会，会員．

長良川市民学習会，会員．

日本魚類学会，評議員．

日本自然保護協会，参与．

日本自然保護基金, 理事.
日本生態学会, 名誉会員.
日本陸水学会, 会員.
Hydrobiologia, 編集顧問.
Brazilian Journal of Biology, 編集顧問.
水俣病センター相思社, 会員.
水俣フォーラム, 会員.
八重山白保の海を守る会, 会員.
山階鳥類研究所研究推進協議会, 委員長.
リバーフロント整備センター河川・海岸環境機能等検討委員会, 委員.

印刷物

【学術論文】

布谷知夫 (2013) 博物館の社会的役割の考え方. *博物館研究*, 48(1), 日本博物館協会, 東京: 5-8.

【専門分野の著作】

布谷知夫 (2011) 梅棹忠夫. *博物館人物史(下)*, 雄山閣, 東京: 251-258.

布谷知夫 (2012) 博物館で起こる学びの性格とコミュニケーション. 黒岩啓子 編, *展示室におけるコミュニケーションと学び*, コミュニケーションツール研究会報告書, 滋賀県: 26-35.

布谷知夫 (2012) まとめ. *展示室におけるコミュニケーションと学び*, 黒岩啓子 編, コミュニケーションツール研究会報告書, 滋賀県: 88-89.

布谷知夫 (2012) 日本の博物館における教育学習の位置づけ. *ICOM-CACE アジア太平洋地区研究集会基調講演予稿集*, ICOM-CACE 委員会, 国立歴史民俗博物館, 千葉県: 5-9.

布谷知夫 (2013) 博物館の社会的役割について. *JMMA 会報*, 17(2), 日本ミュージアムマネジメント学会, 東京: 31-33.

布谷知夫 (2012) 博物館運営の中の教育学習の位置づけ. *文化庁マネジメント研修資料集*, 文化庁, 東京: 43-45.

布谷知夫・服部久士 (2013) 初めにー三重県の自然と歴史・文化. *新視点・三重県の歴史*, 山川出版社, 三重県: 2-10.

布谷知夫 (2012) 田丸道遺跡の出土木材遺物について. *平成21~23年度県営農業基盤整備事業地域(伊勢管内)埋蔵文化財発掘調査報告*, 三重県埋蔵文化財センター, 三重県: 79-82・93-95・103.

【一般向けの著作】

布谷知夫 (2012) 続・紙上博物館ー三重の姿を描くー 63 博物館を活用する人たち. *毎日新聞*: 2012年4月6日.

布谷知夫 (2012) 自然観察のテーマ・96 自然観察の効用. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 98, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会, 大阪: 2-5.

布谷知夫 (2012) 用水の利用と人々の生活. *水源の里まいばら元気みらいづくり小冊子『水と環』*, 水源の里まいばら元気みらいづくり小冊子作成委員会, 米原市・米原市教育委員会, 滋賀県: 17-18.

布谷知夫 (2012) 田んぼと水. *水源の里まいばら元気みらいづくり小冊子『水と環』*, 水源の里まいばら元気みらいづくり小冊子作成委員会, 米原市・米原市教育委員会, 滋賀県: 23-24.

布谷知夫 (2012) 水の使い方. *水源の里まいばら元気みらいづくり小冊子『水と環』*, 水源の里まいばら元気みらいづくり小冊子作成委員会, 米原市・米原市教育委員会, 滋賀県: 33-34.

布谷知夫 (2012) 琵琶湖疏水. *琵琶湖ハンドブック(改訂版)*, 滋賀県.

布谷知夫 (2012) 「博物館で学ぶ」ということ. *世界通信教育情報(三重版)*, 世界通信社, 三重県: 4-5.

布谷知夫 (2012) 新県立博物館. *津ロータリークラブ卓話会資料*, 津都ホテル, 三重県: 2-3.

布谷知夫 (2012) ミュゼとこの18年の博物館. *ミュゼ*, 100, 東京: 22.

布谷知夫 (2012) 自然観察のテーマ・97 見てわかること、見てもわからないこと. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 99, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会, 大阪府: 2-4.

布谷知夫 (2012) 三重の新博物館みんなの夢をのせて. *鈴鹿西プロバス・クラブ会報*, 143, 三重県: 3-4.

増田喜昭・布谷知夫 (2012) 子どもと、本と、博物館と. *Mie Art Press*, 3, みえミュージアム活性化事業実行委員会(三重県環境生活部文化振興課), 三重県: 1-4.

布谷知夫 (2012) 続・紙上博物館ー三重の姿を描くー 80 ハマナツメ. *毎日新聞*: 2012年9月7日.

- 布谷知夫 (2012) 博物館とミュージアム・エデュケーター. 文化庁ミュージアム・エデュケーター研修資料集, 文化庁, 東京.
- 布谷知夫 (2012) 自然観察のテーマ・98 花のオシベとメシベが動く. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 100, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会, 大阪: 2-4.
- 布谷知夫 (2012) 自然観察のテーマ・99 自然観察はどう役に立つのか. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 101, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会, 大阪: 2-4.
- 布谷知夫 (2013) 調べてまとめて発表することの楽しさ知って. *三重タイムス*: 2013年2月8日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会などでの発表】

- 布谷知夫 (2012年6月3日) 博物館の社会的役割について. 日本ミュージアムマネジメント学会研究大会, 日本ミュージアムマネジメント学会, 東京家政大学, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2012年6月13日) 館長の役割. 平成24年度全国博物館長会議, 第二部シンポジウム「館長のリーダーシップ」, 文部科学省講堂, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2012年6月17日) 展示評価の実施と成果. 第37回全日本博物館学会研究大会, 全日本博物館学会, 明治大学, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2012年7月14日) 新県立博物館ではどのような博物館をめざすのか. 日本建築学会三重支所講演会, 三重大学工学部, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2012年9月26・27日) ミュージアムエデュケーター研修. 文化庁, 東京都立美術館, [コーディネーター].
- 布谷知夫 (2012年9月26日) 博物館とミュージアム・エデュケーター. ミュージアムエデュケーター研修, 文化庁, 東京都立美術館, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2012年10月12日) 博物館長の役割. 平成24年度全国博物館長研修会, 文部科学省, 社会教育実践センター, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2012年10月16日) 地域博物館の運営. JICA 博物館集中講座, 国立民族学博物館・琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2012年11月30日) 日本の博物館における教育学習の位置づけ. ICOM-CACE アジア太平洋地区研究集会 基調講演, ICOM-CACE 委員会, 国立歴史民俗博物館, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2012年12月13日) 博物館運営の中の教育学習活動の位置づけ. 文化庁マネジメント研修, 文化庁, 日比谷図書文化館, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2013年1月15日) 博物館教育の中の課題. 関西博物館研究会, 長岡京市, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2013年2月8日) エデュケーターの考え方の整理とまとめ. 文化庁エデュケーター研修会, 文化庁, 江戸東京博物館, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2013年2月24日) 和泉葛城山のブナ林の保全の経過と現状. 「ブナ林の未来」和泉葛城山ブナ林シンポジウム, 岸和田市教育委員会・貝塚市教育委員会・大阪みどりのトラスト協会, きしわだ自然資料館ホール, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2013年3月4日) 課題整理と問題整理. 三重県立博物館研究セミナー「博物館の社会的役割・Ⅲ」, 三重県立博物館, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2013年3月23日) 地域の自然と博物館の役割. 新県立博物館シンポジウム 三重しぜん文化祭 in おわせ, 三重県立熊野古道センター, [コーディネーター].

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費補助金 (基盤 B) 「地域住民による琵琶湖沿岸の〈生命の賑わい〉総合調査の方法論と具体的手法の確立」 (研究代表者: 川那部浩哉), 連携研究者 (2010~2012年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

全日本博物館学会，運営委員。
全日本博物館学会，学会誌編集委員。
関西自然保護機構，運営委員。
博物館学雑誌，査読，2件。

【大学の講義・実習・学生の指導など】

2012年7月30日，三重県立大学小学校理科専門講座，「博物館でできること」。
2012年8月28日，三重県立博物館学芸員実習，「発表への評価とまとめ」。
2013年1月12日，滋賀県立大学集中講義，「博物館学概論A」。

博物館事業に関する業績

【交流サービス事業】

琵琶湖博物館の主催事業

2012年5月23日，琵琶湖博物館はしかけ植物観察会，長命寺山周辺，（外部協力者）。
2012年9月15日，琵琶湖博物館はしかけ植物観察の会，布施溜の植物観察，八日市市布施の溜池周辺，（外部協力者）。
2012年11月18日，琵琶湖博物館はしかけ植物観察の会，京都府立植物園の植物観察，京都府立植物園，（外部協力者）。
2013年3月10日，琵琶湖博物館はしかけ植物観察の会，甲賀市水口古城山，（外部協力者）。

他の博物館・機関等主催行事

2012年4月19日，あいさつ（博物館の目的），三重県文化振興専門員会議，三重県立博物館，講演。
2012年4月25日，三重県立新博物館について，つくしの会，三重県勤労福祉会館，講演。
2012年5月9日，博物館の評価（知事の7項目に関連して），三重県立博物館学芸ゼミ，三重県立博物館，講演。
2012年5月11日，台所の植物学（午後の部），三重県立博物館サポートスタッフミニ講座，三重県立博物館，講師。
2012年5月11日，台所の植物学（夜の部），三重県立博物館サポートスタッフミニ講座，三重県立博物館，講師。
2012年5月20日，博物館の使い方，三重県文化協会，津市中央公民館，講演。
2012年5月30日，三重の新博物館，津ロータリー，都ホテル「阿濃津」，講演。
2012年6月9日，三重県の新博物館づくり，博物館のHOT最前線2012，福井県大学連携リーグ，福井県こども歴史文化館，講演。
2012年6月28日，趣旨説明と提案，三重県立博物館研究セミナー，三重県立博物館，講演。
2012年6月29日，三重県立博物館のサポートスタッフ制度，ボランティア・コーディネーター養成研修プレ企画「なぜ、施設でボランティアを受け入れるのか？」～（人手不足だから・・・）の、その先へ～，三重県社会福祉会館，三重県社会福祉協議会，講師。
2012年6月29日，三重の新県立博物館，津市商工会議所，講演。
2012年7月1日，自然観察と自然保護，インストラクター養成講座，大阪自然環境保全協会，千里中央公園・千里中央公民館，講師。
2012年7月7日，博物館ではこんなことができます，川づくり会議，アスト津会議室，講演。
2012年7月11日，新しい博物館が誕生します，みえこどもの城，みえこどもの城（松阪市），講演。
2012年7月16日，新県立博物館はこんな博物館になります，新県立博物館みりよく発信隊説明会，総合文化センター，講演。
2012年7月19日，三重の新県立博物館，鈴鹿西プロパスクラブ，鈴鹿グリーンホテル，講演。
2012年7月28日，自由研究講座，志摩市歴史民俗資料館，三重県立博物館，講師。
2012年7月28日，里山里海について，里山・里海について館長と語ろう，志摩市生涯学習センター，三重県立博

物館，講演。

- 2012年7月29日，地域と博物館，藤原岳自然科学館リニューアルオープン記念講演会，藤原岳自然科学館，講演。
- 2012年8月12日，水源の里まいばら元気みらいづくり小冊子「水と環」発刊記念おはなし会（布谷知夫、桑村邦彦、三輪信彦、金尾滋史、中の栄美子），ルッチプラザ（米原市民交流プラザ），米原市水源の里振興室，講演。
- 2012年9月2日，紀伊の森と人の暮らし，企画展示「熊野の森と人の暮らし」記念講演会，熊野古道センター，講演。
- 2012年9月9日，新しい博物館でこんなことができます，鈴鹿市立郡山小学校PTA 野外活動サークル，郡山公民館，講師。
- 2012年9月23日，博物館とその利用者との関係，サポスタ意見交流会，三重県立博物館，津市県事務所会議室，講演。
- 2012年9月28日，森を見に行こう，第465回自然観察指導員講習会兵庫，NACS-J 日本自然保護協会・兵庫県自然観察指導員連絡会，兵庫県西宮市甲山自然の家，講師。
- 2012年9月28日，自然観察のテーマひろい，第465回自然観察指導員講習会兵庫，NACS-J 日本自然保護協会・兵庫県自然観察指導員連絡会，兵庫県西宮市甲山自然の家，講師。
- 2012年9月29日，自然の観察，第465回自然観察指導員講習会兵庫，NACS-J 日本自然保護協会・兵庫県自然観察指導員連絡会，兵庫県西宮市甲山自然の家，講師。
- 2012年10月8日，自然観察から始まる自然保護，和歌山県自然公園指導員自然観察研修，和歌山県風土記の丘展示館，講師。
- 2012年10月8日，自然観察のテーマさがし，和歌山県自然公園指導員自然観察研修，和歌山県風土記の丘公園，講師。
- 2012年11月2日，三重の新県立博物館と展示づくり，芸濃町公民館寿大学，芸濃町公民館，講演。
- 2012年11月10日，新博物館にかける想い，津市西地区自治会連合会生涯学習講座，総合学習センター，講演。
- 2012年11月11日，自然観察指導員の活動紹介，大阪自然史フェスティバル，大阪自然史博物館，大阪自然史博物館，講演。
- 2012年12月11日，新しい県立博物館を作ります，鈴鹿市郡山公民館さわやか教室，鈴鹿市郡山公民館，講演。
- 2012年12月23日，利用者と共に歩む博物館，亀岡市文化資料館リニューアル準備講演会，亀岡市文資料館，講演。
- 2013年3月16日，伊勢志摩の里山とその恵み，伊勢志摩国定公園講演会，伊勢志摩国定公園横山ビジターセンター，講演。
- 2013年3月17日，まちと文化とまちかど博物館，伊勢まちかど博物館開館20周年記念講演会，伊勢まちづくり会議，伊勢商工会議所，講演。
- 2013年3月20日，記憶を形にする意味（ごあいさつ），シンポジウム「戦前の津の町を復元する」，津文化協会，あのつ画廊，講演。

メディアへの協力

- 2012年7月23日，三重テレビ，「とってもワクドキ」とっても輝人，出演。
- 2013年1月7日，三重テレビ，出演，（2012年12月20日取材）。
- 2013年1月号，伊勢人，伊勢人インタビュー。
- 2013年1月29日，三重タイムス，登場・輝いて，インタビュー対応。
- 2013年3月4日，職員研修月刊誌，三重県総合博物館 館長の夢に向けて，インタビュー対応。

【展示活動】

他博物館・機関の活動

- 伊勢安土桃山文化村，2012年10月13日，木材の性質と利用，みえ森林フェアで展示。
三重県立新博物館，展示計画・作成の指導。

館内の人事・館外活動に関すること

【館外の活動】

- 2012年4月1日～2013年3月31日、三重県立博物館館長.
- 2012年4月1日～2013年3月31日、放送大学「博物館概論」担当講師.
- 2012年4月1日～2013年3月31日、滋賀県立大学非常勤講師.
- 2012年4月1日～2013年3月31日、文化庁研修企画運営委員会、座長.
- 2012年4月1日～2013年3月31日、和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会、委員・会長代理.
- 2012年4月1日～2013年3月31日、タカラフォールディング助成評価委員会、委員.
- 2012年4月1日～2013年3月31日、国立歴史民俗博物館展示更新検討委員会、委員.
- 2012年4月1日～2013年3月31日、守山市下之郷保存整備活用基本計画検討部会、委員.
- 2012年4月1日～2013年3月31日、関西自然保護機構、運営委員.
- 2012年4月1日～2013年3月31日、日本自然保護協会普及委員・自然観察指導員講習会講師.
- 2012年4月1日～2013年3月31日、鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会、委員.
- 2012年4月1日～2013年3月31日、NACS-J自然観察指導員大阪連絡会、代表.

印刷物

【専門分野の著作】

Nakajima, T. (2012) Origin and Temporal Succession of the Cyprinid Fish Fauna in Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 17-23.

【一般向けの著作】

中島経夫 (2012) 琵琶湖の景観と未来 うおの会の取り組みから. 内山純蔵・カティ=リンドストローム 編, *東アジア内海文化圏の景観史と環境 第3巻 景観から未来へ*, 昭和堂, 京都: 262-283.

中島経夫 (2012) 鯉を食べる歴史と文化. *月刊食生活*, 106: 26-30.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中島経夫 (2013年3月14日) 新石器時代における漁撈と稲作の関係. 第2回国際シンポジウム「稲作はこうして始まった 魚と人の出会いから」, 科研費基盤B「水辺エコトーンにおける魚と人: 稲作起源論への新しい方法」, 岡山理科大学, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤 B) 「水辺エコトーンにおける魚と人: 稲作起源論への新しい方法」 (研究代表者: 中島経夫), 研究代表者 (2010~2013年度).

科学研究費補助金 (基盤 A) 「中国における都市の生成: 良渚遺跡群の学際的総合研究」 (研究代表者: 中村慎一), 連携研究者 (2010~2013年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年4月12日~7月19日, 岡山理科大学生物地球学部学生, 生物科学概論1.

2012年4月10日~7月17日, 岡山理科大学大学院総合情報研究科大学院生, 脊椎動物学特論.

2012年5月14日, 21日, 岡山理科大学総合情報学部学生, 生物学実験1.

2012年6月1日, 22日, 岡山理科大学生物地球学部学生, 野外調査法.

2012年6月23日, 岡山理科大学生物地球学部学生, 生物地球概論.

2012年5月30日, 6月27日, 7月4日, 岡山理科大学総合情報学部学生, 生物実験2.

2012年10月10日, 12月5日, 12日, 岡山理科大学総合情報学部学生, 生物実験3.

2012年4月4日~2013年3月19日, 岡山理科大学総合情報学部学生3名, 卒業研究.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2012年5月26日，琵琶湖の景観と未来，環境学センター指導者トレーニング講座，環境学習センター「アスエコ」(岡山市)，講義.

2012年7月28日，琵琶湖の環境はどのようにしてできあがったか，岡山自然保護活動推進員委嘱式，岡山市環境課，岡山ふれあいセンター(岡山市)，講演.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2012年4月1日～，岡山理科大学生物地球学部，教授.

2012年4月1日～，岡山理科大学大学院総合情報学研究科，教授.

2011年4月1日～，総合地球環境学研究所，客員教授.

印刷物

【専門分野の著作】

- Kawanabe, H., Nishino, M., Maehata, M. ed. (2012) *Lake Biwa, Interactions between Nature and People*. Springer, Dordrecht: xvii+xii+744 p.
- Maehata, M. (2012) Characteristics of the Ichthyofauna of Lake Biwa, with special reference to its long-term changes. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 119-122.
- Maehata, M. (2012) The use of Lake Biwa and people's lifestyle. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 309.
- Maehata, M. (2012) Fisheries in and Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 311.
- Fujioka, Y., Maehata, M. (2012) Recent changes in the Lake Biwa fisheries. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 313-316.
- Fujioka, Y., Maehata, M. (2012) Various fishing methods in and around Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 317-326.
- Fujioka, Y., Maehata, M. (2012) Propagation and conservation of fishery resources. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 327-329.
- Maehata, M. (2012) Topic 21 Lake Biwa Canals. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 415-416. Springer, Dordrecht.
- Maehata, M. (2012) Environmental conservation of Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 419.
- Maehata, M. (2012) Loss and reestablishment of water networks comprising rice fields, waterways and Lake Biwa: Implications for fish populations. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 455-458.
- Maehata, M., Moriyasu, K. (2012) Water level management trials for conserving the Lake Biwa ecosystem. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 459-462.
- Maehata, M., Hori, A. (2012) Topic 22 Project for restoring paddy fields as nursery grounds for fishes. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 503-504.
- Nishino, M., Yoda, M., Maehata, M. eds. (2012) Appendix. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 515-732.
- 前畑政善 (2012) 魚はなぜ田んぼをめざすのか, *全国湖沼河川養殖研究会第85大会要録*, 滋賀県: 8-16. Nishimura, Y., Ohtsuka, T., Yoshiyama, K., Nakai, D., Shibahara, F. and Maehata, M. (2012) Cascading effects of larval Crucian carp introduction on phytoplankton and microbial communities in a paddy field: top-down and bottom-up controls. *Ecological Research*.

【一般向けの著作】

- 前畑政善 (2011) 魚類の概要. 滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック 2010 年度版), 滋賀県生きもの総合調査委員会 編: 486.
- 前畑政善 (2011) スジシマドジョウ小型種琵琶湖型、スジシマドジョウ大型種、ギギ、イワトコナマズ、ビワコオオナマズ、ウナギ、ナマズ、アユ、ニッポンバラタナゴ. 滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック 2010 年度版), 滋賀県生きもの総合調査委員会 編: 488-509.
- Maehata, M. (2011) Peer-review of on *Silurus asotus*. Invasive Species Compendium (Beta), Compendium Programme, United Kingdom: www.cabi.org/isc (cited on 25, March, 2012).

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 金尾滋史・舟尾俊範・田和康太・前畑政善・沢田祐一 (2012 年 9 月 22 日) 滋賀県内における魚類が利用可能な水田とその現状. 2012 年度 魚類学会年会, 水産大学校, [ポスター発表].
- 前畑政善 (2012 年 9 月 6 日) 魚はなぜ田んぼをめざすのか. 2012 年度 全国湖沼河川養殖研究会第 85 大会, ピアザ淡海 (大津市), [基調講演].
- 前畑政善 (2012 年 9 月 16 日) 魚が田んぼへやってくるわけ. マザーレークフォーラム, コラボ滋賀 (大津市), [口頭発表].
- 前畑政善 (2012 年 11 月 3 日) 事例報告 2: 魚はなぜ田んぼへやってくるのか. 琵琶湖博物館第 20 回企画展示ニゴロの大冒険シンポジウム『魚が田んぼに魚がやって来た!』, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].
- 水野敏明・大塚泰介・金尾滋史・小川雅広・舟尾俊範・前畑政善 (2012 年 12 月 23 日) ニゴロとナマズの好みの水路に違いはあるの?. 第 3 回 琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館 (草津市).
- 村上靖昭・前畑政善 (2011 年 7 月 9 日) 博物館における展開「うおの会」の活動を例に. 2011 年度 魚類学会公開シンポジウム「身近な魚たちの保全—水辺の環境教育を考える」, 近畿大学奈良キャンパス, [口頭発表].
- 前畑政善 (2012 年 3 月 18 日) 水田利用魚類を媒介として田んぼと湖の関係を探る. 日本生態学会第 59 回大会, 龍谷大学, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費補助金 (基盤 C) 「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と調査手法の確立」 (研究代表者: 川那部浩哉), 研究分担者 (2010~2012 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本魚類学会, 日本魚類学会自然保護委員会, 委員, 2001 年 6 月~.
- 淡水魚保全研究会, 常任理事, 2004 年 10 月~.

【研究部関連事業】

- 英語本「Lake Biwa: Interaction between human and nature」, 編集委員会, 主担当, 2009~2012 年度.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 2011 年 4 月~2012 年 3 月, 野洲市環境審議会 (滋賀県), 委員.
- 2011 年 4 月~2014 年 3 月, 長浜市文化的景観保存活用委員会 (滋賀県), 委員.
- 2011 年 5 月~2012 年 3 月, 外来種中国産オオサンショウウオ対策検討会 (京都市), 委員
- 2002 年 9 月~2012 年 3 月, みずすまし専門部会 (生態系保全専門部会) (滋賀県農政水産部農村振興課), 部会員.

2000年5月～2012年3月，滋賀県生きもの総合調査委員会（滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課），委員（魚貝類部会長）。

2008年6月～2012年3月，指定希少野生動物種および指定外来種に関する選定専門委員（滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課）。

2007年6月～2012年3月，農村まるごと保全推進委員会（滋賀県農政水産部農村振興課），委員。

2008年2月～2012年3月，ゆりかご水田ネットワーク委員会（滋賀県農政水産部），委員。

2010年～，ハリヨ問題検討会，委員。

2004年4月～，丹生ダム環境保全対策懇談会（国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所），委員。

2010年3月～2012年3月，近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会（(独)水資源機構），委員。

2011年7月～2012年3月，日吉ダム冷濁水対策検討会（(独)水資源機構），委員。

2011年6月～2012年3月，京都府建設交通部河川課，畑川ダム環境保全検討委員会，委員。

2008年5月～2012年3月，琵琶湖および周辺河川環境に関する専門家グループ制度（国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所），委員。

2009年7月～2012年6月30日，クニマスワーキンググループ（環境省自然環境局），委員。

2009年7月～2012年6月30日，希少野生動植物種保存推進員（環境省自然環境局）。

2004年8月～2012年3月，絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会（環境省自然環境局），検討員（淡水魚類作業部会）。

2012年4月～，神戸学院大学人文学部教授。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Nakano, S., Amano, H., Hiroishi, S., Hodoki, Y., Honma, T., Kataoka, T., Kobayashi, Y., Kondo, R., Ohbayashi, K., Okuda, N., Takao, Y., Tanabe, Y., Tanaka, T. and Watanabe, M. (2012) Ecophysiology and phylogeography of bloom-forming cyanobacterium *Microcystis aeruginosa* in Asian eutrophic lakes. ISRLE2012 -The 15th international symposium on river and lake environments, Zhangjiajie Wanfu International Hotel, Zhangjiajie, Hunan, China. [口頭発表].
- Amano, H., Hodoki, Y., Ohbayashi, K. and Nakano, S. (2012) Dispersal of bloom-forming cyanobacteria by waterbirds: Retention time of *Microcystis aeruginosa* in the digestive tract of ducks and its growth ability afterwards. The 7th symposium on Limnology and Aquatic birds, Naturum visitors centre in the biosphere reserve, Kristianstad, Sweden, [ポスター発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2013年2月23日, 鳥の観察会, 観察会, 瀬田川・大津市, 補佐, (ホテルの学校・琵琶湖博物館共催).
- 2013年3月24日, 川虫探検, 観察会, 藤ノ木川・大津市, 補佐.

印刷物

【学術論文】

根上裕成・中西俊貴・喜岡 新・井内美郎 (2012) 琵琶湖高島沖ボーリング試料中の生物源シリカ含有率から復元された過去約 15 万年間の東アジア夏季モンスーン変動. 第 22 回環境地質学シンポジウム論文集, 22, 地質汚染-医療地質-社会地質学会: 57-62.

【専門分野の著作】

Matsuda, O. and Inouchi, Y. et al. (2012) 13 Western Japan cluster: Seto Inland Sea as Satoumi. *Duraiappah, A. K. et al. eds., Satoyama-Satoumi Ecosystems and Human Well-Being*, United University Press, Tokyo: 381-402.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

公文富士夫・河合小百合・井内美郎 (2012 年 5 月 20 日) 長野県、青木湖堆積物から解析した過去 34,000 年間の気候と植生の変遷. 地球惑星科学関連学会 2012 年合同大会, 日本地球惑星連合, 幕張メッセ (千葉市), [ポスター発表].

井内美郎・中村祐貴・公文富士夫・井上卓彦・近藤洋一 (2012 年 5 月 21 日) 長野県北部野尻湖の湖水位変動と人間生活への影響. 地球惑星科学関連学会 2012 年合同大会, 日本地球惑星連合, 幕張メッセ (千葉市), [ポスター発表].

根上裕成・中西俊貴・喜岡 新・岩本直哉・井内美郎 (2012 年 5 月 24 日) 琵琶湖試料中の生物源シリカ含有率の過去約 10 万年間の変動とその要因. 地球惑星科学関連学会 2012 年合同大会, 日本地球惑星連合, 幕張メッセ (千葉市), [ポスター発表].

村越貴之・根上裕成・井内美郎 (2012 年 5 月 24 日) 琵琶湖高島沖コアの生物源シリカ濃度から見た過去約 12~25 万年間における気候変動. 地球惑星科学関連学会 2012 年合同大会, 日本地球惑星連合, 幕張メッセ (千葉市), [ポスター発表].

中村祐貴・井内美郎・公文富士夫・井上卓彦・近藤洋一 (2012 年 5 月 24 日) 長野県野尻湖における過去約 4.5 万年の湖水面高度変動とその要因. 地球惑星科学関連学会 2012 年合同大会, 日本地球惑星連合, 幕張メッセ (千葉市), [ポスター発表].

行木勝彦・井内美郎・岩本直哉 (2012 年 5 月 24 日) 群馬県北東部の丸沼湖底堆積物からみた過去約 80 年間の洪水記録. 地球惑星科学関連学会 2012 年合同大会, 日本地球惑星連合, 幕張メッセ (千葉市), [ポスター発表].

Inouchi, Y., Nakamura, Y., Kumon, F., Inoue, T. and Kondo, Y. (2012 年 8 月 7 日) Lake-level change history of Nojiriko and its impact to human society. The 34th International Geological Congress (34IGC), International Union of Geological Sciences, Brisbane, [poster].

行木勝彦・井内美郎・岩本直哉 (2012 年 9 月 15 日) 群馬県北東部の丸沼湖底堆積物からみた過去約 80 年間の洪水記録. 日本地質学会第 119 年学術大会, 日本地質学会, 大阪府立大学 (堺市), [ポスター発表].

井内美郎・中村祐貴・公文富士夫・井上卓彦・近藤洋一 (2012 年 9 月 15 日) 野尻湖湖水位変動史から推定される近未来の水収支と人間生活への影響. 日本地質学会第 119 年学術大会, 日本地質学会, 大阪府立大 (堺市), [ポスター発表].

根上裕成・中西俊貴・喜岡 新・井内美郎（2012年9月15日）琵琶湖高島沖ボーリング試料中の生物源シリカ含有率から推定される過去約12万年間の高分解能古気候変動. 日本地質学会第119年学術大会, 日本地質学会, 大阪府立大学（堺市）, [ポスター発表].

村越貴之・根上裕成・井内美郎（2012年9月15日）琵琶湖高島沖コア中の生物源シリカ濃度からみた過去約12～25万年における気候変動. 日本地質学会第119年学術大会, 日本地質学会, 大阪府立大学（堺市）, [ポスター発表].

根上裕成・中西俊貴・喜岡 新・井内美郎（2012年12月7日）琵琶湖高島沖ボーリング試料中の生物源シリカ含有率から復元された過去約15万年間の東アジア夏季モンスーン変動. 第22回環境地質学シンポジウム, 地質汚染－医療地質－社会地質学会, 産業技術総合研究所（つくば市）, [ポスター発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2013年1月19日, 琵琶湖に残る環境変化の記録, 連携講座「琵琶湖 自然と文化」 第3回 琵琶湖湖底の謎を探る, 琵琶湖博物館, 講演.

印刷物

【専門分野の著作】

Ueda, F. (2012) 4.1.1 Life in the Jomon and Yayoi Periods. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 243-248.

植田文雄 (2012) 縄文時代ヤナ遺構の再検討. *淡海文化財論叢*, 四, 淡海文化財論叢刊行会: 23-28.

植田文雄 (2013) 湖の恵みー琵琶湖の漁業史①. *佐加太*, 37, 米原市教育委員会: 2-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

植田文雄 (2012年12月4日) エリとヤナの漁業史. 米原市歴史講座, 伊吹山文化資料館 (米原市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤C) 「内水面の定置漁業の考古・民俗学的研究」 (研究代表者: 植田文雄), 研究代表者 (2009～2013年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構, 研究部長.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年度前期, 佛教大学, 「博物館学Ⅲ」.

2012年度前期, 佛教大学, 「考古学特講1ー縄文文化の東西」.

2012年度後期, 佛教大学, 「博物館実習講義 A」.

2012年度後期, 佛教大学, 「考古学特講2ー日本列島における王権の発生と古代国家の成立」.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006年度～, 東近江市史編纂委員会, 調査執筆委員.

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

- Kashio, T. (2012) Female farmers in Shiga Prefecture. In: Kawanabe, H., Nishino, M., and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer, Dordrecht: 365-367.
- 柏尾珠紀 編著 (2012) 風渡る里のあゆみー上山の昭和・平成史ー. 紀書房: 1-3 節.
- 柏尾珠紀 (2012) 人と水のかかわり 水紀行環境用水万華鏡. *環境技術*, 41 (10), 環境技術学会 編: 639-643.
- 柏尾珠紀 (2012) 水辺再生に見られる地域住民の水意識. 秋山道雄・澤井健二・三野 徹 編著, *環境用水*, 技報堂: 97-109.
- 柏尾珠紀 (2012) 都市近郊農村における環境用水の可能性: 新潟市亀田郷の事例から. 秋山道雄・澤井健二・三野 徹 編著, *環境用水*, 技報堂: 181-188.
- 柏尾珠紀 (2012) 住民の水意識と環境用水導入の際の課題 Environmental Water Maintenance の研究ー農業用水路網等における環境のための用水管理を、地域社会で支える仕組みづくりについて. *ニッセイ財団研究助成費研究最終報告書*: 2-4.
- 柏尾珠紀 (2012) 地元の望む水辺環境と行政のまちづくり 「Environmental Water Governance」の研究ー都市の水辺再生を、地域との連携で支える仕組みづくりについて. *河川環境財団河川整備基金助成事業報告書*: 11-15.

【一般向けの著作】

- 柏尾珠紀 (2012) ここだけの湖の話ー琵琶湖博物館の研究セミナー再現ー4 おかず漁の女性たち 暮らし方変化で消滅. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2012年5月31日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 柏尾珠紀 (2012年4月20日) 滋賀の女性の水田漁労ー昭和30年代前後の農村地域においてー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].
- 柏尾珠紀 (2012年10月27日) 若者の残る島ー兵庫県姫路市家島の調査よりー. 日本村落研究学会第60回大会自由論題報告, 日本村落研究学会, 智頭町旧山郷小学校(鳥取県智頭町), [口頭発表].
- 柏尾珠紀 (2012年11月15日) 島の若者の就学行動とその変化. アジア社会研究会, 立命館大学(滋賀県草津市), [口頭発表].
- 柏尾珠紀 (2013年3月2日) 環境保全活動における住民参加の可能性. 滋賀大学環境総合研究センター第9回年次シンポジウム, 滋賀大学環境総合研究センター, 滋賀県大津市コラボ 21(滋賀県大津市), [口頭発表・パネリスト].

【研究プロジェクト等への参加】

- 総合地球環境学研究所プロジェクト「水土の知 愛知川章」(研究代表者: 渡邊紹裕), 研究分担者(2011~2015年度).
- 科学研究費補助金「環瀬戸内海圏農林漁業地域における女性、若者、高齢者の生活原理に関する総合的研究」(研究代表者: 藤井和佐), 連携研究者(2010~2012年度).
- 河川環境財団河川整備基金助成事業「『Environmental Water Governance』の研究ー都市の水辺再生を地域との連携

で支える仕組みづくりについて」(研究代表者：秋山道雄)，共同研究者 (2012 年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012 年前期，龍谷大学，「特殊社会学講義 A 農村社会学」「経済社会学」，非常勤講師.

2012 年後期，龍谷大学，「環境と社会」「コミュニティ論」「びわ湖・滋賀学」，非常勤講師.

2012 年 12 月 26 日～28 日，滋賀大学，「おうみと琵琶湖 I」，非常勤講師.

2013 年 2 月 12 日～2 月 15 日，高知大学，「国際社会特殊講義IV」，非常勤講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2009 年～，京都府中山間地域等直接支払制度委員会，委員.

2011 年 7 月～，兵庫県立家島高等学校学校評議会，委員.

2011 年 4 月～，京丹後市、丹後広域振興局、第 2 次ふるさと協援活動事業，調印.

印刷物

【専門分野の著作】

北村美香（2012）地域と共に発展する場の形成をめざして．*JMMA 会報*, 17（64・65）2, 日本ミュージアム・マネジメント学会：35-37.

【一般向けの著作】

北村美香（2013）70年まえの学習機の引き出し．*Duet*, 108, サンライズ出版株式会社：9.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

北村美香（2012年6月3日）地域と共に発展する場の形成をめざして．第17回研究大会，日本ミュージアム・マネジメント学会，東京家政学院大学（東京都），[口頭発表].

日高昭子・北村美香（2012年6月17日）地域と共に発展する場の形成をめざして．第38回研究大会，全日本博物館学会，明治大学（東京都），[口頭発表].

北村美香（2013年1月19日）飛行場と共に発展したまち 八日市飛行場．第162回湖灯塾，京都新聞社，近江八幡市，[口頭発表].

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年9月～2013年3月，びわこ学院大学子ども学科，「滋賀の環境」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2012年8月2日，夜のワークショップ，第36回自然調査ゼミナール，滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会，琵琶湖博物館，講師.

他の博物館・機関等主催行事

2012年4月29日，びわ湖のヨシでヨシ笛をつくろう！，びわ湖ホール，ラ・フォル・ジュルネびわ湖2012 キッズプログラム，びわ湖ホール，講師.

2012年10月20日・10月27日，ヨシ笛作り観察会，近江鉄道ゆうグループ，新海・薩摩地区「南三ツ谷」・曾根沼地区「曾根沼」志那地区「志那-1」・堅田雄琴地区「衣川」，講師.

【展示活動】

他博物館・機関の活動

滋賀県平和祈念館，2012年7月22日，八日市飛行場展示，博物館による環境と科学のフェスティバル（ビバシテイ彦根）.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県平和祈念館，学芸員.

博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会，実行委員.

博学連携ワークショップ，企画委員.

印刷物

【専門分野の著作】

- 黒岩啓子・高橋 徹 (2012) 総合メディアとしての博物館の情報デザイン. *日本展示学会誌*, 50, 日本展示学会: 126-127.
- 黒岩啓子 (2012) 展示見学補助ツールの分類整理の試み. *第38回研究大会発表要旨集*, 全日本博物館学会: 31-32.
- 黒岩啓子 (2012) ミュージアムにおける乳幼児連れ利用者対応に関する一考察. *日本ミュージアム・マネジメント学会会報*, 17 (64・65) 2, 日本ミュージアム・マネジメント学会: 79-81.
- 黒岩啓子 (2012) 博物館実習を通じた人材育成. *平成23年度博物館実習Report 2011*, 福井大学教育地域科学部: 38-39.
- 黒岩啓子 (2012) Museum 2012 第3回博物館研究国際会議 The Socially Purposeful Museum に参加して. *全日本博物館学会ニュース*, 103, 全日本博物館学会: 10-11.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 黒岩啓子・川人よし恵・内田みや子 (2012年6月3日) ミュージアムにおける乳幼児連れ利用者対応に関する一考察. 第17回大会, 日本ミュージアム・マネジメント学会, 東京家政学院大学 (東京都千代田区), [口頭発表].
- 黒岩啓子 (2012年6月17日) 展示見学補助ツールの分類整理の試み. 第38回研究大会, 全日本博物館学会, 明治大学 (東京都千代田区), [口頭発表].
- 黒岩啓子・高橋 徹 (2012年6月23日) 総合メディアとしての博物館の情報デザイン. 第31回研究大会, 日本展示学会, 東京学芸大学 (東京都小金井市), [口頭発表].
- 黒岩啓子 (2012年9月12日) ミュージアムにおける子どもの学びのサポート. 第1回公開研究会「子どもの学びの見つめ方」, キッズプラザ大阪「子どもの遊びと学び」研究会, キッズプラザ大阪 (大阪府大阪市), [講演].
- 角川咲江・武藤恭子・黒岩啓子 (2012年11月17日) 平成24年度後期企画展「新・西堀語録展～今に生きることば」アンケート集計結果と語録の長さについて. 第3回大会「笑いとことわざ」, 日本ことわざ文化学会, 明治大学 (東京都千代田区), [第一執筆者角川による口頭発表].
- 黒岩啓子 (2012年11月21日) Museum Experience for Mutual Understanding. 第3回博物館研究国際大会「The Socially Purposeful Museum」, Museum 2012, 国立台北教育大学 (台湾台北市), [口頭発表].
- 黒岩啓子 (2012年12月1日) 社会変革のための博物館教育. ICOM-CECA アジア太平洋地区研究集会, 国立歴史民俗博物館 (千葉県佐倉市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費補助金「公立ミュージアムでの評価導入・運営の検証と評価パッケージの提案」(研究代表者:佐々木 亨), 研究協力者 (2012年11月～).
- キッズプラザ大阪「子どもの遊びを通じた学び」研究会, 研究代表者 (2012年1月～2013年3月).
- 国立民族学博物館「文化資源プロジェクト博学連携教員研修ワークショップ」(研究代表者:小林繁樹), 共同研究員 (2012年4月～).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本ミュージアム・マネジメント学会，基礎部門研究部会幹事，2009年4月～。

日本ミュージアム・マネジメント学会，近畿支部幹事，2009年4月～。

キッズプラザ大阪「子どもの遊びと学び」研究会第1回公開研究会「子どもの学びの見つめ方」の司会進行，2012年9月12日。

日本ミュージアム・マネジメント学会基礎部門研究部会，平成24年度第1回研究発表会の企画担当，2012年6月～10月，司会進行，2012年10月14日。

日本ミュージアム・マネジメント学会基礎部門部会・近畿支部会 合同研究会の企画担当，2012年12月～2013年2月，司会進行，2013年2月2日。

エデュネット関西勉強会，第3回実践編勉強会の企画・司会進行，2012年12月17日。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年4月～，奈良女子大学，「博物館教育論」，非常勤講師。

2012年4月～，京都光華女子大学，「博物館教育論」，非常勤講師。

2012年9月～，関西学院大学，「博物館教育論」，非常勤講師。

【受賞など】

日本ミュージアム・マネジメント学会賞，2012年6月2日，博物館教育の分野での活動の高い評価と学会運営への貢献を評価された。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2012年8月26日，移動展示「海の恵みとにぎわい～英虞湾と熊野灘から」展示評価，三重県立博物館，志摩市歴史民俗資料館（三重県志摩市），外部評価者。

2012年11月8日，12月20日，2013年1月26日，3月19日，東近江市博物館グループ 博物館評価ワーキンググループ，能登川博物館，西堀榮三郎記念探検の殿堂，近江商人博物館（滋賀県東近江市），外部協力者。

2012年8月7日，博学連携教員研修ワークショップ2012 in みんなく「学校と博物館でつくる国際理解教育－新しい学びをデザインする－」，国立民族学博物館（大阪府吹田市），「みんなくシアター：展示から劇活動へ」プログラム実施協力。

2012年12月21日，2月12日，3月28日，三重県立博物館 博物館評価ワーキンググループ，三重県立博物館（三重県津市），外部協力者。

【展示活動】

他博物館・機関の活動

西堀榮三郎記念探検の殿堂，2012年8月～9月，平成24年度後期企画展「新・西堀語録展～今に生きることば」の展示用語録英訳。

吹田市立博物館，2012年2月～，平成25年度夏季展示実行委員会オブザーバー・展示アドバイザー。

【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース，Museum Evaluation Methods，Evaluation of the LBM，講師，2012年10月17日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2012年11月19日～23日、台湾 台北市、国際台北教育大学で開催された第3回博物館研究国際大会「Museum 2012: The Socially Purposeful Museum」に出席および口頭発表。

【館外の活動】

2003年9月～、日本ミュージアム・マネージメント学会、会員。

2003年9月～、全日本博物館学会、会員。

2005年4月～、関西博物館研究会、会員。

2006年2月～、日本国際理解教育学会、会員。

2009年4月～、日本ミュージアム・マネージメント学会基礎部門研究部会、幹事。

2009年4月～、日本ミュージアム・マネージメント学会近畿支部、幹事。

2010年10月～、日本展示学会、会員。

2011年3月～、子育てがもっと楽しくなるミュージアムづくり研究会、会員。

2012年1月～2013年3月、キッズプラザ大阪「子どもの遊びと学び」研究会、研究代表者。

2012年3月～、子育てがもっと楽しくなるミュージアムづくり研究会、副事務局長。

2012年3月～、文化遺産国際協力コンソーシアム、会員。

2012年4月～、国立民族学博物館文化資源共同研究員。

2012年8月～9月、福井県立若狭歴史民俗資料館リニューアル展示基本設計業務プロポーザルに係る展示設計等、(株)日展企画設計チームメンバー。

2012年11月～12月、国立民族学博物館平成25年度本館展示新構築に係る展示設計等、(株)日展企画設計チームメンバー。

印刷物

【専門分野の著作】

- 鈴木隆仁 (2012) 大阪大学豊中キャンパスから発見された2種のイタチムシ(1). *うみうし通信*, 74, 水産無脊椎動物研究所: 4-5.
- 鈴木隆仁 (2012) 大阪大学豊中キャンパスから発見された2種のイタチムシ(2). *うみうし通信*, 75, 水産無脊椎動物研究所: 6-7.
- 鈴木隆仁 (2012) 腹毛動物. 日本進化学会 編, *進化学辞典*, 共立出版: 242.
- 鈴木隆仁 (2012) イタチムシ. 日本比較生理生化学会 編, *研究者が教える動物飼育 第1巻—ゾウリムシ ヒドラー エビなど—*, 共立出版: 70-74.
- 鈴木隆仁 (2013) 日本で見られる様々なイタチムシ. *タクサ 日本動物分類学会誌*, 34, 日本動物分類学会: 11-17.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 鈴木隆仁・常木和日子・古屋秀隆 (2012年6月10日) 水田から発見された *Lepidoderme11a* の未記載種. 第48回日本動物分類学会千葉大会, 東邦大学習志野キャンパス (船橋市), [ポスター発表].
- 鈴木隆仁・古屋秀隆 (2012年9月13日) 淡水イタチムシの培養. 第83回日本動物学会大阪大会, 大阪大学豊中キャンパス (豊中市), [口頭発表].
- 鈴木隆仁・古屋秀隆 (2012年9月13日) 日本で見られる様々なイタチムシ. 第83回日本動物学会大阪大会, 日本動物分類学会シンポジウム, 大阪大学豊中キャンパス (豊中市), [口頭発表].
- 鈴木隆仁 (2012年12月23日) 水田から発見された新属新種のイタチムシ. 第3回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2013年2月9日, 新種イタチムシと織毛虫, 新琵琶湖学セミナー 第3回 琵琶湖をとりまく新発見, 琵琶湖博物館 (草津市), 講演, (楠岡 泰と共同).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 琵琶湖博物館第20回企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生きものにぎわい～」, 腹毛類のパネル撮影協力、図録の執筆協力.
- 琵琶湖博物館ギャラリー展示「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見 Big Discoveries in a Small World; Exploring the Aquatic Habitats of Shiga」, 腹毛類のパネル撮影協力.

印刷物

【専門分野の著作】

辻川智代 (2013) 滋賀県周辺の「地機」. *はたやブックレット 2*, ゆめおーれ勝山 : 51-68.

【一般向けの著作】

辻川智代 (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～3 農具からみた地域性. *毎日新聞*, 毎日新聞社 : 2012年5月3日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

辻川智代 (2012年6月17日) 滋賀県周辺の「地機」. 第1回はたや研究会 白山周辺の「地機」とその地域性, ゆめおーれ勝山 (福井県勝山市), [口頭発表].

辻川智代 (2012年9月20日) 農具から近江の地域性を探る一鋤を中心に. 米原市歴史講座, 伊吹山文化資料館 (米原市), [講演].

辻川智代 (2012年11月18・19日) 琵琶湖周辺の民具について. 民具名称に関する基礎的研究グループ 平成24年度第5回研究会, 神奈川大学日本常民文化研究所 (神奈川県横浜市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤C) 「内水面定置漁業の考古・民俗学的研究」 (研究代表者: 植田文雄), 共同研究者 (2012年度).

日本常民文化研究所共同研究「民具の名称に関する基礎的研究」 (研究代表者: 神野善治), 共同研究者 (2012年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年, 龍谷大学国際文化学部, 民俗学入門「琵琶湖の漁業」「滋賀県の農業」「滋賀県の機織り」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営, 近江はたおり探検隊, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年7月14日～11月25日, ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～, 展示・パネル作成.

2013年2月20日～3月17日, 新空間展示「村の至宝 湧水と井戸」, 展示・パネル作成.

印刷物

【一般向けの著作】

中野正俊 (2012) 学校教育における昆虫学習の実際. ジャン・アンリ・ファーブルの時間, 日仏友好百五十年記念国際シンポジウム『ジャン・アンリ・ファーブル』実行委員会, 東海大学出版会: 113-122.

中野正俊 (2012) 活用力を高め合う問題解決学習の創造…実感を伴った理解を求めて…: 教とともに学び、自ら伸びゆく子どもが育つ授業デザイン, 滋賀大学教育学部附属小学校: 70-81.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中野正俊 (2012年11月2日) 既存のとらえ方を活かし合い、科学的な見方や考え方を育む学習の工夫. 第45回全国小学校理科研究大会 学年別分科会, 全国小学校理科研究協議会, 神奈川県横浜市, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金(基盤C)「防災・エネルギー教育を推進する博物館・学校・地域連携モデルの構築と評価」(研究代表者: 中野正俊), 研究代表者 (2012~2014年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年10月15日~11月9日, 教育実習生受け入れ.

【受賞など】

第61回読売教育賞優秀賞(理科教育部門)、平成24年度滋賀県教育会教育研究奨励賞, 2012年7月, 「自然を愛する心情と学ぶ意欲を育む博物館・学校・地域住民連携」の活動が評価された.

印刷物

【専門分野の著作】

林 博通（2012）大津宮「内裏南門」地中梁説への疑問. *淡海文化財論叢*, 4, 淡海文化財論叢刊行会 : 119-121.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

古代瓦研究会, 幹事.

条里制・古代都市研究会, 役員（庶務）.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

湖底遺跡調査の資料整理.

印刷物

【学术论文】

- Li, L., Zhu, W., Dai, X., and Xiao, M. (2012) Effects of continuous water flow on growth of the *Microcystis aeruginosa* under different media. *International Journal of Digital Content Technology and its Applications*, 6(5), Advanced Institute of Convergence Information Technology: 324-333.
- Xu, Z., Zhu, W. and Li, M. (2012) Influence of moisture content on the direct gasification of dewatered sludge via supercritical water. *International Journal of Hydrogen Energy*, 37(8), Elsevier: 6527-6535.
- Zhang, H., Zhu, W., Xu, Z. and Gong, M. (2012) Distributions of carbon nitrogen and phosphorus in the products from SCWG of cyanobacteria. *Advanced Materials Research*, 518-523, Trans Tech Publications : 326-331.
- Li, M., Zhu, W., Gao, L. and Lu, L. (2012) Changes in extracellular polysaccharide content and morphology of *Microcystis aeruginosa* at different specific growth rates. *Journal of Applied Phycology*, Springer (published online).
- 陈云敏·施建勇·朱伟·詹良通 (2012) 环境岩土工程研究综述. *土木工程学报*, 45(4), 中国土木工程学会: 165-182.
- 黄英豪·朱伟·周宣兆·张春雷 (2012) 固化淤泥压缩特性的试验研究. *岩土力学*, 33(10), 中国科学院武汉岩土力学研究所: 2923-2928.
- 李林·朱伟 (2012) 连续水流和间歇水流对微囊藻生长的影响. *环境科学与技术*, 35(10), 湖北省环境科学研究院: 34-37, 41.
- 李林·朱伟 (2012) 不同光照条件下水流对铜绿微囊藻生长的影响. *湖南大学学报(自然科学版)*, 39(9), 湖南大学: 87-92.
- 李林·朱伟·罗永刚 (2012) 钙、镁离子在水流作用下对铜绿微囊藻生长的影响. *环境科学与技术*, 35(5), 湖北省环境科学研究院: 9-13.
- 张云慧·朱伟·董婵 (2012) 利用生物膜强化表流湿地处理农村生活污水的试验. *湖泊科学*, 24(6), 中国科学院南京地理与湖泊研究所·中国海洋湖沼学会: 838-842.
- Hua, G., Zhu, W. and Zhang, Y. (2013) Effects of solubilization treatment and intermittent operation on clogging in vertical flow constructed wetland. *Third International Conference on Intelligent System Design and Engineering Applications (ISDEA)*, IEEE: 696-699.
- Li, L., Zhu, W., Wang, T., Luo, Y., Chen, F. and Tan, X. (2013) Effect of fluid motion on colony formation in *Microcystis aeruginosa*. *Water Science and Engineering*, 6(1), Editorial office of Water Science and Engineering: 106-116.
- Li, M. and Zhu, W. (2013) The effects of turbulence on the polysaccharides content and colony formation of microcystis under different nutrition conditions. *Advanced Materials Research*, 610-613, Trans Tech Publications: 25-30.
- Xu, Z., Zhu, W., Li, M., Zhang, H. and Gong, M. (2013) Quantitative analysis of polycyclic aromatic hydrocarbons in solid residues from supercritical water gasification of wet sewage sludge. *Applied Energy*, 102(0), Elsevier: 476-483.
- Lin, C., Zhu, W. and Han, J. (2013) Strength and leachability of solidified sewage sludge with different additives. *Journal of Materials in Civil Engineering*, American Society of Civil Engineering (published online).

総合研究・共同研究による印刷物

- Ferrari, F. D. and Grygier, M. J. (2012) Variability of trunk limbs along the anterior/posterior body axis of juvenile and adult *Lynceus biformis* (Ishikawa, 1895) (Branchiopoda, Laevicaudata, Lynceidae). *Crustaceana*, 85 (3), Koninklijke Brill NV: 265-278.
- 広瀬雅人 (2012) 日本産淡水コケムシ類の分類と同定. *タクサ 日本動物分類学会誌*, 33, 日本動物分類学会: 17-32.
- Hoshina, R., Sato, E., Shibata, A., Fujiwara, Y., Kusuoka, Y. and Imamura, N. (2013; 電子出版は 6 Dec 2012) Cytological, genetic, and biochemical characteristics of an unusual non-*Chlorella* photobiont of *Stentor polymorphus* collected from an artificial pond close to the shore of Lake Biwa, Japan. *Phycological Research*. 61 (1), 日本藻類学会: 7-14.
- Kakioka, R., Kokita, T., Tabata, R., Mori, S. and Watanabe, K. (2012) (in press, online first) The origins of limnetic forms and cryptic divergence in *Gnathopogon* fishes (Cyprinidae) in Japan. *Environ. Biol. Fish.* DOI: 10.1007/s10641-012-0054-x.
- 金尾滋史・松田征也・前畑政善 (2012) 琵琶湖のタナゴ類: その現状と保全. *魚類学雑誌*, 59(1) : 75-78.
- 金尾滋史 (2012) フナが結ぶ琵琶湖と田んぼ、そしてヒト. *科学*, 82(8) : 889-890.
- Karanovic, T., Grygier, M. J. and Lee, W. (2013) Endemism of subterranean *Diacyclops* in Korea and Japan, with descriptions of seven new species of the *languidoides*-group and redescriptions of *D. brevifurcus* Ishida, 2006 and *D. suoensis* Ito, 1954 (Crustacea, Copepoda, Cyclopoida). *Zookeys*, 267, Pensoft Publishers: 1-76.
- Karanovic, T. and Krajicek, M. (2012) First molecular data on the Western Australian *Diacyclops* (Copepoda, Cyclopoida) confirm morpho-species but question size differentiation and monophyly of the *alticola*-group. *Crustaceana*. 85 (12-13), Koninklijke Brill NV: 1549-1569.
- Karanovic, T. and Lee, W. (2012) A new species of *Parastenocaris* from Korea, with a redescription of the closely related *P. biwae* from Japan (Copepoda: Harpacticoida: Parastenocarididae). *Journal of Species Research*. 1 (1), The National Institute of Biological Resources: 1-34.
- Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, H. eds. (2012) *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*. Springer, Dordrecht: i-xvii + 12 unpaginated + 1-744 (その一部) .
- 岡坂 遼・石川智由希・金尾滋史 (2012) 霊仙山一風洞におけるハコネサンショウウオ *Onychodactylus japonicus* の確認記録. *滋賀自然環境研究会誌*, 10, 滋賀自然環境研究会 : 29-32.
- Olesen, J., Fritsch, M. and Grygier, M. J. (2013) Larval development of Japanese “conchostracans” : Part 3, larval development of *Lynceus biformis* (Crustacea, Branchiopoda, Laevicaudata) based on scanning electron microscopy and fluorescence microscopy. *Journal of Morphology*, 274 (2), Wiley: 229-242.
- Rogers, D. C., Rabet, N, and Weeks, S. C. (2012) Revision of the extant genera of Limnadiidae (Branchiopoda: Spinicaudata). *Journal of Crustacean Biology*. 32 (5), Koninklijke Brill NV: 827-842.
- 鈴木隆仁 (2013) 日本で見られる様々なイタチムシ. *タクサ 日本動物分類学会誌*, 34, 日本動物分類学会 : 11-17.
- Tabata, R. and K. Watanabe (2012) (in press, online first) Hidden mitochondrial DNA divergence in the Lake Biwa endemic goby *Gymnogobius isaza*: implications for its evolutionary history. *Environ. Biol. Fish.* DOI: 10.1007/s10641-012-0062-x .
- 上野篤史・金尾滋史・久米 学・近 雅博 (2012) 滋賀県犬上川下流域におけるハリヨ *Gasterosteus aculeatus microcephalus* の季節消長と生息場所利用. *地域自然史と保全*, 34(1) : 3-12.
- Urabe, M., Nishimura, T. and Shimazu, T. (2012) Taxonomic revision of three species of the genus *Genarchopsis* (Digenea: Hemiuroidea: Derogenidae) in Japan by molecular phylogenetic analyses. *Parasitology International*, 61, Elsevier: 554-560.
- Vdacny, P. and Foissner, W. (2012) Monograph of the dileptids. *Denisia*. 31, Oberösterreichisches

- Landesmuseum : 1-529 (特に *Pelagodileptus*, pp. 451-465) .
- Watanabe, K. (2012) Faunal structure of Japanese freshwater fishes and its artificial disturbance. *Environ. Biol. Fish.*, 94: 533-547.
- Li, L., Zhu, W., Dai, X., and Xiao, M. (2012) Effects of continuous water flow on growth of the *Microcystis aeruginosa* under different media. *International Journal of Digital Content Technology and its Applications*, 6(5), Advanced Institute of Convergence Information Technology: 324-333.
- Xu, Z., Zhu, W. and Li, M. (2012) Influence of moisture content on the direct gasification of dewatered sludge via supercritical water. *International Journal of Hydrogen Energy*, 37(8), Elsevier: 6527-6535.
- Zhang, H., Zhu, W., Xu, Z. and Gong, M. (2012) Distributions of carbon nitrogen and phosphorus in the products from SCWG of cyanobacteria. *Advanced Materials Research*, 518-523, Trans Tech Publications : 326-331.
- 李林・朱伟 (2012) 连续水流和间歇水流对微囊藻生长的影响. *环境科学与技术*, 35(10), 湖北省环境科学研究院 : 34-37, 41.
- Nakai, K. (2012) Countermeasures against invasive non-indigenous species. *Ditto*: 475.
- Nakai, K. (2012) Regulations and control of invasive non-indigenous species. *Ditto*: 477-484.
- 河瀬直幹 (2012) 「滋賀のトンボ」調査だより. *Macromia (トンボ研究会連絡誌)*, 179 : 7-8.
- 亀甲武志・根本守仁・三枝 仁・澤田宣雄・石崎大介・中橋富久・寺本憲之・藤岡康弘 (2013) 稲作水田におけるゲンゴロウブナ *Carassius cuvieri* 仔稚魚の育成. *水産増殖*, 70 (1), 日本水産増殖学会 : 19-26.

2012 年度の研究活動をふり返って

琵琶湖博物館中長期基本計画では、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかることを目標としている。今年度は、統合研究による成果報告の講演等開催1回、地域の人びととともに行う研究調査成果の公表8件、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業20件が目標値であった。統合研究による成果報告の講演については、11月にシンポジウムを開催した。地域の人びととともに行う研究調査成果の公表は7件、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業は19件（科研費16件、その他助成3件）でほぼ目標値を達成した。

また、科学研究費などの外部資金の獲得を組織的に取り組んでおり、今年度科学研究費については、新規が1件、継続が10件であった。今後も科研費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけは継続していくとともに、新規の採択率をあげていく必要がある。

研究の発信は、途中集計ではあるが学术论文26件、専門分野の著述73件、一般向けの著述42件、学会発表は60件であり、学术论文は前年を数では上回った。特筆すべき成果として琵琶湖の自然・文化を世界に紹介する英語の書籍『Lake Biwa: Interactions between Nature and People』（琵琶湖－自然と人間の関わり－）の出版がある。この本において多くの学芸職員が専門分野について執筆し、研究成果を世界に向けて発信した。論文等による研究成果の発信数には、依然として個人差があるが、あらゆる媒体や方法を使って発信をしていきたい。中日新聞連載コラム「湖岸より」、毎日新聞連載コラム「ここだけの湖の話」などへの執筆を続けているが、今後も、研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えることを継続するとともに、その充実を図っていきたい。

また、本年度は、昨年度の新琵琶湖学セミナーに続き、新琵琶湖学セミナー「ミクロの世界、マクロの世界から学ぶ湖と人間の関わり」と題したやや専門的な一般向けの講座を開催した。今回のセミナーでは、湖と人間の世界を実生活と異なった空間的スケールで探求し、琵琶湖とそれを取り巻く現象と人間の関わりを知ることが目的であった。博物館の閑散期にあたる1月と2月の計5日間にわたって、内部・外部の講師による11本の発表を行った。合計296名の参加があり、好評であった。今後も、湖と人の関わりについて視点を変えて探求していくセミナーの開催が望まれる。

研究部長 八尋克郎

琵琶湖博物館業績目録 第 17 号

2012 年度

平成 25 年 (2013 年) 10 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091

電話 077-568-4811(代)